

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	会計学Ⅰ (Accounting Ⅰ)						科目分類	専門科目	
担当教員	上野 清貴								
履修条件	前提科目	簿記論Ⅰ・Ⅱ							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>会計学Ⅰでは、会計の意義と領域、会計の法的制度、会計の基本構造、利益計算の基本原則をまず解説する。これまでは会計学の総論であるが、次に、会計学の各論を解説する。それは、現金・預金と金銭債権の会計、有価証券の会計および棚卸資産の会計である。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>会計学Ⅰおよび次の会計学Ⅱは、最新の会計基準や会計法を取り扱いつつ、会計の意義から考察を始めて、貸借対照表および損益計算書における各項目の会計処理を一般的に理解し、会計手続の最終段階である財務諸表を正式に作成できるようにすることを目標としている。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	会計の意義と領域 (1) 会計の意義を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
2	会計の意義と領域 (2) 財務会計と管理会計など、会計の領域を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
3	会計の法的制度 (1) 会計の規制に関する法律を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
4	会計の法的制度 (2) 金融商品取引法会計等を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
5	会計の基本構造 (1) 会計公準を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
6	会計の基本構造 (2) 企業会計原則の趣旨と歴史を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
7	会計の基本構造 (3) 企業会計原則の一般原則を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
8	利益計算の基本原則 (1) 財産法と損益法を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
9	利益計算の基本原則 (2) 資産負債観と収益費用観を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
10	現金・預金と金銭債権の会計 (1) 現金・預金の会計処理を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
11	現金・預金と金銭債権の会計 (2) 金銭債権の会計処理を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
12	有価証券の会計 (1) 有価証券の意義と分類を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
13	有価証券の会計 (2) 有価証券の会計処理を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
14	棚卸資産の会計 (1) 棚卸資産の意義と範囲を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
15	棚卸資産の会計 (2) 棚卸資産の会計処理を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
教本： 上野清貴著『財務会計の基礎（第5版）』中央経済社					参考文献：				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>小テスト・レポート等（80%）、定期試験（20%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>電卓を用意すること（スマホなどの電卓は認めない）。日々の予習復習を怠らないこと。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

か

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	会計学Ⅰ (Accounting I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高橋 琢也								
履 修 条 件	前提科目	簿記論Ⅰ・Ⅱ							
	その他	なし							
<p>授業概要： 会计学Ⅰ・Ⅱでは、財務会計について取り扱う。財務会計は、企業が、外部の利害関係者に対して財務諸表等の財務情報を報告する会計領域である。企業の作成する財務諸表に対する理解を深めるようにする。</p>									
<p>授業目標： 会計の意義や役割、個別論点における処理と知識について理解することを目標にする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	会計の種類と制度会計 会計の種類と制度会計について解説する。					事前：シラバスを読む 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
2	財務会計（外部報告会計）の役割 意思決定有用性、財務情報の提供について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
3	財務諸表と会計等式 財務諸表の特質と財務諸表の等式について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
4	利益計算 利益計算に関わる概念や考えについて解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
5	基本的な会計原則と資産評価 会計の基本的な原則と資産評価について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
6	会社の設立と資金調達（資本） 会社の設立と資本による資金調達について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
7	資金調達（負債） 負債（借入れ、社債）による資金調達について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
8	営業循環と棚卸資産の仕入れ 営業循環と棚卸資産（商品）の取得原価について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
9	原価計算 製造業における製造原価の決定（原価計算）について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
10	生産活動 企業が行う生産活動について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
11	収益認識基準と売上原価の決定 収益認識基準と売上原価の決定について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
12	売上債権と棚卸資産の期末評価 売上債権と棚卸資産の期末評価について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
13	有形固定資産 有形固定資産について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
14	無形固定資産（無形固定資産・投資その他の資産） 無形固定資産と投資その他の資産について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
15	問題演習 前期授業内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
<p>教本： 桜井久勝 他『財務会計・入門』（最新版）、有斐閣アルマ。</p>					<p>参考文献： 適宜、指示する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準： 試験（100％）で評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 電卓を用意すること（スマホなどの電卓は認めない）。日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	会計学Ⅱ (Accounting Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担当教員	上野 清貴								
履修条件	前提科目	会計学Ⅰ 簿記論Ⅰ・Ⅱ							
	その他	なし							
授業概要： 会計学Ⅱでは、主として会計学の各論を解説する。具体的には、有形固定資産の会計、無形固定資産と投資その他の資産の会計、繰延資産の会計、負債の会計、純資産の会計、収益と費用の会計を解説する。最後に、財務諸表の作成を解説する。									
授業目標： 会計学Ⅱおよび前の会計学Ⅰは、最新の会計基準や会計法を取り扱いつつ、会計の意義から考察を始めて、貸借対照表および損益計算書における各項目の会計処理を全般的に理解し、会計手続の最終段階である財務諸表を正式に作成できるようにすることを目標としている。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	有形固定資産の会計(1) 有形固定資産の意義と範囲を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
2	有形固定資産の会計(2) 有形固定資産の減価償却を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
3	無形固定資産と投資その他の資産の会計(1) 無形固定資産の意義と範囲を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
4	無形固定資産と投資その他の資産の会計(2) 投資その他の資産の意義と範囲を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
5	繰延資産の会計(1) 繰延資産の意義と範囲を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
6	繰延資産の会計(2) 繰延資産の会計処理を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
7	負債の会計(1) 負債の意義と分類を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
8	負債の会計(2) 引当金と社債の会計処理を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
9	純資産の会計(1) 純資産の意義と分類を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
10	純資産の会計(2) 純資産の会計処理を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
11	収益と費用の会計(1) 収益と費用の意義と分類を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
12	収益と費用の会計(2) 収益認識基準の適用を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
13	財務諸表の作成(1) 貸借対照表と損益計算書を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
14	財務諸表の作成(2) 株主資本等変動計算書を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
15	財務諸表の作成(3) キャッシュ・フロー計算書を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
教本： 上野清貴著『財務会計の基礎（第5版）』中央経済社					参考文献：				
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等（80%）、定期試験（20%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 電卓を用意すること（スマホなどの電卓は認めない）。日々の予習復習を怠らないこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	会計学Ⅱ (Accounting II)						科目分類	専門科目	
担当教員	高橋 琢也								
履修条件	前提科目	会計学Ⅰ							
	その他	なし							
授業概要： 会計学Ⅰ・Ⅱでは、財務会計について取り扱う。財務会計は、企業が、外部の利害関係者に対して財務諸表等の財務情報を報告する会計領域である。企業の作成する財務諸表に対する理解を深めるようにする。									
授業目標： 会計の意義や役割、個別論点における処理と知識について理解することを目標にする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	現金預金と有価証券 現金預金と有価証券について解説する。					事前：前期復習ノートの確認 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
2	キャッシュ・フロー キャッシュ・フローについて解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
3	外貨換算会計1（基礎） 外貨に係る論点について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
4	外貨換算会計2（応用） 在外支店や在外子会社がある場合について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
5	税金 確定決算主義と法人3税について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
6	配当 配当に係る規定や処理について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
7	財務諸表1（財務諸表と原則） 財務諸表に係る原則について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
8	財務諸表2（財務諸表の特質） 財務諸表の特質について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
9	連結会計1（連結会計の基礎） 連結会計の基礎について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
10	連結会計2（連結財務諸表） 連結財務諸表について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
11	財務諸表と経営分析1（安全性分析1） 財務諸表を用いた短期の安全性分析について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
12	財務諸表と経営分析2（安全性分析2） 財務諸表を用いた長期の安全性分析について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
13	財務諸表と経営分析3（収益性分析1） 財務諸表を用いた収益性分析（ROE）について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
14	財務諸表と経営分析4（収益性分析2） 財務諸表を用いた収益性分析（ROA）について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
15	問題演習 後期授業内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
教本： 桜井久勝 他『財務会計・入門』（最新版）、有斐閣アルマ。					参考文献： 適宜、指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 試験（100％）で評価する。									
学生へのアドバイス： 電卓を用意すること（スマホなどの電卓は認めない）。日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	外国史 (History of the World)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	伊藤 幹彦								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：基礎的な外国史。授業の内容：1. アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学びの学習法）型授業を通じて生きる力（自ら考えて問題を解決する力、他者を思いやる心（感情の知性）、健康の知・徳・体）を育む。インターアクションで自己肯定感を高める。2. 多元的で情熱的でアンケートで改善する学習者中心主義の授業。3. 知識+討論+思考=独創性開発。4. 成功哲学（信念をもち、努力すれば、必ず勉強はできるようになる）。5. わかりやすい。6. ICT（情報通信技術）でやる気にさせる。7. Albert Banduraの社会的学習理論の自己効力感（self-efficacy）の達成経験、言語的説得、代理体験、心理的情緒高揚で成績を高める。8. 夢（Dreams come true. 夢が叶う）と目標を達成させる。</p> <p>授業目標：基礎レベルの外国史。本授業のテーマは外国史（世界史）で基礎レベルの古代史、中世史、近世史、近代史、現代史のグローバル・ヒストリーである。グローバル・ヒストリーは、オリエント世界、地中海世界、南アジア世界、アメリカ世界、内陸アジア世界、東アジア世界、イスラーム世界、東南アジア世界、ヨーロッパ世界、アフリカ世界の異文化間の交流ネットワークである。到達目標は外国史をグローバル・ヒストリーとしてとらえ、日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や外国文化尊重の大切さについての自覚を深めるようになることである。授業の目標：1. 外国史の歴史的な考え方ができるようにさせ、外国史の課題を追究させ、解決させ、平和で民主的な公民を育成させる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
◎				○					
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	(基礎) 外国史の目次の説明（古代史、中世史、近世史、近代史、現代史）をする。自己紹介をする。				事前：教科書の目次の下読みをする。 事後：教科書の目次をノートに書く。			講義説明 40分。 口頭 Q&A 10分。 アンケート 10分。 自己紹介 30分。	
2	文明の成立と古代文明の特質について説明する。口頭 Q&A をする。アンケートをする。				事前：文明の成立と古代文明の特質の下読みをする。 事後：文明の成立と古代文明の特質のポイントを書く。			講義説明 20分。 口頭 Q&A 60分。 アンケート 10分。	
3	中央ユーラシアと東アジア世界について説明する。口頭 Q&A をする。アンケートをする。				事前：中央ユーラシアと東アジア世界の下読みをする。 事後：中央ユーラシアと東アジア世界のポイントを書く。			講義説明 20分。 口頭 Q&A 60分。 アンケート 10分。	
4	南アジア世界と東南アジア世界の展開について説明する。口頭 Q&A をする。アンケートをする。				事前：南アジア世界と東南アジア世界の展開の下読みをする。 事後：南アジア世界と東南アジア世界の展開のポイントを書く。			講義説明 20分。 口頭 Q&A 60分。 アンケート 10分。	
5	西アジアと地中海周辺国家形成について説明する。口頭 Q&A をする。アンケートをする。第1回小テストを行う。				事前：西アジアと地中海周辺国家形成の下読みをする。 事後：西アジアと地中海周辺国家形成のポイントを書く。			講義説明 30分。 小テスト 60分。	
6	イスラーム教と西アジアの動向について説明する。ディスカッションを行う。口頭 Q&A をする。				事前：イスラーム教と西アジアの動向の下読みをする。 事後：イスラーム教と西アジアの動向のポイントを書く。			講義説明 80分。 口頭 Q&A 10分。	
7	ヨーロッパ世界の変容と展開について説明する。口頭 Q&A をする。				事前：ヨーロッパ世界の変容と展開の下読みをする。 事後：ヨーロッパ世界の変容と展開のポイントを書く。			講義説明 80分。 口頭 Q&A 10分。	
8	東アジア世界の展開と大交易・大交流の時代について説明する。口頭 Q&A をする。				事前：東アジア世界の展開と大交易・大交流の時代の下読みをする。 事後：東アジア世界の展開と大交易・大交流の時代のポイントを書く。			講義説明 80分。 口頭 Q&A 10分。	
9	アジアの諸帝国の繁栄について説明する。口頭 Q&A をする。				事前：アジアの諸帝国の繁栄の下読みをする。 事後：アジアの諸帝国の繁栄のポイントを書く。			講義説明 80分。 口頭 Q&A 10分。	
10	近世ヨーロッパ世界の動向について説明する。第2回小テストを行う。				事前：近世ヨーロッパ世界の動向の下読みをする。 事後：近世ヨーロッパ世界の動向のポイントを書く。			講義説明 30分。 小テスト 60分。	
11	産業革命と環大西洋革命について説明する。口頭 Q&A をする。				事前：産業革命と環大西洋革命の下読みをする。 事後：産業革命と環大西洋革命のポイントを書く。			講義説明 80分。 口頭 Q&A 10分。	
12	イギリスの優位と欧米国民国家について説明する。口頭 Q&A をする。				事前：イギリスの優位と欧米国民国家の下読みをする。 事後：イギリスの優位と欧米国民国家のポイントを書く。			講義説明 80分。 口頭 Q&A 10分。	
13	アジア諸地域の動揺と帝国主義について説明する。口頭 Q&A をする。				事前：アジア諸地域の動揺と帝国主義の下読みをする。 事後：アジア諸地域の動揺と帝国主義のポイントを書く。			講義説明 80分。 口頭 Q&A 10分。	
14	第一次世界大戦と第二次世界大戦について説明する。口頭 Q&A をする。				事前：第一次世界大戦と第二次世界大戦の下読みをする。 事後：第一次世界大戦と第二次世界大戦のポイントを書く。			講義説明 80分。 口頭 Q&A 10分。	
15	冷戦と今日の世界について説明する。(基礎) 外国史のまとめをする。				事前：冷戦と今日の世界の下読みをする。 事後：冷戦と今日の世界のポイントをノートに書く。			講義説明 60分。 口頭 Q&A 20分。 アンケート 10分。	
<p>教本： 木村靖二、岸本美緒、小松久男、橋場弦(著)、『世界史 探究 詳説世界史』、山川出版社、2023年3月出版、ISBN 978-4-634-70131-1、¥860。</p> <p>参考文献： 川北稔、桃木至朗(監)、帝国書院編集部(編)、『最新世界史図説タバストーリー十七訂版』、帝国書院、2019年、¥957。</p> <p>世界史小辞典編集委員会(編)、『山川世界史小辞典(改訂新版)』、山川出版社、2011年、¥3,080。</p>									
成績評価の方法、評価基準：第15回目の授業時締めきりの期末小論文（40%）、授業への寄与度や授業態度や小テストなどの平常点（60%）。									
<p>学生へのアドバイス：私伊藤幹彦が、自己効力理論で授業を行い、学生は主体的に学習し、実力がつく。1. 外国史の知識（頭脳の知性）向上。2. 自己効力感（私ができるというプラス思考）向上。3. 人間力（力強く生きていく力、目標達成力）向上。学生の皆さんにA4の紙を配り、アンケートとして、質問、意見、感想を書いてもらう。</p>									
オフィスアワー：初回講義日に伝える。									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	カウンセリング入門 (Introductory Counseling)						科目分類	専門科目	
担当教員	中村 淳子								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要： 私たちは人生の中で様々な問題に直面し、選択を迫られることがある。カウンセリングとは、このような誰でもが遭遇する進路選択や“心の健康”に関わる問題にアプローチし、援助する活動をいう。本講座では、カウンセリングの歴史的な背景や、様々な立場から生まれた理論及び技法（スキル）を習得し、よりよく生きるための「人間の心の健康」について考えていきたい。</p>									
<p>授業目標： 1. カウンセリングの意義や目的を理解し、実践への活用を考える。 2. 心理学を基盤としたカウンセリングの理論や技法（スキル）について習得し、人間発達における自身の問題解決（対処）や他者への援助について学んでいく。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	カウンセリングとは何か？一意義と目的					事前：シラバスの確認 事後：意義についてのまとめ		講義 70分 ディスカッション 20分	
2	カウンセリングの歴史一起源と発展					事前：資料を読む 事後：歴史についてのまとめ		講義 60分 振り返り 30分	
3	臨床心理学とカウンセリングの関係ー心理療法とカウンセラー					事前：資料を読む 事後：心理療法のまとめ		講義 60分 振り返り 30分	
4	カウンセリングの理論と技法 (1)ー精神分析的カウンセリング①					事前：資料を読む 事後：精神分析理論のまとめ		講義 70分 振り返り 20分	
5	カウンセリングの理論と技法 (1)ー精神分析的カウンセリング②					事前：資料を読む 事後：精神分析技法のまとめ		講義 30分 事例討議 60分	
6	カウンセリングの理論と技法 (2)ークライアント中心療法的カウンセリング①					事前：資料を読む 事後：来談者理論まとめ		講義 70分 振り返り 20分	
7	カウンセリングの理論と技法 (2)ークライアント中心療法的カウンセリング②					事前：資料を読む 事後：来談者技法のまとめ		講義 30分 演習 60分	
8	カウンセリングの理論と技法 (3)ー行動療法的カウンセリング①					事前：資料を読む 事後：行動療法理論まとめ		講義 70分 振り返り 20分	
9	カウンセリングの理論と技法 (3)ー行動療法的カウンセリング②					事前：資料を読む 事後：行動療法技法まとめ		講義 30分 事例討議 60分	
10	カウンセリングの理論と技法 (4)ー認知行動療法①					事前：資料を読む 事後：認知行動理論まとめ		講義 70分 振り返り 20分	
11	カウンセリングの理論と技法 (4)ー認知行動療法②					事前：資料を読む 事後：認知行動技法まとめ		講義 30分 事例討議 60分	
12	カウンセリングの理論と技法 (5)ープレイセラピー、箱庭療法、芸術療法					事前：資料を読む 事後：遊戯療法他まとめ		講義 40分 演習 50分	
13	カウンセリングの理論と技法 (6)ー森田療法、内観法					事前：資料を読む 事後：森田療法他まとめ		講義 70分 振り返り 20分	
14	カウンセリングの理論と技法 (7)ー家族療法、集団療法					事前：資料を読む 事後：集団療法他まとめ		講義 50分 演習 40分	
15	カウンセラーの資格と倫理ーまとめ					事前：資料を読む 事後：本講義のまとめ		講義 70分 学習の評価 20分	
教本： 使用しない。適宜、参考資料を配布。					参考文献： 平木典子他編著 カウンセリングの基礎 北樹出版 ¥2,400				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（40%）、定期試験（30%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 授業では、一方的な講義ではなく、グループ討議や単元によっては前もって発表者を決めておき、プレゼンテーションを行ってもらいたいこともある。積極的な授業への参加を希望する。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	家 族 心 理 学 (Psychology of Family)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	水 本 深 喜								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 個人の「こころ」は、その家族の歴史、現在の家族関係と切り離して考えることはできない。本講義では、個人を家族との関係から捉え、家族が形成されてから発達して行く過程、その過程で生じうる家族メンバーの相互作用や心理臨床的問題、支援法を学ぶ。									
授 業 目 標 : 本講義の目標は、個人を家族との関係から理解し、支援するための基礎的な知識を得ることである。これにより、心理臨床の場における支援対象者の理解・支援の手がかりを得ることができる。さらに、身近な存在であるがゆえに客観視することが難しい家族との関係について心理学の理論に基づいて考えていくことは、他者理解のみでなく自己理解を深めることにも繋がると期待される。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション、ジェノグラム					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義 40分、 グループワーク 50分	
2	家族システム理論					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分	
3	家族をシステムから捉え、家族の問題を考える					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分	
4	独身の若い成人期、結婚による家族の成立期					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分	
5	家族をシステムから捉え、家族の問題を考える					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分	
6	小学生の子ども、若者世代とその家族					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分	
7	自立とは？ 親からの精神的自立					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分	
8	老年期の家族					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分	
9	家族への臨床的アプローチ					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分	
10	リフレーミング					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分	
11	夫婦関係の危機と援助					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分	
12	児童虐待					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分	
13	家族が経験するストレスと援助					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分	
14	現代の家族の問題（発表会）					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分	
15	事例検討：不登校の事例					事前：授業全般の復習 事後：理解の補完		講義	
教 本 : 平木典子『家族の心理—家族への理解を深めるために』第2版 サイエンス社					参 考 文 献 : 中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子『家族心理学：家族システムの発達と臨床的援助』有斐閣ブックス				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授業参加状況等 (50%)、テスト (50%) で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 講義には、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れる。毎回の講義終了時には、コメントペーパーに講義内容から考えたことを書いて提出していただく。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	家族法 (Family Law)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	上地 一郎								
履 修 条 件	前提科目	私法学Ⅰ／私法学Ⅱ／物権法							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本講義では、民法第四編親族を中心に講義を行ないます。親族法の基礎理論、婚姻、離婚、親子、養子、扶養等を中心に親族法が主要なテーマとなります。これらを学習することを通して、法学的な客観的視点で事象を分析し、問題を発見する能力、論理的思考力を養うことを目的としています。									
授業目標： 親族法の基本的な知識を習得し、ならびに親族法の主要な法律問題を説明できるようになること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態		
1	オリエンテーション			事前：なし 事後：配布資料の見直し			講義60分 質疑応答30分		
2	家族法総論			事前：日本の家族法の特徴について調べる。 事後：日本の家族法の特徴、紛争解決手続をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
3	婚姻(1) 総説/婚姻の効果(1) 人格的效果			事前：婚姻の効果について調べる。 事後：婚姻の効果についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
4	婚姻(2) 婚姻の効果(2) 財産上の効果			事前：婚姻による財産上の効果について調べる。 事後：婚姻による財産上の効果についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
5	婚姻(3) 婚姻の成立(1) 実質的要件—意思の合致/婚姻意思の内/意思の存在期間/婚姻届作成後の翻意			事前：婚姻成立の実質的要件について調べる。 事後：婚姻届作成後の翻意についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
6	婚姻(3) 婚姻の成立(2) 実質的要件—適齢に達したこと/重婚でないこと/再婚期間禁止を過ぎていることなど			事前：再婚禁止期間について調べる。 事後：婚姻成立の実質的要件の諸問題をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
7	離婚(1) 総説/現代離婚法の争点			事前：婚姻の解消原因について調べる。 事後：日本の離婚の要件についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
8	離婚(1) 離婚の方法(1) 協議離婚			事前：協議離婚について調べる。 事後：協議離婚についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
9	離婚(2) 離婚の方法(2) 裁判離婚			事前：裁判離婚について調べる。 事後：日本の裁判離婚の特徴についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
10	親子(1) 嫡出子/非嫡出子			事前：嫡出子/非嫡出子について調べる。 事後：嫡出子/非嫡出子の問題についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
11	親子(2) 親子の効果			事前：親権とは何かを調べる。 事後：親権の内容/要件/終了についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
12	養子(1) 養子制度/成立/縁組の無効・取消			事前：養子制度の概要について調べる。 事後：養子の成立/縁組の無効・取消しについてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
13	養子(2) 縁組の効果/離縁/特別養子			事前：縁組の効果について調べる。 事後：特別養子縁組についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
14	扶養			事前：扶養法の問題点について調べる。 事後：扶養の諸問題についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
15	氏と戸籍			事前：氏と戸籍の関係について調べる。 事後：夫婦の氏の問題についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
教本： とくになし（資料を配布します）。						参考文献： 授業中に適宜指示します。			
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 法学は複雑な現代社会をひもとき、理解するための一つの道具でもあります。日常的に社会の問題に目を配り、何が問題なのかを考えるために、法学を自分の分析の道具としてもらいたいと思います。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	神奈川文化論 (Cultural Analysis of KANAGAWA)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	飯島祥二、川口 修、小林 克								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	1 回目から出席をすること。							
授業概要： 神奈川県とその周辺地域の歴史・文化等を多様な視点から紐解き、地域の文化・歴史のもつ複合性を学修する。本講義は3名の教員が担当しオムニバス形式で講義を進める。授業内容および計画の欄に（ ）担当教員を記載した。									
授業目標： 神奈川県とその近隣地域の歴史・文化等について多角的に学修することにより、神奈川県における今後のより良き文化の形成に資する基礎を学修する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（講義の進め方と「複合領域としての地域学（Regionology）」の意味・特性の説明（飯島）					事前：シラバスの確認 事後：テーマの探求		講義 90分	
2	神奈川の社会と文化（川口）					事前：テーマ関連資料の収集 事後：テーマの探求		講義 75分 小テスト 15分	
3	神奈川の水資源と地形（川口）					事前：テーマ関連資料の収集 事後：テーマの探求		講義 75分 小テスト 15分	
4	神奈川の名所旧跡・温泉・名産品（川口）					事前：テーマ関連資料の収集 事後：テーマの探求		講義 75分 小テスト 15分	
5	神奈川の経済と工業製品（川口）					事前：テーマ関連資料の収集 事後：テーマの探求		講義 75分 小テスト 15分	
6	神奈川の歴史と文化①旧石器時代～古墳時代（小林）					事前：テーマ関連資料の収集 事後：テーマの探求		講義 75分 小テスト 15分	
7	神奈川の歴史と文化②古代～中世（小林）					事前：テーマ関連資料の収集 事後：テーマの探求		講義 75分 小テスト 15分	
8	神奈川の歴史と文化③近世～近・現代（小林）					事前：テーマ関連資料の収集 事後：テーマの探求		講義 75分 小テスト 15分	
9	神奈川の信仰と民俗（小林）					事前：テーマ関連資料の収集 事後：テーマの探求		講義 75分 小テスト 15分	
10	神奈川の「文化と環境、文化とツーリズム」（飯島）					事前：テーマ関連資料の収集 事後：テーマの探求		講義 75分 小テスト 15分	
11	神奈川の「沖積台地と洪積平野」（地形・生活環境）（飯島）					事前：テーマ関連資料の収集 事後：テーマの探求		講義 75分 小テスト 15分	
12	神奈川の「八景：金澤八景」（風景の見方の系譜）（飯島）					事前：テーマ関連資料の収集 事後：テーマの探求		講義 75分 小テスト 15分	
13	神奈川の「文化資源への眼差し」（藤沢遊行寺と大山）（飯島）					事前：テーマ関連資料の収集 事後：テーマの探求		講義 75分 小テスト 15分	
14	神奈川の「観光文化資源の在り方」（箱根：観光資源のポートフォリオ性）（飯島）					事前：テーマ関連資料の収集 事後：テーマの探求		講義 75分 小テスト 15分	
15	神奈川の「外国人のみた街道・旅の文化」（飯島）					事前：テーマ関連資料の収集 事後：テーマの探求		講義 75分 小テスト 15分	
教本： 授業ごとにプリントを配布する。					参考文献： 適時指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 平常点（20%）、小テスト等（80%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 3名の担当教員で行うオムニバス授業のため講義形式、実施順等の変更があることもある。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。各講義担当教員より伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選 択 ・ 必 修	必 修 (保 育)	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	体で遊ぶ (身体表現) (Physical Expression)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	中 村 リヨ								
履 修 条 件	前 提 科 目	特になし							
	そ の 他	特になし							
授 業 概 要 : 領域「表現」のねらい、身体表現の指導に関する幼児の表現や発達段階、身体能力を理解するとともに、幼児の多様な身体表現・遊び・環境構成など、保育者としての専門的知識や表現力を身に付ける。									
授 業 目 標 : 保育者を目指す学生自身の身体表現力を高めるとともに、現場での身体表現活動に関する基礎知識を理解し、演習や発表を通して現場で活かせる技能の習得を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス (授業の進め方、評価方法の説明、自己紹介)					事前：シラバスの確認 事後：友達の自己紹介を覚えておく		講義 40分、実技 50分	
2	領域「表現」について (ねらいと内容)					事前：領域「表現」を読む 事後：ねらいと内容を復習		講義 60分、 グループワーク 30分	
3	身体表現について (様々な歩き方)					事前：身体表現の経験を振り返っておく 事後：様々な歩き方について理解する		講義 20分 実技 70分	
4	遊びと身体表現 (手あそびや身体遊び)					事前：手あそびについて調べる 事後：振り返りをノートにまとめる		講義 20分 実技 70分	
5	遊びと身体表現 (いろいろなじゃんけん)					事前：じゃんけんの種類を調べる 事後：振り返りをノートにまとめる		講義 20分 実技 70分	
6	遊びと身体表現 (歌に合わせて)					事前：遊びうたについて調べておく 事後：振り返りをノートにまとめる		講義 20分 実技 70分	
7	変身を楽しむ表現 (動物ごっこ、忍者ごっこ)					事前：動物の動きを調べておく 事後：動きをノートにまとめる		講義 20分 実技 70分	
8	縄の遊びと表現 (縄の様々な動き)					事前：動きの種類を調べておく 事後：様々な動きをノートにまとめる		講義 20分 実技 70分	
9	保育者にふさわしい体づくり (様々なリズムの動き)					事前：リズムについて調べておく 事後：リズムの動きをノートにまとめる		講義 20分 実技 70分	
10	身体表現の作品創作 (グループごとに創作活動)					事前：学んだ動きを予習しておく 事後：創作した内容を復習しておく		講義 10分、 グループワーク 80分	
11	身体表現の作品創作 (グループごとに発表)					事前：創作した内容を予習しておく 事後：実践したものをノートにまとめる		講義 10分、 グループワーク 80分	
12	領域「表現」の内容を踏まえたパラバルーンの使い方を学ぶ					事前：パラバルーンについて調べておく 事後：基本的な扱いについて復習する		講義 20分 実技 70分	
13	身体表現の創作活動 (運動会集団演技：パラバルーン使用)					事前：創作した内容を予習しておく 事後：創作した動きを復習しておく		講義 10分、 グループワーク 80分	
14	身体表現の創作の作品発表 (パラバルーン)					事前：創作した内容を予習しておく 事後：発表の成果と課題をまとめる		講義 10分、 グループ発表 80分	
15	保育者の役割と授業のまとめ					事前：これまでの授業、演習を振り返る 事後：表現活動に関して意識する		講義 60分、 討論 30分	
教 本 : 特になし。適宜プリントを配付する					参 考 文 献 : 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(いずれも最新版)				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授業参加状況等 (50%)、表現創作と発表 (30%)、レポート課題 (20%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 講義と演習の科目である。主体的かつ積極的に参加する意欲が求められる。グループワークも多く、コミュニケーション力も大切となる。体育館シューズ及び運動着が必要。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	環境経営論 I (Environment Management I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	飯島 祥二								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>近年、地域的環境問題がクローズアップされ、各々の産業セクター・研究領域においてそれに対する対応が急務になっている。観光産業領域においても、その傾向が認められ、「持続可能観光(sustainable tourism)」というタームが確立しつつある。本講義は、「環境マネジメント」を基軸として「持続可能性が産業に与える影響」を論じ、「持続可能観光」の様相を説明する。当該講義のキーワードは、環境マネジメント、持続可能性、消費者行動、人間・環境系である。予習・復習に関しては講義において詳細に指示する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>(1) 環境マネジメントの概念と实例を理解する。 (2) 「持続可能観光」に関し環境マネジメントを通し理解する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習		講義 90 分	
2	環境概念の変遷 (1) 「人間と環境の関係性について説明する」 (人間・環境系において)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
3	環境概念の変遷 (2) 「具体的に種々環境について説明する」 (自然・社会環境領域において)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
4	観光領域の中での環境マネジメントの位置づけ (1) (観光学の全体的枠組みについて)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
5	観光領域の中での環境マネジメントの位置づけ (2) (旅行システムに関する考察)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
6	持続可能性の定義と各領域での応用 (1) (自然科学領域)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
7	持続可能性の定義と各領域での応用 (2) (社会・経済学領域)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
8	観光学における持続可能性の定義 (sustainable tourism の定義を巡って)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
9	持続可能観光と環境・観光マネジメント (1) (Eco tourism, Responssible tourism など巡って)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
10	持続可能観光と環境・観光マネジメント (2) (観光行動「環境配慮行動等について」)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
11	持続可能観光と環境・観光マネジメント (3) (環境・観光マネジメント領域での課題)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
12	わが国の環境政策史と観光産業の形態 (1) (観光行動、観光マーケティングを通して)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
13	わが国の環境政策史と観光産業の形態 (2) (環境・観光マネジメントを中心に)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
14	マストゥリズムとサステイナブルトゥリズム (その対比と持続可能観光における意味)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
15	まとめ					事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習		前回の確認 10 分、講義 80 分	
教本：					参考文献：				
特に指定しない。毎回資料を配布する。					適時、指示する。				
成績評価の方法、評価基準：									
授業参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス：									
環境マネジメントに関する観光学からのアプローチです。基礎的な内容を具体的に丁寧に説明します。									
オフィスアワー：									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	環 境 経 営 論 II (Environment Management II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	飯 島 祥 二								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>近年、地域的環境問題がクローズアップされ、各々の産業セクター・研究領域においてそれに対する対応が急務になっている。観光産業領域においても、その傾向が認められ、「持続可能観光(sustainable tourism)」というタームが確立しつつある。本講義は、「環境マネジメント」を基軸として「持続可能性が産業に与える影響」を論じ、「持続可能観光」の様相を説明する。当該講義のキーワードは、環境マネジメント、持続可能性、消費者行動、人間・環境系であり、講義は、「課題解決を目指すPBL的要素」を加えて実施する。また、予習・復習に関しては講義において詳細に指示する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>(1) 環境マネジメントの概念と実例を理解する。 (2) 観光領域からの持続可能性へのアプローチを理解し各領域への応用力を涵養する。 (3) 持続可能性の評価について「評価システム」を通して理解する。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習		講義90分	
2	環境・観光マネジメントと持続可能性 (1) (自然・工学領域)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
3	環境・観光マネジメントと持続可能性 (2) (社会経済領域)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義80分	
4	環境負荷とその課題 (1) (わが国の環境科学の現状と課題)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
5	環境負荷とその課題 (2) (国連会議、地球サミット等を通して)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
6	キャリング・キャパシティー (carrying capacity) について					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
7	持続可能観光という概念の誕生とその時系列的分析 (英国の事例を通して)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
8	持続可能観光における「持続可能性」に関する理論的根拠 (持続可能性という概念の理解を巡って)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義80分	
9	観光目的地の持続可能性についての概念的モデル (1) (観光目的地環境の発展・衰退等の時系列的分析)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
10	観光目的地の持続可能性についての概念的モデル (2) (持続可能な環境・観光マネジメントへの応用と限界)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
11	持続可能観光領域のステークホルダーの多様性とその役割 (観光学領域の側面から)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義80分	
12	持続可能観光領域のステークホルダーの多様性とその役割 (環境マネジメント領域の側面から)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
13	持続可能な観光マネジメントのための指標システムの事例 (1) (その具体的事例：DIT-Acheiv Model 等)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
14	持続可能な観光マネジメントのための指標システムの事例 (2) (多様な指標群のなかでの環境・マネジメントの役割と課題)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
15	纏め					事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習		前回の確認10分、講義80分	
教 本 : 参 考 文 献 :									
指定しない。					講義に際し適時、指示する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
平常点 (30%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
環境マネジメントに関する観光学からのアプローチです。基礎的な内容を具体的に丁寧に説明します。実践的内容を含みますので、今後の学修に役立ててください。									
オ フ ィ ス ア フ タ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	環境 (子どもと生活) (Environment (Children and Their Life))						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	野川 智子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 幼保小連携認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針、幼稚園教育要領における「環境」の内容とその取扱いを理解し、子どもを取り巻く自然環境や人的環境が子どもの成長に影響を与えることから保育環境の在り方を考察する。また、野菜の栽培を通して成長、収穫、食する過程で植物の生命力を体験的に学ぶ									
授業目標：1. 領域「環境」のねらいや内容について理解する 2. 幼児の発達段階に応じた保育環境と子どもへの影響を理解する 3. 栽培活動に取り組み、自然環境をいかした保育方法を考察する									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	科目の概要・目標を理解し、見通しを持つ 環境の意義についての講義から理解を深める					事前：なし 事後：資料をノートにまとめる		講義 (90分)	
2	幼保小連携認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針、幼稚園教育要領を読んで、「環境」のねらいと内容を理解する					事前：要領、指針の下読み 事後：一覧表に整理する		講義 (45分) 討議 (45分)	
3	自然環境、人的環境と幼児の関わりが育む非認知能力について学問的知見から理解を深める					事前：3章の下読みをする 事後：ノートに3章を整理する		講義 (45分) 討議 (45分)	
4	子どもの心身の発達(情緒、社会性等)の特徴と環境との関わりを乳児期、1～3歳未満、3歳以上の段階を追って理解する					事前：4章の下読みをする 事後：ノートに4章を整理する		講義 (45分) 討議 (45分)	
5	子どもの生活における3つの「間」や遊びの連続性と環境、学びを深める保育環境の在り方を考察する					事前：5章の下読みをする 事後：ノートに5章を整理する		講義 (45分) 討議 (45分)	
6	花や野菜の栽培を通して、自然に親しみながら命の尊さを実感する保育環境の在り方を考察する					事前：栽培法を調べる 事後：ノートに6章を整理する		講義 (30分) 討議 (60分)	
7	子どもが生活の中で数量や文字への興味をもつような教材の工夫や保育環境の作り方を考え、制作する					事前：教材を考える 事後：ノートに7章を整理する		講義 (30分) 制作 (60分)	
8	年間行事や季節の行事、地域の文化を取り入れた行事を保育環境とすることの意義を理解する					事前：8章の下読みをする 事後：ノートに8章を整理する		講義 (30分) 討議 (60分)	
9	現代の子どもを取り巻く情報機器 (スマホ、タブレット) の実態をとらえ、保育への活用上の留意点を明らかにする					事前：9章の下読みをする 事後：ノートに9章を整理する		講義 (45分) 討議 (45分)	
10	環境を通しての学びにおける指導計画のあり方とその評価(PDCA)の意義を理解し、指導計画の例を学ぶ					事前：10章の下読みをする 事後：ノートに10章を整理する		講義 (45分) 討議 (45分)	
11	0～2歳児の保育における道具、遊具、自然環境とはどんなものかを理解し、子どもに及ぼす影響を考察する					事前：道具、遊具の例を書き出す 事後：ノートに11章を整理する		講義 (60分) 討議 (30分)	
12	3～6歳児の保育における (言葉、体験) が子どもに及ぼす影響を考察し、発達を促す保育方法を理解する					事前：12章の下読みをする 事後：ノートに12章を整理する		講義 (45分) 討議 (45分)	
13	就学に向けて幼保小連携で進める接続期カリキュラムで幼稚園、小学校の双方の内容と必要性を理解する					事前：13章の下読みをする 事後：ノートに13章を整理する		講義 (45分) 討議 (45分)	
14	保育において特別な支援を必要とする子どもの理解と保育環境や活動参加への支援の方法を考察する					事前：ワークシートに予習する 事後：次回の課題を調べる		講義 (45分) 討議 (45分)	
15	現代社会における環境問題 (人間関係、自然、科学等) を調べてこれからの保育の在り方をレポートにする					事前：集めた資料の下読みをする 事後：完成レポートを提出する		講義 (20分) 実習 (70分)	
教本：コンパクト版保育内容シリーズ③ 「環境」 参考文献：適宜紹介、資料配布する 幼保小連携認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針、幼稚園教育要領									
成績評価の方法、評価基準：到達目標の達成度、レポート、定期試験を総合的に評価する 授業参加状況等 (40%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (30%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 環境を通して成長する幼児にとって、保育者の役割は大きいものがあるのでしっかり学んでいこう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	観 光 英 語 I (English for Tourism I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	中 村 文 男								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>将来国内外の観光関係の仕事に携わることができることを目標とした授業です。そのため、特に国内外観光に関する様々な場面を想定し、仕事を遂行するのに必要なコミュニケーションに慣れ、運用できるようにします。運用するには、受け身の学習では英語の運用力は身につけません。学生の皆さん自ら英語を運用し、間違え、それらを修正しながら英語の運用力を高める授業です。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>ツアーでなく単独で海外旅行ができる英語の運用力を身につけることです。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	授業概要と評価の仕方及び英語の学び方について					事前：なし 事後：説明概要確認		演習説明50分アンケート20分質疑応答20分	
2	Unit 1 At the airport					事前：語彙確認 p 7 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分リスニング30分	
3	Unit 2 On the plane					事前：語彙確認 p 13 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分リスニング30分	
4	Unit 3 Arrival					事前：語彙確認 p 19 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分リスニング30分	
5	Unit 4 Checking in the hotel					事前：語彙確認 p 25 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分リスニング30分	
6	Unit 5 Getting information and sightseeing					事前：語彙確認 p 31 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分リスニング30分	
7	Unit 6 Ordering fast food					事前：語彙確認 p 37 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分リスニング30分	
8	確認テスト					事前：テスト準備 事後：テスト範囲の復習		テスト準備30分テスト60分	
9	Unit 7 Going to the theater					事前：語彙確認 p 43 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分リスニング30分	
10	Unit 8 At the restaurant					事前：語彙確認 p 49 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分リスニング30分	
11	Unit 9 Shopping					事前：語彙確認 p 55 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分リスニング30分	
12	Unit 10 Lost and found					事前：語彙確認 p 61 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分リスニング30分	
13	Unit 11 Using public transportation					事前：語彙確認 p 67 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分リスニング30分	
14	Unit 12 Renting bike					事前：語彙確認 p 73 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分リスニング30分	
15	確認テスト					事前：テスト準備 事後：テスト範囲の復習		テスト準備30分テスト60分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
Enjoy Your Trip! 南雲堂 著者 竹内真澄 中井延美他					適宜紹介します。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授業参加状況等 (20%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (50%) 等で総合評価します。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
英語のスピーキングの修得は単に記憶だけに頼らず、運用し間違いを犯すことが修得に繋がります。言い換えれば、間違いを通してスピーキングに慣れることが修得するための最初の一步になります。									
オ フ ィ ス ア フ タ ー :									
初回講義に説明します。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	観 光 英 語 Ⅱ (English for Tourism Ⅱ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	中 村 文 男								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>将来、国内外のホテルや旅行代理店、航空関連などの観光関係の仕事に携わることを目標とした授業です。そのため、特に国内外観光に関する様々な場面を想定し、仕事を遂行するのに必要なコミュニケーションに慣れ、基本的な英語の運用ができるようにする授業です。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>観光業務を遂行するために必要とする基本的な英語の運用ができるようにすることが目標です。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	授 業 概 要 と 評 価 の 仕 方 及 び 英 語 の 学 び 方 に つ い て					事前：なし 事後：説明概要確認		演習説明50分アンケート20分質疑応答20分	
2	Unit 1 北海道 (Hokkaido)					事前：語彙確認 p 5 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分 リスニング30分	
3	Unit 2 京都 (Kyoto)					事前：語彙確認 p 11 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分 リスニング30分	
4	Unit 3 湯布院 (Yufuin)					事前：語彙確認 p 17 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分 リスニング30分	
5	Unit 4 沖縄 (Okinawa)					事前：語彙確認 p 23 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分 リスニング30分	
6	Unit 5 シンガポール (Singapore)					事前：語彙確認 p 29 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分 リスニング30分	
7	Unit 6 バリ (Bali, Indonesia)					事前：語彙確認 p 35 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分 リスニング30分	
8	確認テスト					事前：テスト準備 事後：テスト範囲の復習		テスト準備30分 テスト60分	
9	Unit 7 シドニー (Sydney, Australia)					事前：語彙確認 p 41 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分 リスニング30分	
10	Unit 8 ハワイ (Hawaii, the USA)					事前：語彙確認 p 47 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分 リスニング30分	
11	Unit 9 ロンドン (London, the UK)					事前：語彙確認 p 53 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分 リスニング30分	
12	Unit 10 フランス (France)					事前：語彙確認 p 59 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分 リスニング30分	
13	Unit 11 ヨーロッパの美術館 (Museum in Europe)					事前：語彙確認 p 67 事後：復習 口頭65		語彙20分口頭練習40分 リスニング30分	
14	Unit 12 ニューヨーク (New York, the USA)					事前：語彙確認 p 71 事後：復習 口頭練習		語彙20分口頭練習40分 リスニング30分	
15	確認テスト					事前：テスト準備 事後：テスト範囲の復習		テスト準備30分 テスト60分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
English for Tourism 101 南雲堂 著者 津田 晶子 クリストファー・ヴァルヴォナ 岩本弓子					適宜紹介します。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
<p>授業参加状況等 (20%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (50%) 等で総合評価します。</p>									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
<p>英語のスピーキングの修得は単に記憶だけに頼らず、英語を実際に運用し間違いをすることが修得に繋がります。言い換えれば、間違いを通して英語のスピーキングに慣れることが修得することに繋がります。</p>									
オ フ ィ ス ア ウ ー :									
<p>初回講義に説明します。</p>									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	観 光 概 論 (Introduction to Tourism)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	古 賀 学								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 観光学の体系、観光の成立要因と各要因の関係性、観光を学ぶために必要な用語とその意味・定義、観光の波及効果など、観光学の体系と観光の基礎につき修得する。									
授 業 目 標 : ①観光を深く学ぶために必要な基礎知識を修得する。 ②観光に関わる語句を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○						◎			
授 業 計 画 ・ 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 ・ 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態
1	観光学の体系：観光学を構成する学問体系と松蔭大学が目指す観光教育のあり方について修得する。					事前：専門科目について理解する。 事後：自己の観光における学習体系を考察する。			ガイダンス・講義 60分、 能力テスト 30分
2	観光と観光産業：観光及び観光産業の特性について理解し、観光の定義について理解する。					事前：言語としての観光について考究する。 事後：観光の構成要因について整理する。			復習 10分、講義 70分、 理解度チェック 10分
3	観光行動の発生と形態：観光の各発生要因の詳細及び発生の歴史的経緯を理解することにより、観光の実現化要因について観光行動の特性を理解する。また、観光ルート・コースについても理解する。					事前：自身がなぜ観光するのかについて考究する。 事後：観光という現象がなぜ起こるのかを整理する。			復習 10分、講義 70分、 理解度チェック 10分
4	観光客：観光の市場について、その分類と特徴、市場の変化について理解することにより、観光客の定義と特性について習得する。					事前：観光客とは何かについて考究する。 事後：観光とは何かについて整理する。			復習 10分、講義 70分、 理解度チェック 10分
5	観光関連組織：行政、観光協会、民間観光関連事業者、地域住民など観光に関わる関連組織の特徴、事業内容、関連等について修得する。					事前：観光行政の政策内容について考究する。 事後：自身が目指すべき組織について考察する。			復習 10分、講義 70分、 理解度チェック 10分
6	観光旅行形態：マス・ツーリズム、体験型観光旅行、リゾート、ニューツーリズムなど旅行の変遷と形態について、その特徴について修得する。					事前：観光とリゾートの違いについて考究する。 事後：今後のより良い観光旅行形態について考察する。			復習 10分、講義 70分、 理解度チェック 10分
7	観光地：観光の目的地である観光地の空間構造及び変容について理解し、観光地のあるべき姿について修得する。					事前：どのような観光地があるのかを考究する。 事後：観光地の種類について体験的整理を行う。			復習 10分、講義 70分、 理解度チェック 10分
8	観光資源：観光資源の定義、種類及び地域資源、観光資源、観光対象、観光商品の差異・変化、観光資源の価値評価等について修得する。					事前：観光の目的となるモノ・コトについて考究する。 事後：地域資源の観光資源化について事例検証を行う			復習 10分、講義 70分、 理解度チェック 10分
9	温泉資源：温泉資源の特性及び利活用と観光資源としての活用について温泉法及び温泉観光地の事例から学習する。					事前：温泉法を理解する。 事後：温泉の地域資源としてのあり方を考察する。			復習 10分、講義 70分、 理解度チェック 10分
10	観光施設：観光客の目的対象、資源の補完、利便化等の役割を果たす観光資源の種類、特徴、集客力などの原単位、役割等について修得する。					事前：観光施設の事例について考究する。 事後：観光施設の役割について再考する。			復習 10分、講義 70分、 理解度チェック 10分
11・12	宿泊施設：宿泊施設のISOによる定義・目的分類・部屋分類・料金分類及び日本における宿泊施設の許認可、サービスの内容等について修得する。					事前：経験から宿泊施設の問題点を考究する。 事後：今後の宿泊施設のあり方について再考する。			復習 10分、講義 70分、 理解度チェック 10分
13	観光波及効果：観光現状における社会、地域、組織、住民等に与える影響について考察し、より良い観光振興の目指すべき方向について修得する。					事前：観光により発生する負の効果について考究する。 事後：観光のより良い効果の増大について整理する。			復習 10分、講義 70分、 理解度チェック 10分
14	観光計画・調査：観光を振興するためのプロセスとしての観光計画及び調査の手法について学修する					事前：計画とは何かを理解する。 事後：より良い観光計画のあり方について探求する。			復習 10分、講義 70分、 理解度チェック 10分
15	ユニバーサル・ツーリズム：すべての人のための旅行環境の構築について学修する。					事前：ユニバーサルデザインについて学修する。 事後：Tourism for Allについて探求する。			復習 10分、講義 70分、 理解度チェック 10分
教 本 : テキストは授業ごとにプリントを配布する。					参 考 文 献 : 適宜指示する。				
成 績 評 価 の 方 法 ・ 評 価 基 準 : 定期試験及び平常点を加味する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 観光を構成する事柄について全般的に学ぶ授業です。すべての内容を理解し、自身の興味の方向を見出すつもりで受講してください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。基本的には在席中はいつでも可。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	観光経営論 (Tourism Management)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	夏目 千恵子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 観光産業の全体像を経営学の枠組みと理論に基づいて概観し、観光経営の基礎について学びます。									
授業目標： ・観光経営に関する理論について説明できること ・さまざまな観光関係の事業体の現状と課題について理解し、説明できること									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	観光経営の基礎					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
2	観光政策・行政					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
3	観光まちづくり					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
4	観光行動と観光市場					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
5	ICT 革命と観光産業					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
6	交通産業経営					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
7	旅行産業経営—旅行業の近未来					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
8	宿泊産業経営					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
9	外食産業経営					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
10	博物館と美術館					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
11	ホテルアセットマネジメント					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
12	集客戦略					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
13	観光産業の人的資源管理					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
14	接遇と顧客満足					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
15	ポストモダンと観光					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
教本： 岡本伸之『観光経営学 よくわかる観光学1』朝倉書店					参考文献： なし				
成績評価の方法、評価基準： 定期試験（60%）、レポートおよび小テスト（20%）、平常点（20%）。到達目標が達成できたかを評価する。									
学生へのアドバイス： これからの観光経営について考えていきましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日にお伝えします。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	観 光 経 営 論 I (Tourism Management I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	夏 目 千 恵 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 観 光 産 業 の 全 体 像 を 経 営 学 の 枠 組 み と 理 論 に 基 づ い て 概 観 し、観 光 経 営 の 基 礎 に つ い て 学 び ま す。									
授 業 目 標 : ・ 観 光 経 営 に 関 す る 理 論 に つ い て 説 明 で き る こ と ・ さ ま ざ ま な 観 光 関 係 の 事 業 体 の 現 状 と 課 題 に つ い て 理 解 し、説 明 で き る こ と									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	観 光 経 営 の 基 礎					事 前 : テ キ ス ト の 通 読 事 後 : テ キ ス ト の 理 解		講 義 40 分 グ ル ー プ ワ ー ク 50 分	
2	観 光 政 策 ・ 行 政					事 前 : テ キ ス ト の 通 読 事 後 : テ キ ス ト の 理 解		講 義 40 分 グ ル ー プ ワ ー ク 50 分	
3	観 光 ま ち づ くり					事 前 : テ キ ス ト の 通 読 事 後 : テ キ ス ト の 理 解		講 義 40 分 グ ル ー プ ワ ー ク 50 分	
4	観 光 行 動 と 観 光 市 場					事 前 : テ キ ス ト の 通 読 事 後 : テ キ ス ト の 理 解		講 義 40 分 グ ル ー プ ワ ー ク 50 分	
5	ICT 革 命 と 観 光 産 業					事 前 : テ キ ス ト の 通 読 事 後 : テ キ ス ト の 理 解		講 義 40 分 グ ル ー プ ワ ー ク 50 分	
6	交 通 産 業 経 営					事 前 : テ キ ス ト の 通 読 事 後 : テ キ ス ト の 理 解		講 義 40 分 グ ル ー プ ワ ー ク 50 分	
7	旅 行 産 業 経 営 - 旅 行 業 の 近 未 来					事 前 : テ キ ス ト の 通 読 事 後 : テ キ ス ト の 理 解		講 義 40 分 グ ル ー プ ワ ー ク 50 分	
8	宿 泊 産 業 経 営					事 前 : テ キ ス ト の 通 読 事 後 : テ キ ス ト の 理 解		講 義 40 分 グ ル ー プ ワ ー ク 50 分	
9	外 食 産 業 経 営					事 前 : テ キ ス ト の 通 読 事 後 : テ キ ス ト の 理 解		講 義 40 分 グ ル ー プ ワ ー ク 50 分	
10	博 物 館 と 美 術 館					事 前 : テ キ ス ト の 通 読 事 後 : テ キ ス ト の 理 解		講 義 40 分 グ ル ー プ ワ ー ク 50 分	
11	ホ テ ル ア セ ッ ト マ ネ ジ メ ン ト					事 前 : テ キ ス ト の 通 読 事 後 : テ キ ス ト の 理 解		講 義 40 分 グ ル ー プ ワ ー ク 50 分	
12	集 客 戦 略					事 前 : テ キ ス ト の 通 読 事 後 : テ キ ス ト の 理 解		講 義 40 分 グ ル ー プ ワ ー ク 50 分	
13	観 光 産 業 の 人 的 資 源 管 理					事 前 : テ キ ス ト の 通 読 事 後 : テ キ ス ト の 理 解		講 義 40 分 グ ル ー プ ワ ー ク 50 分	
14	接 遇 と 顧 客 満 足					事 前 : テ キ ス ト の 通 読 事 後 : テ キ ス ト の 理 解		講 義 40 分 グ ル ー プ ワ ー ク 50 分	
15	ポ ス ト モ ダ ン と 観 光					事 前 : テ キ ス ト の 通 読 事 後 : テ キ ス ト の 理 解		講 義 40 分 グ ル ー プ ワ ー ク 50 分	
教 本 : 岡 本 伸 之 『 観 光 経 営 学 よ く わ か る 観 光 学 1 』 朝 倉 書 店					参 考 文 献 : な し				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 定 期 試 験 (60%)、レ ポ ー ト お よ び 小 テ ス ト (20%)、平 常 点 (20%)。到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 今 後 の 観 光 経 営 に つ い て 考 え て い き ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に お 伝 え し ま す。									

開 講 年 次	4 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	観光経営論Ⅱ (Tourism Management Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	夏目 千恵子								
履 修 条 件	前提科目	「観光経営論Ⅰ」を履修していることが望ましい。							
	そ の 他	なし							
授業概要： 観光産業の全体像を経営学の枠組みと理論に基づいて概観し、観光経営の基礎について学びます。									
授業目標： ・観光経営に関する理論について説明できること ・各種分析や戦略について理解すること									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
2	観光産業の構造					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
3	観光市場					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
4	観光商品					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
5	観光産業の発展と成長					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
6	観光の価格戦略					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
7	観光の流通戦略					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
8	観光のプロモーション戦略					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
9	観光の競争戦略					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
10	競争環境の分析					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
11	観光の財務分析					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
12	観光の組織戦略					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
13	観光の人的資源管理					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
14	観光の倫理・法令遵守					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
15	まとめ					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
教本： 岡本伸之『観光経営学 よくわかる観光学1』朝倉書店					参考文献： なし				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験（60%）、レポートおよび小テスト（20%）、平常点（20%）。									
学生へのアドバイス： 今後の観光経営について考えていきましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日にお伝えします。									

開講年次	4年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	観光経済論 I (Economics of Tourism I)						科目分類	専門科目	
担当教員	古賀 学								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>今の観光経済活動の現状を把握・分析するとともに、政府等における観光政策から我が国における観光経済の現状・課題を理解し今後の方法性について学修する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>①観光経済の仕組みについて理解する。 ②観光経済を支える政府を中心とする観光政策について学修する。 ③地方観光行政及び観光関連団体、民間企業のかかわりから地域における観光経済の現状を理解する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	観光経済学の体系 ・観光経済の構造 ・観光経済の現状における把握の視点 ・観光経済と数字で見る社会					事前：ニュース等における観光経済関連事項の把握 事後：社会における観光経済の理論と現状を理解する		講義・情報媒体からの把握	
2・3	観光経済の仕組みと観光経済波及効果 ・観光経済と経済波及効果 ・我が国における観光経済波及効果と社会 ・国際観光と経済波及効果					事前：ニュース等における観光経済関連事項の把握 事後：社会における観光経済の理論と現状を理解する		講義・情報媒体からの把握	
4～6	観光地経営関連組織と観光地域づくり法人（観光DMO） ・観光地運営組織の構造 ・観光地域づくり法人（観光DMO）の現状と課題					事前：ニュース等における観光経済関連事項の把握 事後：社会における観光経済の理論と現状を理解する		講義・情報媒体からの把握	
7～9	観光行政と観光経済 ・観光庁の政策と観光経済 ・観光施策と観光統計 ・観光立国推進基本計画					事前：ニュース等における観光経済関連事項の把握 事後：社会における観光経済の理論と現状を理解する		講義・情報媒体からの把握	
10・11	神奈川県内行政における観光関連計画からみた観光経済 ・神奈川県観光施策の内容 ・厚木市観光施策の内容 ・神奈川県テーマ別観光と地域経済					事前：ニュース等における観光経済関連事項の把握 事後：社会における観光経済の理論と現状を理解する		講義・情報媒体からの把握	
12・13	厚木市観光基本計画 ・厚木市観光の内容 ・厚木市観光における観光経済の位置づけ					事前：ニュース等における観光経済関連事項の把握 事後：社会における観光経済の理論と現状を理解する		講義・情報媒体からの把握	
14	秦野市観光振興基本計画 ・秦野市観光の内容 ・秦野市観光における経済波及効果の位置づけ					事前：ニュース等における観光経済関連事項の把握 事後：社会における観光経済の理論と現状を理解する		講義・情報媒体からの把握	
15	総括としての我が国におけるよりよき観光経済社会のあり方を考察する。					事前：ニュース等における観光経済関連事項の把握 事後：社会における観光経済の理論と現状を理解する		講義・情報媒体からの把握	
教本： 授業毎にテキスト資料を配布					参考文献： 必要に応じて指示				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>社会における今の観光関連の経済に関する動きを日常的に把握することを習慣化してください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開講年次	4年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	観光経済論Ⅱ (Economics of Tourism II)						科目分類	専門科目	
担当教員	古賀 学								
履修条件	前提科目	観光経済論Ⅰ							
	その他	なし							
授業概要： 国内外の観光需要と社会における観光の経済波及効果について、観光経済論Ⅰの内容にさらに詳細な数量的な視点から観光経済の現状を学修する。									
授業目標： ①観光経済の現状を数量的に理解する ②観光経済の把握の手法について理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	観光経済学の体系 ・観光経済学を構成する要素と仕組み					事前：社会の観光経済の今について情報収集を行う 事後：現状と理論を理解する。		講義・情報媒体からの把握	
2	観光の経済波及効果 ・国内・国際経済波及効果の数量的体系 ・数字を基本とした経済波及効果					事前：社会の観光経済の今について情報収集を行う 事後：現状と理論を理解する。		講義・情報媒体からの把握	
3	観光統計(旅行・産業の経済効果に関する調査研究、宿泊旅行統計調査、都道府県観光統計、観光の実態と志向等)					事前：社会の観光経済の今について情報収集を行う 事後：現状と理論を理解する。		講義・情報媒体からの把握	
4・5	観光庁と観光統計 ・宿泊旅行統計 ・訪日外国人消費動向調査 ・旅行・観光消費動向調査					事前：社会の観光経済の今について情報収集を行う 事後：現状と理論を理解する。		講義・情報媒体からの把握	
6・7	我が国の観光経済効果 ・観光市場としての観光動向・志向の現状の把握 ・「観光の実態と志向調査」の手法と調査結果					事前：社会の観光経済の今について情報収集を行う 事後：現状と理論を理解する。		講義・情報媒体からの把握	
8～10	旅行・観光勘定サテライト ・旅行・観光環境サテライト算出の構造 ・我が国における旅行・観光勘定サテライト関連用語					事前：社会の観光経済の今について情報収集を行う 事後：現状と理論を理解する。		講義・情報媒体からの把握	
11・12	旅行・観光産業の経済波及効果 ・我が国における旅行・観光産業における経済波及効果 ・旅行・産業の経済効果に関する調査 ・訪日外国人の旅行消費動向調査					事前：社会の観光経済の今について情報収集を行う 事後：現状と理論を理解する。		講義・情報媒体からの把握	
13	京都市における観光経済 ・京都市における観光経済指標の作成手法 ・京都市における観光経済波及効果					事前：京都市の観光動向の把握 事後：京都市の観光経済手法の理解		講義・情報媒体からの把握	
14・15	観光消費の見える化手法 ・北海道における地域観光経済手法の内容 ・手法を活用した地域観光経済波及効果の算出					事前：統計の見える化を理解する。 事後：見える化手法を用いた地域観光経済の算出		講義・情報媒体からの把握	
教本： 授業時に適時テキスト資料を配布					参考文献： 授業内において適時指示				
成績評価の方法、評価基準： 授業評価等（10%）、定期試験（90%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 統計の手法及び数字の読み方について学修してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	観 光 産 業 論 (Tourism Industry)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	飯 島 祥 二								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>本講義の目的は、観光産業に関する基礎的な知識を修得し観光産業の果たす役割と今後の観光産業のあり方についての理解を深め、観光産業の振興を図る創造的な能力と態度を育てることにある。まず、観光産業の「観光領域での位置づけ」と各々の観光産業の事例と特徴を説明する。そして、「観光産業が扱う旅行（観光）商品の特性」について具体的に説明をする。また、予習・復習に関しては講義において詳細に指示する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>(1) 観光産業の分類や特性を理解する。 (2) 観光産業の具体的な内容を理解する。 (3) 観光産業に関わる観光商品の特性を理解する。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習		講義 90 分	
2	観光産業の特徴とその定義					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
3	観光学の中での観光産業の位置づけ (1) (需要 - 供給関係を主題に：Leiper (1990))					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
4	観光学の中での観光産業の位置づけ (2) (旅行システム論を通して：Mill & Morrison (1985))					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
5	市場 (需要サイド) における観光産業 (具体的な事例)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
6	輸送 (移動) における観光産業 (具体的な事例)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
7	観光目的地 (供給サイド) における観光産業 (1) (具体的な事例)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
8	観光目的地 (供給サイド) における観光産業 (2) (具体的な事例)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 50 分、 プレゼンテーション 30 分	
9	観光産業における旅行商品の一般的特徴 (無形性、不均質性等)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
10	観光産業に関わる旅行商品の特性 (1) (Tourism product の属性の束的性格)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
11	観光産業に関わる旅行商品の特性 (2) (Tourism product の 4 つの側面：アトラクション、設備、輸送、ホスピタリティー)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
12	旅行商品のライフサイクルモデルと観光産業 (ライフサイクル論の応用：Ryan (1991) の理解)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
13	旅行商品の計画・立案における観光産業の各領域の論点 (1) (旅行商品の特性に関して)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
14	旅行商品の計画・立案における観光産業の各領域の論点 (2) (需要側、供給側等の対比を通して)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 50 分、 プレゼンテーション 30 分	
15	纏め					事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習		前回の確認 10 分、講義 80 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
教科書は使用しない。必要に応じプリントを配布する。					適時指示する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
平常点 (30%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
多様性を有する観光産業を体系的に記述することを心掛け、具体的内容を丁寧に説明する。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	観 光 産 業 論 I (Tourism Industry I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	飯 島 祥 二								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>本講義の目的は、観光産業に関する基礎的な知識を修得し観光産業の果たす役割と今後の観光産業のあり方についての理解を深め、観光産業の振興を図る創造的な能力と態度を育てることにある。まず、観光産業の「観光領域での位置づけ」と各々の観光産業の事例と特徴を説明する。そして、「観光産業が扱う旅行（観光）商品の特性」について具体的に説明をする。また、予習・復習に関しては講義において詳細に指示する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>(1) 観光産業の分類や特性を理解する。 (2) 観光産業の具体的な内容を理解する。 (3) 観光産業に関わる観光商品の特性を理解する。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習		講義 90 分	
2	観光産業の特徴とその定義					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
3	観光学の中での観光産業の位置づけ (1) (需要 - 供給関係を主題に：Leiper (1990))					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
4	観光学の中での観光産業の位置づけ (2) (旅行システム論を通して：Mill & Morrison (1985))					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
5	市場 (需要サイド) における観光産業 (具体的な事例)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
6	輸送 (移動) における観光産業 (具体的な事例)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
7	観光目的地 (供給サイド) における観光産業 (1) (具体的な事例)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
8	観光目的地 (供給サイド) における観光産業 (2) (具体的な事例)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 50 分、 プレゼンテーション 30 分	
9	観光産業における旅行商品の一般的特徴 (無形性、不均質性等)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
10	観光産業に関わる旅行商品の特性 (1) (Tourism product の属性の束的性格)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
11	観光産業に関わる旅行商品の特性 (2) (Tourism product の 4 つの側面：アトラクション、設備、輸送、ホスピタリティー)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
12	旅行商品のライフサイクルモデルと観光産業 (ライフサイクル論の応用：Ryan (1991) の理解)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
13	旅行商品の計画・立案における観光産業の各領域の論点 (1) (旅行商品の特性に関して)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
14	旅行商品の計画・立案における観光産業の各領域の論点 (2) (需要側、供給側等の対比を通して)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 50 分、 プレゼンテーション 30 分	
15	總 結					事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習		前回の確認 10 分、講義 80 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
教科書は使用しない。必要に応じプリントを配布。					適時指示する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
平常点 (30%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
多様性を有する観光産業を体系的に記述することを心掛け、具体的内容を丁寧に説明する。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開講年次	4年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	観光産業論Ⅱ (Tourism Industry Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担当教員	飯島 祥二								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 本講義の目的は、観光産業に関する基礎的な知識を修得し観光産業の果たす役割と今後の観光産業のあり方についての理解を深めることにより観光産業の振興を図る創造的な能力と態度を育てることにある。そのために、観光産業の「観光学の枠組みでの位置づけ」・「新たな観光産業の形態」や「観光産業とその他のセクターとの関係性」について講義をする。当該講義は、MICE (Meeting, Incentive tour, Convention, Exhibition) やDMO (Destination management organization) に言及し、問題解決的学修 (PBL) に関する方法にて今後の観光産業の有り方を論ずる。また、予習・復習に関しては講義において詳細に指示する。									
授業目標： (1) 観光産業の分類や特性を理解する。 (2) 観光産業の具体的な内容を理解する。 (3) 新たな観光産業の形態や産業とその他のセクターとの融合や関係性について理解を深める。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習		講義 90分	
2	観光学の枠組みにおける観光産業の位置づけと観光学のその他の領域との関連性 (Morley(1990)を中心に)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
3	「需要・移動・供給」における観光産業の特性と分類 (観光学における関連性に関して)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
4	持続可能観光の伸長と観光産業の形態 (持続可能観光の具体的事例を通して)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
5	ニューツーリズムと旅行産業 (1) (その特性と課題)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
6	ニューツーリズムと旅行産業 (2) (ケーススタディー [自然資源を対象として])					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
7	ニューツーリズムと旅行産業 (3) (ケーススタディー [歴史・文化資源を対象として])					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
8	MICE(Meeting, Incentive tour, Convention, Exhibition) (1) (意味と役割)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
9	MICE(Meeting, Incentive tour, Convention, Exhibition) (2) (MとIの概念、取り組み主体、業界、事例等)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
10	MICE(Meeting, Incentive tour, Convention, Exhibition) (3) (CとEの概念、取り組み主体、業界構成、事例等)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
11	DMO(Destination management organization) (1) (ディスティネーションマネジメントとの意味と役割)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
12	DMO(Destination management organization) (2) (ディスティネーションマネジメントと資源管理)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
13	DMO(Destination management organization) (3) (観光産業振興・観光地計画への役割)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
14	今後の観光産業の課題とビジョン					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
15	纏め					事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習		前回の確認10分、講義80分	
教本： 必要に応じプリントを配布する。					参考文献： 適時指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 多様性を有する観光産業を体系的に記述することを心掛け、基礎的内容を具体的に丁寧に説明します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	観光社会学 (Sociology of Tourism)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	古賀 学								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>現代の社会における変動を様々な視点から見つめなおすことにより、これからの社会における観光の役割と方向を探求する。講義時点に起こっている観光と社会現象をテーマとして取り上げる。よって本授業計画は、今まで取り上げたテーマであり参考とする。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 社会における観光の位置づけと役割について理解する。 2. 社会現象と観光との関係について理解する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	観光社会学に関する認識と観光と社会との関係の基本について学修する。					事前：観光社会学Ⅰの復習 事後：余暇の現状について資料収集		ガイダンス・講義60分、 能力テスト30分、	
2	【コロナ禍と観光の復権】 コロナ禍の社会における観光施策対応の現状について考察する。					事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深掘り		復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
3・4	【地方鉄道を考える】 鉄道開業150周年に鑑み、地方鉄道の現状と今後について考察する。					事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深掘り		復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
5	【ミッションアプリ「デイグ」】 日常の中での発見を様々なミッションをクリアしながら体感するソフトと観光活用について考察する。					事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深掘り		講義30分、 ディスカッション60分	
6	【観光産業復調と雇用】 with coronaにおける観光産業の復調と雇用の現状を考察する。					事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深掘り		復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
7	【宿泊施設の今後の在り方】 宿泊施設の多様化と新たな運営方法について考察する。					事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深掘り		復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
8	【酒と観光】 日本酒の醸造、蔵、販売方法など新たな展開について考察する。					事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深掘り		復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
9・10	【観光とSDGs】 SDGsにおける観光の役割について考察する。					事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深掘り		講義30分、 ディスカッション60分	
11・12	【観光DMO】 観光地運営の中核的役割を果たす観光DMOの現状と課題について考察する。					事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深掘り		復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
13	【キャンプの変容】 キャンプの宿泊施設機能、アウトドア活動としての位置づけ等について考察する。					事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深掘り		復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
14	【松江市の温泉旅館街の成立と現状における課題】 松江市の松江しんじ湖温泉の形成過程と現状の課題について考察する。					事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深掘り		復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
15	【観光地の変容】 コロナ禍における観光地整備の現状を把握し、今後の観光地の在り方について考察する。					事前：出題課題への対応 事後：ニュースに関心を持つ		復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
<p>教本：</p> <p>各講義毎のプリントを使用</p>					<p>参考文献：</p> <p>その都度適宜紹介</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業参加及び授業態度等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>今日起こっている観光に関する社会現象について平日頃からニュース等に関心を持つこと。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	観光社会学 I (Sociology of Tourism I)						科目分類	専門科目	
担当教員	古賀 学								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 現代の社会における変動を様々な視点から見つめなおすことにより、これからの社会における観光の役割と方向を探求する。講義時点に起こっている観光と社会現象をテーマとして取り上げる。よって本授業計画は、今まで取り上げたテーマであり参考とする。									
授業目標： 1. 社会における観光の位置づけと役割について理解する。 2. 社会現象と観光との関係について理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	観光社会学に関する認識と観光と社会との関係の基本について学修する。					事前：観光文化の復習 事後：余暇の現状について資料収集		ガイダンス・講義60分、 能力テスト30分、	
2	【コロナ禍と観光の復権】 コロナ禍の社会における観光施策対応の現状について考察する。					事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深掘り		復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
3・4	【地方鉄道を考える】 鉄道開業150周年に鑑み、地方鉄道の現状と今後について考察する。					事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深掘り		復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
5	【ミッションアプリ「デイグ」】 日常の中での発見を様々なミッションをクリアしながら体感するソフトと観光活用について考察する。					事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深掘り		講義30分、 ディスカッション60分	
6	【観光産業復調と雇用】 with coronaにおける観光産業の復調と雇用の現状を考察する。					事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深掘り		復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
7	【宿泊施設の今後の在り方】 宿泊施設の多様化と新たな運営方法について考察する。					事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深掘り		復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
8	【酒と観光】 日本酒の醸造、蔵、販売方法など新たな展開について考察する。					事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深掘り		復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
9・10	【観光とSDGs】 SDGsにおける観光の役割について考察する。					事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深掘り		講義30分、 ディスカッション60分	
11・12	【観光DMO】 観光地運営の中核的役割を果たす観光DMOの現状と課題について考察する。					事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深掘り		復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
13	【キャンプの変容】 キャンプの宿泊施設機能、アウトドア活動としての位置づけ等について考察する。					事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深掘り		復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
14	【松江市の温泉旅館街の成立と現状における課題】 松江市の松江しんじ湖温泉の形成過程と現状の課題について考察する。					事前：出題課題への対応 事後：さらなるニュースの内容の深掘り		復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
15	【観光地の変容】 コロナ禍における観光地整備の現状を把握し、今後の観光地の在り方について考察する。					事前：出題課題への対応 事後：ニュースに関心を持つ		復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
教本： 各講義毎のプリントを使用					参考文献： その都度適宜紹介				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加及び授業態度等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 今日起こっている観光に関する社会現象について平日頃からニュース等に関心を持つこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	観光社会学Ⅱ (Sociology of Tourism Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担当教員	古賀 学								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： これまでの観光の潮流及び観光社会の今を踏まえて、現代社会における観光の役割・責任を探求する。									
授業目標： 1. 観光が社会にどのような影響を及ぼしているのかを理解する。 2. 観光関連のニュース等情報から観光の現状と今後を考察する能力を培う。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	観光社会学の体系：観光社会学における社会と観光との関係の体系について学修する。				事前：観光社会学Ⅰの復習 事後：社会における関連事象について深掘り			ガイダンス・講義60分、 能力テスト30分	
2	観光の社会における波及効果：観光が社会に与える影響及び社会の変化における観光のあり方等について学修する。				事前：出題課題の対応 事後：ニュースなどでの現状の深掘り			復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
3・4	観光社会の今：観光庁「観光白書」を元に、観光施策の現状について理解する。				事前：観光白書の既読 事後：観光施策のあり方の深掘り			復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
5・6	余暇社会と観光：余暇社会の変遷と観光への影響について休暇制度等を踏まえ学修する。 ・仕事と余暇との関係 ・余暇活動の変遷 ・余暇活動における観光の位置づけ				事前：出題課題の対応 事後：ニュースなどでの現状の深掘り			復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
7・8	持続可能な観光と社会：持続可能な観光振興のあり方について学修する。 ・社会におけるSDGsの今日的な位置づけ ・SDGsの活動における観光の果たすべき役割				事前：出題課題の対応 事後：ニュースなどでの現状の深掘り			復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
9・10	観光とリスクマネジメント：リスクマネジメントの意味、観光と災害等との関係及び旅行業を始め観光産業におけるリスクマネジメントについて学修する。 ・リスクマネジメントと観光 ・旅行業等観光産業とリスクマネジメント				事前：出題課題の対応 事後：ニュースなどでの現状の深掘り			復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
11・12	負の遺産と地域社会：人災・自然災害など災害の残した負の遺産のあり方について考察する。				事前：出題課題の対応 事後：ニュースなどでの現状の深掘り			復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
13・14	コミュニティ社会と観光：地域におけるコミュニティ形成の目的・必要性及び現在の社会環境におけるコミュニティの内容、観光振興との関連等について学修する				事前：出題課題の対応 事後：ニュースなどでの現状の深掘り			復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
15	観光振興の社会における課題と今後：これからの観光と社会におけるより良い関係について考える。				事前：出題課題の対応 事後：ニュースなどでの現状の深掘り			復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
教本： 各講義時に配布				参考文献： 講義時に適宜紹介					
成績評価の方法、評価基準： 授業参加及び授業態度等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 今日起こっている観光に関する社会現象について常日頃からニュース等により情報収集及び真意の深掘りしておくこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	観 光 情 報 論 (Tourism Informatics)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	飯 島 祥 二								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>当該授業は、観光領域での課題解決における情報系手法やその考え方の重要性を説明し、多様な計量的な手法の事例を紹介する。そして、観光実務や観光研究における情報システムの有用性を示唆し、今後の学修に役立てることを目的とする。主に、旅行者心理学・モチベーションの領域を基軸に観光行動・マーケティングへの基礎的考察を提示する。当該講義は、問題解決に際し「質問票調査」等の「実習」を予定している。また、予習・復習に関しては講義において詳細に指示する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>①観光学における「情報系領域」の有用性を理解する。 ②観光系領域の学習において情報系知識（計量的手法）の重要性を理解する。 ③観光行動、観光心理学領域における計量的手法の事例を理解する。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得				思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養		
○				◎					
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習		講義 90 分	
2	観光領域における情報系研究領域の役割 (観光学の枠組みを通して)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
3	観光領域における情報系研究領域の役割 (需要-供給、日常-非日常、居住地-目的地等の二面性を通して)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
4	旅行目的地の選択過程における観光情報 (1) (旅行者意思決定プロセス・モデル)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
5	旅行目的地の選択過程における観光情報 (2) (旅行目的地選択モデル)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
6	旅行目的地の選択過程における観光情報 (3) (Witt & Wright の期待理論値モデル)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
7	④-⑥に関わる纏めとディスカッションと今後の展望 (旅行者モチベーションの多様性(冒険-リラクスの軸など)を含め、分析手法等を紹介する)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 30 分、 ディスカッション 50 分	
8	アトラクションの認知とその総合的理解 (1) (モチベーションからのアプローチ)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
9	アトラクションの認知とその総合的理解 (2) (プロモーションからのアプローチ)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
10	アトラクションの認知とその総合的理解 (2) (観光行動からのアプローチ)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
11	環境学と情報学 (1) (人間・環境系からの視点)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
12	環境学と情報学 (2) (環境計画[観光地計画]からの視点)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
13	マーケティングと情報 (1)「個人差の抽出」 (レポートリー・グリッド発展手法・ラダーリングによる検討の説明)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 70 分、 小レポート 10 分	
14	マーケティングと情報 (2)「各環境要素の抽出」 (レポートリー・グリッド発展手法・ラダーリングと環境認識についての説明)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10 分、講義 40 分、 実習 40 分	
15	纏め					事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習		前回の確認 10 分、講義 80 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
指定しない。資料を配布する。					適時指示する。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 :									
平常点 (30%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
観光学に関する情報系領域の重要性を説明し、基礎的な内容を具体的に丁寧に説明する。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																																																																						
授業科目(英文)	観光と法 (Tourism and Law)						科目分類	専門科目																																																																							
担当教員	福島 崇宏																																																																														
履修条件	前提科目	法学または法の性格と役割																																																																													
	その他	なし																																																																													
<p>授業概要：</p> <p>東京オリンピック・パラリンピックの開催や外国人観光客の急激な増加などに伴い、インバウンドビジネスが急速に拡大している。そのような中で民泊やIR(統合型リゾート)など私たちの身近では新たな法制度をめぐるさまざまな問題が生じている。本授業では、このような観光に関して身近に起きる法律問題を共に考える機会を提供する。</p> <p>授業目標：</p> <p>1. 社会調査結果の読み方と観光関連指標について理解する。 2. 場所に記憶されたもの(宗教、戦争、災害等)と観光との関わりと、社会における観光の意義についての理解を深める。</p> <p>カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)</p> <table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td>◎</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table> <p>授業計画、事前学習・事後学習、形式</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>授業回数</th> <th>授業内容及び計画(詳細に記入)</th> <th>事前・事後学習(学習課題)</th> <th>授業形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>インバウンド ・観光法概論・観光ビジネスと法との関連について概観する。</td> <td>事前：教本第1章精読 事後：まとめノートの作成</td> <td>講義60分、討論30分</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>インバウンド ・観光政策体系・インバウンド政策の概要について理解を深める。</td> <td>事前：教本第2章精読 事後：まとめノートの作成</td> <td>講義60分、討論30分</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>インバウンド ・観光法体系・インバウンドに関する法体系について理解を深める。</td> <td>事前：教本第5章精読 事後：まとめノートの作成</td> <td>講義60分、討論30分</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>観光まちづくりと法 ・観光まちづくりに関する法律について理解を深める。</td> <td>事前：教本第15章精読 事後：まとめノートの作成</td> <td>講義60分、討論30分</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>旅行業と法(1) ・旅行業をめぐる法体系の全体像を知る。</td> <td>事前：教本第6章精読 事後：まとめノートの作成</td> <td>講義60分、討論30分</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>旅行業と法(2) ・旅行業に関する個別の法律問題を考える。</td> <td>事前：教本第6章精読 事後：まとめノートの作成</td> <td>講義60分、討論30分</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>宿泊事業と法(1) ・宿泊事業をめぐる法体系の全体像を知る。</td> <td>事前：教本第7章精読 事後：まとめノートの作成</td> <td>講義60分、討論30分</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>宿泊事業と法(2) ・宿泊事業に関する個別の法律問題を考える。</td> <td>事前：教本第7章精読 事後：まとめノートの作成</td> <td>講義60分、討論30分</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>移動・交通手段と法(1) ・移動・交通手段をめぐる法体系の全体像を知る。</td> <td>事前：教本第8章精読 事後：まとめノートの作成</td> <td>講義60分、討論30分</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>移動・交通手段と法(2) ・移動・交通手段に関する個別の法律問題を考える。</td> <td>事前：教本第9章精読 事後：まとめノートの作成</td> <td>講義60分、討論30分</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>集客と法(1) ・集客をめぐる法体系の全体像を知る。</td> <td>事前：教本第10章精読 事後：まとめノートの作成</td> <td>講義60分、討論30分</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>集客と法(2) ・集客に関する個別の法律問題を考える。</td> <td>事前：教本第12章精読 事後：まとめノートの作成</td> <td>講義60分、討論30分</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>観光資源の保護・活用と法(1) ・観光資源の保護と活用をめぐる法体系の全体像を知る。</td> <td>事前：教本第13章精読 事後：まとめノートの作成</td> <td>講義60分、討論30分</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>観光資源の保護・活用と法(2) ・観光資源の保護と活用に関する個別の法律問題を考える。</td> <td>事前：教本第14章精読 事後：まとめノートの作成</td> <td>講義60分、討論30分</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ ・観光と法の全体像と争点を再確認する。</td> <td>事前：教本第11章精読 事後：まとめノートの作成</td> <td>講義60分、討論30分</td> </tr> </tbody> </table> <p>教本：高橋一夫、柏木千春編著『1からの観光事業論』碩学舎、2016年。 参考文献：森・濱田松本法律事務所観光法プラクティスグループ編『ガイドランス インバウンド・観光法』商事法務、2019年。</p> <p>成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等(20%)、小テスト・レポート等(30%)、期末試験(50%)で総合評価する。</p> <p>学生へのアドバイス： 社会の中で観光と法がどのように結びついているのかについて、日頃から新聞や報道等で取り上げられている事件や事故を基に主体的に考える習慣をつけることが大切です。</p> <p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	◎	○		授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態	1	インバウンド ・観光法概論・観光ビジネスと法との関連について概観する。	事前：教本第1章精読 事後：まとめノートの作成	講義60分、討論30分	2	インバウンド ・観光政策体系・インバウンド政策の概要について理解を深める。	事前：教本第2章精読 事後：まとめノートの作成	講義60分、討論30分	3	インバウンド ・観光法体系・インバウンドに関する法体系について理解を深める。	事前：教本第5章精読 事後：まとめノートの作成	講義60分、討論30分	4	観光まちづくりと法 ・観光まちづくりに関する法律について理解を深める。	事前：教本第15章精読 事後：まとめノートの作成	講義60分、討論30分	5	旅行業と法(1) ・旅行業をめぐる法体系の全体像を知る。	事前：教本第6章精読 事後：まとめノートの作成	講義60分、討論30分	6	旅行業と法(2) ・旅行業に関する個別の法律問題を考える。	事前：教本第6章精読 事後：まとめノートの作成	講義60分、討論30分	7	宿泊事業と法(1) ・宿泊事業をめぐる法体系の全体像を知る。	事前：教本第7章精読 事後：まとめノートの作成	講義60分、討論30分	8	宿泊事業と法(2) ・宿泊事業に関する個別の法律問題を考える。	事前：教本第7章精読 事後：まとめノートの作成	講義60分、討論30分	9	移動・交通手段と法(1) ・移動・交通手段をめぐる法体系の全体像を知る。	事前：教本第8章精読 事後：まとめノートの作成	講義60分、討論30分	10	移動・交通手段と法(2) ・移動・交通手段に関する個別の法律問題を考える。	事前：教本第9章精読 事後：まとめノートの作成	講義60分、討論30分	11	集客と法(1) ・集客をめぐる法体系の全体像を知る。	事前：教本第10章精読 事後：まとめノートの作成	講義60分、討論30分	12	集客と法(2) ・集客に関する個別の法律問題を考える。	事前：教本第12章精読 事後：まとめノートの作成	講義60分、討論30分	13	観光資源の保護・活用と法(1) ・観光資源の保護と活用をめぐる法体系の全体像を知る。	事前：教本第13章精読 事後：まとめノートの作成	講義60分、討論30分	14	観光資源の保護・活用と法(2) ・観光資源の保護と活用に関する個別の法律問題を考える。	事前：教本第14章精読 事後：まとめノートの作成	講義60分、討論30分	15	まとめ ・観光と法の全体像と争点を再確認する。	事前：教本第11章精読 事後：まとめノートの作成	講義60分、討論30分
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																																																																													
◎	○																																																																														
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)	授業形態																																																																												
1	インバウンド ・観光法概論・観光ビジネスと法との関連について概観する。	事前：教本第1章精読 事後：まとめノートの作成	講義60分、討論30分																																																																												
2	インバウンド ・観光政策体系・インバウンド政策の概要について理解を深める。	事前：教本第2章精読 事後：まとめノートの作成	講義60分、討論30分																																																																												
3	インバウンド ・観光法体系・インバウンドに関する法体系について理解を深める。	事前：教本第5章精読 事後：まとめノートの作成	講義60分、討論30分																																																																												
4	観光まちづくりと法 ・観光まちづくりに関する法律について理解を深める。	事前：教本第15章精読 事後：まとめノートの作成	講義60分、討論30分																																																																												
5	旅行業と法(1) ・旅行業をめぐる法体系の全体像を知る。	事前：教本第6章精読 事後：まとめノートの作成	講義60分、討論30分																																																																												
6	旅行業と法(2) ・旅行業に関する個別の法律問題を考える。	事前：教本第6章精読 事後：まとめノートの作成	講義60分、討論30分																																																																												
7	宿泊事業と法(1) ・宿泊事業をめぐる法体系の全体像を知る。	事前：教本第7章精読 事後：まとめノートの作成	講義60分、討論30分																																																																												
8	宿泊事業と法(2) ・宿泊事業に関する個別の法律問題を考える。	事前：教本第7章精読 事後：まとめノートの作成	講義60分、討論30分																																																																												
9	移動・交通手段と法(1) ・移動・交通手段をめぐる法体系の全体像を知る。	事前：教本第8章精読 事後：まとめノートの作成	講義60分、討論30分																																																																												
10	移動・交通手段と法(2) ・移動・交通手段に関する個別の法律問題を考える。	事前：教本第9章精読 事後：まとめノートの作成	講義60分、討論30分																																																																												
11	集客と法(1) ・集客をめぐる法体系の全体像を知る。	事前：教本第10章精読 事後：まとめノートの作成	講義60分、討論30分																																																																												
12	集客と法(2) ・集客に関する個別の法律問題を考える。	事前：教本第12章精読 事後：まとめノートの作成	講義60分、討論30分																																																																												
13	観光資源の保護・活用と法(1) ・観光資源の保護と活用をめぐる法体系の全体像を知る。	事前：教本第13章精読 事後：まとめノートの作成	講義60分、討論30分																																																																												
14	観光資源の保護・活用と法(2) ・観光資源の保護と活用に関する個別の法律問題を考える。	事前：教本第14章精読 事後：まとめノートの作成	講義60分、討論30分																																																																												
15	まとめ ・観光と法の全体像と争点を再確認する。	事前：教本第11章精読 事後：まとめノートの作成	講義60分、討論30分																																																																												

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	観光文化史 (History of Tourism Culture)						科目分類	専門科目	
担当教員	飯島 祥二								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>歴史を紐解くことは、どの領域でも、又いつの時代でも肝要なことである。当該講義は、観光（観光行動）の歴史と文化について内外の研究成果を説明し、現代の実務的課題や研究方法に向けての新しい糸口を検討するための有益な視点を提供する。現在の観光学において、「旅行動機」、「旅行者の類型化」等の領域で有用な視点が提出されており、歴史的考察を通して今後の学修に有用な視点を提供することも考えられる。また、予習・復習に関しては講義において詳細に指示する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>(1) 観光史の概要を理解する。 (2) 観光史の理解を通し、現在の観光現象に対する有用な知見の理解を目指す。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：授業の進め方や内容の説明を実施し、オリエンテーションを実施。					事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習		講義90分	
2	観光史の概要（観光史の歴史の変遷の俯瞰：歴史年表を通して）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
3	旅の歴史の観光学における位置づけと意義（観光学の体系的性の中での観光史の意味、Cohen(1974)の概念ツリー「旅行者の特徴と規定」に関わる考察）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義60分、 ディスカッション20分	
4	旅の歴史のマクロ的アプローチ(1) (Smith(1992)の「巡礼者—旅行者(聖から俗)」のパスについて)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
5	旅の歴史のマクロ的アプローチ(2) (Cohen(1979)の「創始期巡礼、伝統的巡礼、マス観光」の対比)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
6	旅の歴史のマクロ的アプローチ(3) (近代における旅行特性の変化：TravellerとTourist：Boorstin(1962)による)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
7	旅の歴史のマクロ的アプローチ(4) (わが国における昭和初期における「旅」から「旅行」への変遷)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義60分、 ディスカッション20分	
8	前回まで（講義前半）の纏めと、総合的ディスカッション					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義30分、 ディスカッション50分	
9	旅行者のモチベーション研究と観光史(1) (Pearce(1982)：観光史におけるモチベーションの変遷)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
10	旅行者モチベーション研究と観光史(2) (モチベーション論から観光史へのアプローチ)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
11	観光史における旅行者類型論的分析(1) (「共時的」と「通時的(歴史的)」との関係性)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
12	観光史における旅行者類型論的分析(2) (旅行者類型論の歴史性から考察される「現代の旅行者理解」)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義60分、 ディスカッション20分	
13	「観光文化史」の重要性(1) (文化社会現象としての観光文化史)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
14	「観光文化史」の重要性(2) (今後の観光に関わる施策・計画への応用と道筋)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
15	当該講義の纏め、およびディスカッション					事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習		講義60分、 ディスカッション30分、	
教本： 授業ごとにプリントを配布する。					参考文献： 適時指示する。				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>平常点(30%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(40%)等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>共時的観光の理解も難しいが、通時的な観光理解を通して、観光学の奥深さや面白さを学修すること。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開講年次	4年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	観光文化史 I (History of Tourism Culture I)						科目分類	専門科目	
担当教員	飯島 祥二								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 歴史を紐解くことは、どの領域でも、又いつの時代でも肝要なことである。当該講義は、観光（観光行動）の歴史と文化について内外の研究成果を説明し、現代の実務的課題や研究方法に向けての新しい糸口を検討するための有益な視点を提供する。現在の観光学において、「旅行動機」、「旅行者の類型化」等の領域で有用な視点が提出されており、歴史的考察を通して今後の学修に有用な視点を提供することも考えられる。また、予習・復習に関しては講義において詳細に指示する。									
授業目標： (1) 観光史の概要を理解する。 (2) 観光史の理解を通し、現在の観光現象に対する有用な知見の理解を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：授業の進め方や内容の説明を実施し、オリエンテーションを実施。					事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習		講義90分	
2	観光史の概要（観光史の歴史の変遷の俯瞰：歴史年表を通して）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
3	旅の歴史の観光学における位置づけと意義（観光学の体系的性の中での観光史の意味、Cohen(1974)の概念ツリー「旅行者の特徴と規定」に関わる考察）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義60分、 ディスカッション20分	
4	旅の歴史のマクロ的アプローチ (1) (Smith(1992)の「巡礼者—旅行者(聖から俗)」のパスについて)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
5	旅の歴史のマクロ的アプローチ (2) (Cohen(1979)の「創始期巡礼、伝統的巡礼、マス観光」の対比)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
6	旅の歴史のマクロ的アプローチ (3) (近代における旅行特性の変化：TravellerとTourist：Boorstin(1962)による)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
7	旅の歴史のマクロ的アプローチ (4) (わが国における昭和初期における「旅」から「旅行」への変遷)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義60分、 ディスカッション20分	
8	前回まで（講義前半）のまとめと、総合的ディスカッション					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義30分、 ディスカッション50分	
9	旅行者のモチベーション研究と観光史 (1) (Pearce(1982)：観光史におけるモチベーションの変遷)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
10	旅行者モチベーション研究と観光史 (2) (モチベーション論から観光史へのアプローチ)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
11	観光史における旅行者類型論的分析 (1) (「共時的」と「通時的 (歴史的)」との関係性)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
12	観光史における旅行者類型論的分析 (2) (旅行者類型論の歴史性から考察される「現代の旅行者理解」)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義60分、 ディスカッション20分	
13	「観光文化史」の重要性 (1) (文化社会現象としての観光文化史)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
14	「観光文化史」の重要性 (2) (今後の観光に関わる施策・計画への応用と道筋)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
15	当該講義の締め、およびディスカッション					事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習		講義60分、 ディスカッション30分、	
教本： 授業ごとにプリントを配布する。					参考文献： 適時指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 平常点 (30%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 共時的観光の理解も難しいが、通時的な観光理解を通して、観光学の奥深さや面白さを学修すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開講年次	4年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	観光文化史Ⅱ (History of Tourism Culture Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担当教員	飯島 祥二								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 歴史を紐解くことは、どの領域でも、又いつの時代でも肝要なことである。当該講義は、観光（観光行動）の歴史と文化について内外の研究成果を説明し、現代の実務的課題や研究方法に向けての新しい糸口を検討するための有益な視点を提供する。当該講義では、歴史的な一次資料（講義で扱われる一次資料はすべて現代語訳を使用）の講読などを通し、古人の旅行（観光）への思いを考える。このような作業を通し、今後の学修に有用な視点を検討することを当該講義の目的とする。また、予習・復習に関しては講義において詳細に指示する。									
授業目標： (1) 観光史の概要を理解する。 (2) 観光史を通し、現在の観光現象に対する深い知見の理解を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：授業の進め方・内容を説明する。					事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習		講義 90分	
2	わが国の観光史の概要 （観光史の歴史の変遷の俯瞰：歴史年表を通して）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		講義 80分、 小レポート 10分	
3	「旅の歴史の観光学」 （観光学の体系性の中での観光史）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		講義 80分、 小レポート 10分	
4	わが国の文化史と観光史 （両者の接点を検討する）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		講義 80分、 小レポート 10分	
5	一次資料（文学作品）の講読を通しての歴史的旅行の理解 「古代から、中世」その① [資料の選定等は受講生と相談して決定、一次資料等はすべて現代語訳を使用（以下同様）]					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		講義 60分、 プレゼンテーション 30分	
6	一次資料（文学作品）の講読を通しての歴史的旅行の理解 「古代から、中世」その②					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		講義 60分、 プレゼンテーション 30分	
7	一次資料（絵画、絵巻物）の講読を通しての歴史的旅行の理解「古代から、中世」その①					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		講義 60分、 プレゼンテーション 30分	
8	一次資料（絵画、絵巻物）の講読を通しての歴史的旅行の理解「古代から、中世」その②					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		講義 60分、 プレゼンテーション 30分	
9	一次資料（文学作品）の講読を通しての歴史的旅行の理解 「近世」その①					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		講義 60分、 プレゼンテーション 30分	
10	一次資料（文学作品）の講読を通しての歴史的旅行の理解 「近世」その②					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		講義 60分、 プレゼンテーション 30分	
11	一次資料（絵画、絵巻物）の講読を通しての歴史的旅行の理解「近世」その①					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		講義 60分、 プレゼンテーション 30分	
12	一次資料（絵画、絵巻物）の講読を通しての歴史的旅行の理解「近世」その②					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		講義 60分、 プレゼンテーション 30分	
13	一次資料（文学作品）の講読を通しての歴史的旅行の理解 「近代」その①					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		講義 60分、 プレゼンテーション 30分	
14	一次資料（絵画、絵巻物）の講読を通しての歴史的旅行の理解「近代」その①					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		講義 60分、 プレゼンテーション 30分	
15	当該講義の纏め、およびディスカッション					事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習		講義 60分、 ディスカッション 30分	
教本： 授業ごとにプリントを配布する。					参考文献： 適時指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 平常点（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 共時的観光の理解も難しいが、通時的な観光理解を通して、観光学の奥深さや面白さを学修すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	観 光 文 化 論 (Tourism and Culture)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	古 賀 学								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 観 光 と 文 化 (社 会) の 様 々 な 関 係 に つ い て、観 光 客 と い う 視 点 か ら 観 光 活 動 の 現 状 や 歴 史 的 な 経 緯、各 種 文 化 の 特 性 等 を 踏 ま え て、よ り よ き 観 光 文 化 形 成 の あ り 方 に つ い て 探 求 す る。前 半 は 時 系 列 か ら み た 観 光 文 化 の 変 容、後 半 は 観 光 空 間 の 整 備 に よ る 観 光 文 化 の 変 容 に つ い て 学 修 す る。									
授 業 目 標 : ① 観 光 客 の 行 動 特 性、観 光 の 効 果 に つ い て 習 得 す る。 ② 観 光 文 化 の 変 容 形 態 と そ の 要 因 に つ い て 習 得 す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	観 光 文 化 論 の 構 造 : 観 光 文 化 論 の 内 容 及 び 他 観 光 学 に お け る 位 置 づ け と 関 連 に つ い て 学 修 す る。				事 前 : 観 光 文 化 論 の 体 系 を 理 解 す る。 事 後 : 観 光 文 化 の 学 ぶ べ き 点 に つ い て 整 理 す る。			ガ イ ダ ン ス ・ 講 義 80 分、 理 解 度 テ ス ト 10 分	
2	観 光 と 文 化 : 観 光 及 び 文 化、そ し て 観 光 文 化 の 意 味 に つ い て 理 解 す る。				事 前 : 文 化 と は 何 か に つ い て 調 査 す る。 事 後 : 観 光 文 化 と は に つ い て 整 理 す る。			復 習 10 分、講 義 70 分、 理 解 度 テ ス ト 10 分	
3・4	江 戸 の 旅 文 化 : 江 戸 時 代 に お け る 旅 の 大 衆 化 と、そ の 目 的 と な っ た 宗 教 の 旅 と 保 養 療 養 の 旅 に つ い て 学 修 す る。				事 前 : 江 戸 時 代 の 旅 に つ い て 調 査 す る。 事 後 : 温 泉 と 宗 教 の 旅 に つ い て 整 理 す る。			復 習 10 分、講 義 70 分、 理 解 度 テ ス ト 10 分	
5・6	明 治 の 観 光 文 化 の 形 成 : 明 治 時 代 に お け る 西 洋 文 化 の 流 入 に よ る 新 た な 観 光 活 動 の 形 成 に つ い て 学 修 す る。				事 前 : 明 治 時 代 の 観 光 の 歴 史 を 学 修 す る 事 後 : 観 光 活 動 の 発 生 と 現 在 を 比 較 検 討 す る。			復 習 10 分、講 義 70 分、 理 解 度 テ ス ト 10 分	
7	大 正 時 代 の 観 光 文 化 : 明 治 時 代 を 黎 明 期 と す る と 大 正 時 代 は 醗 酵 (う じ ょ う) 期 で あ る と も い え る。ま た、大 正 モ ダ ン な ど 洋 風 文 化 が 浸 透 し 始 め て く る。				事 前 : 大 正 ロ マ ン に つ い て 学 修 す る。 事 後 : 横 浜 観 光 と 大 正 ロ マ ン に つ い て 検 証 す る。			各 回 : 復 習 10 分、講 義 70 分、理 解 度 テ ス ト 10 分	
8	昭 和 戦 前 の 観 光 文 化 : 昭 和 元 年 か ら 第 2 次 世 界 大 戦 前 ま で の 観 光 関 連 史 で あ る。観 光 行 政 の 台 頭 と そ れ に 伴 う 観 光 関 連 組 織 の 形 成 な ど が 行 わ れ た。ま た、自 然 公 園 行 政 及 び 法 の 確 立 に よ り、各 地 で 国 立 公 園 が 指 定 さ れ た。				事 前 : 昭 和 の 観 光 史 に つ い て 学 修 す る。 事 後 : 観 光 の 組 織 や 法 律 を 理 解 す る。			各 回 : 復 習 10 分、講 義 70 分、理 解 度 テ ス ト 10 分	
9・10	昭 和 戦 後 の 観 光 文 化 : 第 2 次 世 界 大 戦 復 興 期 に お け る 新 た な 観 光 の 発 生、高 速 交 通 体 系 の 整 備、行 政、観 光 協 会 等 観 光 関 連 組 織 の 変 遷、新 全 国 総 合 開 発 計 画 に よ る 大 規 模 開 発 や リ ゾ ー ト 法 の 制 定 な ど 観 光 を 取 り 巻 く 環 境 の 変 化 に つ い て 学 修 す る				事 前 : 昭 和 の 観 光 史 に つ い て 学 修 す る。 事 後 : 戦 前 と 戦 後 の 観 光 文 化 の 変 遷 に つ い て 比 較 検 討 す る。			復 習 10 分、講 義 70 分、 理 解 度 テ ス ト 10 分	
11~15	地 域 に お け る 観 光 文 化 の 形 成 : 都 市、農 山 村、自 然 地、温 泉 地 な ど 地 域 に お け る 観 光 空 間 の 整 備 と 観 光 文 化 の 形 成 に つ い て 学 修 す る。松 江 市、高 柳 町、富 士 河 口 湖 町、箱 根 な ど を 予 定。				事 前 : 観 光 地 形 成 の 事 例 に つ い て 学 修 す る。 事 後 : 地 域 に お け る 観 光 空 間 の 鷗 尾 及 び よ り 良 き 観 光 文 化 の 形 成 に つ い て 学 修 す る。			復 習 15 分、ワ ー ク シ ョ ッ プ 45 分、ま と め 30 分	
教 本 : テ キ ス ト は 授 業 ご と に プ リ ン ト を 配 布 す る。					参 考 文 献 : 適 宜 指 示 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 定 期 試 験 及 び 平 常 点 を 加 味 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 観 光 を 構 成 す る 事 柄 に つ い て 全 般 的 に 学 ぶ 授 業 で す。自 身 の 興 味 の 方 向 を 見 出 す つ も り で 受 講 し て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。基 本 的 に は 在 席 中 は い つ で も 可。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	観 光 マーケティング論 (Tourism Marketing)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	鈴 木 秀 顕								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	1 回 目 に チーム編成をします。1 回 目 から出席してください。							
授 業 概 要 :									
社会は生産者志向から顧客志向へと遷移している。それは観光という分野でも例外ではない。そこで本講義では観光における顧客志向の観光を知り、かつ神奈川県内の観光についてディスカッションを行うことにより持続可能性の高い観光に関する理解を深める。									
授 業 目 標 :									
本講義の目的は、顧客志向の観光について、観光客目線を持ったマーケティング思考を身につけることである。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	神奈川県の地域資源をサービスマーケティング思考で考える					事前：精読 (3-13) 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
2	誘致誘客からマーケティングへ					事前：精読 (23-36) 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
3	観光のブランドづくりとは					事前：精読 (37-46) 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
4	強いブランドを生む					事前：精読 (47-58) 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
5	イメージが浮かばなければ選ばれない					事前：精読 (59-72) 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
6	ブランドと地名の違い					事前：精読 (73-80) 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
7	地域の尖りを考える					事前：精読 (81-96) 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
8	何かで一番になろう					事前：精読 (97-110) 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
9	強いブランド					事前：精読 (111-125) 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
10	地域の引力					事前：精読 (127-142) 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
11	食によるブランド					事前：精読 (143-169) 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
12	ブランドづくりの6ステップ					事前：精読 (171-191) 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
13	観光立国について考える、質の観光という発想					事前：精読 (193-222) 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
14	神奈川県の観光に関するワールドカフェ					事前：精読 (171-191) 事後：議論レポートの作成		ワールドカフェ90分	
15	持続可能な観光の実現、グループ発表					事前：精読 (223-251) 事後：テスト準備		発表70分 講義20分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
『観光ブランドの教科書』(日本経済新聞出版社)					神奈川県観光地図				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授業参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
神奈川県内の地域資源を再発見することが求められます。また、各ディスカッションはチームでの取り組みになりますが、テストは各自の考えを記述してもらいますので、自分ごととして参加し、欠席せず積極的な参加を求めます。									
オ フ ィ ス ア フ タ :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	観 光 マーケティング 論 I (Tourism Marketing I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	鈴 木 秀 顕								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	1 回 目 に チーム 編 成 を し ま す 。 1 回 目 か ら 出 席 し て く だ さ い 。							
授 業 概 要 : 社 会 は 生 産 者 志 向 か ら 顧 客 志 向 へ と 遷 移 し て い る 。 そ れ は 観 光 と い う 分 野 で も 例 外 で は な い 。 そ こ で 本 講 義 で は 観 光 に お け る 顧 客 志 向 の 観 光 を 知 り 、 か つ 神 奈 川 県 内 の 観 光 に つ い て デ ィ ス カ ュ シ ョ ン を 行 う こ と に よ り 持 続 可 能 性 の 高 い 観 光 に 関 す る 理 解 を 深 め る 。									
授 業 目 標 : 本 講 義 の 目 的 は 、 顧 客 志 向 の 観 光 に つ い て 、 観 光 客 目 線 を 持 っ た マーケティング 思 考 を 身 に つ け る こ と で あ る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	神 奈 川 県 の 地 域 資 源 を サービスマーケティング 思 考 で 考 え る					事 前 : 精 読 (3-13) 事 後 : 議 論 レポ ー ト の 作 成		講 義 30 分 デ ィ ス カ ュ シ ョ ン 60 分	
2	誘 致 誘 客 か ら マーケティング へ					事 前 : 精 読 (23-36) 事 後 : 議 論 レポ ー ト の 作 成		講 義 30 分 デ ィ ス カ ュ シ ョ ン 60 分	
3	観 光 の ブ ラ ン ド づ くり と は					事 前 : 精 読 (37-46) 事 後 : 議 論 レポ ー ト の 作 成		講 義 30 分 デ ィ ス カ ュ シ ョ ン 60 分	
4	強 い ブ ラ ン ド を 生 む					事 前 : 精 読 (47-58) 事 後 : 議 論 レポ ー ト の 作 成		講 義 30 分 デ ィ ス カ ュ シ ョ ン 60 分	
5	イ メ ー ジ が 浮 か ば な け れ ば 選 ば れ な い					事 前 : 精 読 (59-72) 事 後 : 議 論 レポ ー ト の 作 成		講 義 30 分 デ ィ ス カ ュ シ ョ ン 60 分	
6	ブ ラ ン ド と 地 名 の 違 い					事 前 : 精 読 (73-80) 事 後 : 議 論 レポ ー ト の 作 成		講 義 30 分 デ ィ ス カ ュ シ ョ ン 60 分	
7	地 域 の 尖 り を 考 え る					事 前 : 精 読 (81-96) 事 後 : 議 論 レポ ー ト の 作 成		講 義 30 分 デ ィ ス カ ュ シ ョ ン 60 分	
8	何 か で 一 番 に な ろ う					事 前 : 精 読 (97-110) 事 後 : 議 論 レポ ー ト の 作 成		講 義 30 分 デ ィ ス カ ュ シ ョ ン 60 分	
9	強 い ブ ラ ン ド					事 前 : 精 読 (111-125) 事 後 : 議 論 レポ ー ト の 作 成		講 義 30 分 デ ィ ス カ ュ シ ョ ン 60 分	
10	地 域 の 引 力					事 前 : 精 読 (127-142) 事 後 : 議 論 レポ ー ト の 作 成		講 義 30 分 デ ィ ス カ ュ シ ョ ン 60 分	
11	食 に よ る ブ ラ ン ド					事 前 : 精 読 (143-169) 事 後 : 議 論 レポ ー ト の 作 成		講 義 30 分 デ ィ ス カ ュ シ ョ ン 60 分	
12	ブ ラ ン ド づ くり の 6 ス テ ッ プ					事 前 : 精 読 (171-191) 事 後 : 議 論 レポ ー ト の 作 成		講 義 30 分 デ ィ ス カ ュ シ ョ ン 60 分	
13	観 光 立 国 に つ い て 考 え る 、 質 の 観 光 と い う 発 想					事 前 : 精 読 (193-222) 事 後 : 議 論 レポ ー ト の 作 成		講 義 30 分 デ ィ ス カ ュ シ ョ ン 60 分	
14	神 奈 川 県 の 観 光 に 関 す る ワー ル ド カ フ ェ					事 前 : 精 読 (171-191) 事 後 : 議 論 レポ ー ト の 作 成		ワ ー ル ド カ フ ェ 90 分	
15	持 続 可 能 な 観 光 の 実 現 、 グ ル ー プ 発 表					事 前 : 精 読 (223-251) 事 後 : テ ス ト 準 備		発 表 70 分 講 義 20 分	
教 本 : 『 観 光 ブ ラ ン ド の 教 科 書 』 (日 本 経 済 新 聞 出 版 社)					参 考 文 献 : 神 奈 川 県 観 光 地 図				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 授 業 参 加 状 況 等 (30%)、 小 テ ス ト ・ レポ ー ト 等 (20%)、 定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 神 奈 川 県 内 の 地 域 資 源 を 再 発 見 す る こ と が 求 め ら れ ま す 。 ま た 、 各 デ ィ ス カ ュ シ ョ ン は チーム で の 取 り 組 み に な り ま す が 、 テ ス ト は 各 自 の 考 え を 記 述 し て も ら い ま す の で 、 自 分 ご と として 参 加 し 、 欠 席 せ ず 積 極 的 な 参 加 を 求 め ま す 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	観光マーケティング論Ⅱ (Tourism Marketing II)						科目分類	専門科目	
担当教員	鈴木 秀顕								
履修条件	前提科目	観光マーケティング論Ⅰ (未取得者は相談してください)							
	その他	グループワーク中心の講義になります。事前準備をしっかりとっておいてください。							
<p>授業概要： 観光を基軸としたマーケティングにおいては、観光客目線のほか、行政目線での考え方を理解しておくことも大切である。本講義では、行政目線による観光を知り、ディスカッションで理解を深め、かつ自分事として考える。</p>									
<p>授業目標： 行政から見た観光を理解し、自分ごととしての思考を身につける。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	人を呼び込む魅力的な景観形成					事前：精読 (1-5) 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
2	地域コミュニティを支える魅力的な景観形成					事前：精読 (5-7) 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
3	地域価値を「かたち」にする					事前：精読 (9-12) 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
4	まちづくりの諸活動をつなぐ					事前：精読 (13-15) 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
5	まちづくりの多様な担い手を関係づける					事前：精読 (16-19) 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
6	持続可能性を支える					事前：精読 (19-22) 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
7	活性化の成果を豊かにする					事前：精読 (22-25) 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
8	今ある価値を見えるようにする					事前：精読 (27-31) 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
9	地域の固有性を「かたち」にする					事前：精読 (32-35) 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
10	新しい公共のモデルをつくる					事前：精読 (36-39) 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
11	地域価値を高め地域を活性化する					事前：精読 (40-43) 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
12	選ばれ続ける「まち」の持続性を高める					事前：精読 (44-47) 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
13	人を呼び込む景観まちづくりの技法					事前：精読 (49-95) 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
14	厚木市観光政策を学ぶ					事前：精読 (49-95) 事後：議論レポートの作成		グループワーク 90分	
15	「厚木市観光まっぷ」発表会					事前：発表準備 事後：テスト準備		発表70分 講義20分	
<p>教本： 『人を呼び込むまちづくり』(ぎょうせい)</p>					<p>参考文献： 自治体職員のための観光政策立案必携</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： グループワーク中心の講義になります。各自がしっかり準備をして講義に臨むようにしてください。また、「厚木市観光まっぷ」は厚木市へ提案します。学生ならではのアイデアを出せるよう、しっかり講義に臨んでください。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	観光リスクマネジメント論 (Risk Management for Tourism)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	宮林 正恭								
履 修 条 件	前提科目	「リスク危機マネジメント方法論」および「リスク危機マネジメントの考え方とその応用」を学んでいることが好ましい。							
	そ の 他	なし							
授業概要： リスクマネジメント及びクライシスマネジメント（危機管理）は、観光におけるあらゆる活動に共通する基本的事項である。この授業では、観光におけるリスクの取り扱い及び危機時の対応について学ぶ。									
授業目標： 将来、観光関係の業務に携わることを想定し、その際のリスクの取り扱い及び危機時の行動についての基礎的素養を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（授業の進め方、授業に臨む際の心構え等） 観光におけるリスクマネジメントの位置づけなど					事前：— 事後：授業に臨む態度の確認 授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応		講義 60分、ディスカッション 30分	
2	観光におけるリスク					事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応		講義 60分、ディスカッション 30分	
3	観光におけるリスクの取り扱いの方法論					事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応		講義 60分、ディスカッション 30分	
4	観光客の立場から見るリスクと危機のマネジメント（国内編）					事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応		講義 60分、ディスカッション 30分	
5	観光客の立場から見るリスクと危機のマネジメント（国際編）					事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応		講義 60分、ディスカッション 30分	
6	外国人観光客の立場から見るリスクと危機のマネジメント					事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応		講義 60分、ディスカッション 30分	
7	従業員の立場から見るリスクと危機のマネジメント					事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応		講義 60分、ディスカッション 30分	
8	経営者の立場から見るリスクと危機のマネジメント					事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応		講義 60分、ディスカッション 30分	
9	観光あっせん、情報提供等の組織（旅行業者等）から見るリスクと危機のマネジメント、観光ビジネスのリスクとその取扱い					事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応		講義 60分、ディスカッション 30分	
10	観光における官の役割と影響並びにそのリスク					事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応		講義 60分、ディスカッション 30分	
11	地域社会から見る観光のリスクと危機のマネジメント					事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応		講義 60分、ディスカッション 30分	
12	観光におけるリスクおよび危機の要因（災害）					事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応		講義 60分、ディスカッション 30分	
13	観光におけるリスクおよび危機の要因（その他）					事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応		講義 60分、ディスカッション 30分	
14	総合的視点の観光のリスク危機マネジメント					事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応		講義 60分、ディスカッション 30分	
15	まとめ					事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応		講義 60分、ディスカッション 30分	
教本： なし									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（レポート等）（60%）、定期試験（40%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業は休まないこと。どんどん自分で考えて発言すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	韓国語 I (Korean I)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	南 春英								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	韓国語を母語としないこと。							
授業概要： 韓国語を初歩から学習する。まず、韓国語の文字・発音を正確に覚え、基本的な文法を学んでいく。									
授業目標： 韓国語の文字（=ハングル）を読み、書けるようにすること、基本的な語彙を習得すること、基本的な文法をマスターすることを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス&韓国語の概要について説明する。 基本母音字の形態と発音を紹介し、読み書きの練習を行う。					事前：なし 事後：母音字を暗記すること		講義 60分 演習 30分	
2	基本母音字の形態と発音を紹介し、読み書きの練習を行う。					事前：母音字を暗記すること 事後：母音字と単語を暗記すること		講義 30分 演習 60分	
3	基本子音字の形態と発音を紹介し、読み書きの練習を行う。 「ㄱ」から「ㄴ」まで					事前：母音字を暗記すること 事後：子音字を暗記すること		講義 60分 演習 30分	
4	基本子音字の形態と発音を紹介し、読み書きの練習を行う。 「ㄷ」から「ㄹ」まで					事前：子音字を暗記すること 事後：子音字を暗記すること		講義 60分 演習 30分	
5	子音字の激音形態と発音を紹介し、読み書きの練習を行う。					事前：子音字を確認すること 事後：激音字を暗記すること		講義 60分 演習 30分	
6	子音字の濃音の形態と発音を紹介し、読み書きの練習を行う。					事前：子音字を確認すること 事後：濃音字を暗記すること		講義 60分 演習 30分	
7	中間試験					事前：復習すること 事後：パッチムを予習すること		講義 30分 演習 60分	
8	終声の「パッチム」の仕組みを紹介し、読み書きの練習を行う。 <k型>から<p型>まで					事前：激音と濃音字を暗記すること 事後：パッチムを暗記すること		講義 60分 演習 30分	
9	終声の「パッチム」の仕組みを紹介し、読み書きの練習を行う。 <m型>から<l型>まで					事前：パッチムを暗記すること 事後：復習すること		講義 60分 演習 30分	
10	合成母音字の形態と発音を紹介し、読み書きの練習を行う。					事前：合成母音字を予習すること 事後：合成母音字を暗記すること		講義 60分 演習 30分	
11	発音変化の仕組みについて説明をし、発音の練習を行う。					事前：合成母音字を暗記すること 事後：例を読み込んで暗記すること		講義 60分 演習 30分	
12	挨拶の言葉を紹介し、読み書きの練習を行う。					事前：発音の変化を暗記すること 事後：挨拶の言葉を暗記すること		講義 60分 演習 30分	
13	発音と会話練習					事前：母音字と子音字の復習をすること 事後：会話練習を行うこと		講義 30分 演習 60分	
14	発音と会話試験					事前：挨拶の言葉と配布文章を暗記すること 事後：全体の語彙を暗記する		講義 30分 演習 60分	
15	全体の復習をする。 筆記試験を行う。					事前：1学期の内容をまとめること 事後：なし		演習 30分 試験 60分	
教本： 「ソウルアカデミー 韓国語 (1)」 蒼学舎 金 宰郁					参考文献：				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等 (20%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 必ず復習をして、授業で学習した内容は当週に覚えましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	韓国語コミュニケーション (Korean Communication)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	金 宰 郁								
履 修 条 件	前提科目	TOPIK(韓国語能力試験) 3級合格、ハングル能力検定試験 3級合格 以上							
	そ の 他	なし							
授業概要： この授業を通じて、単なる「話術」ではなく、適切な発表材料の作成、明快な論旨の展開、適切な韓国語表現等多様な役立つスキルを身につける。									
授業目標： より実践的なプレゼンテーションやディベートの能力を身につけるため、受講学生にはテーマを与え、実際にPPT等を作成し、授業の中でプレゼンテーションやディベートを行わせる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス、韓国語プレゼンテーションの意義を説明する。					事前：教科書の準備をする 事後：資料の確認をする		講義 80分、 ディスカッション 10分	
2	韓国語で自己紹介をする。プレゼンテーションの準備をする。確認シートを作成する。					事前：自己紹介を用意する 事後：韓国語の発音練習		講義 40分、ディスカッション 20分、発表 30分	
3	韓国語プレゼンテーション（個人）の効果的な作成方法を概説する。課題をする。					事前：プレゼン作成方法を調べる 事後：資料の確認をする		講義 50分、 ディスカッション 40分	
4	韓国語プレゼンテーション（個人）においてストーリーシート（企画立案）を作成する。					事前：ストーリーシートの調査 事後：ストーリーシートの作成		講義 50分、 ディスカッション 40分	
5	韓国語プレゼンテーション（個人）においてストーリーシート（構成）、およびコンセプトシートを作成・提出する。					事前：ストーリーシートの調査 事後：ストーリーシートの作成		講義 50分、 ディスカッション 40分	
6	コンセプトシートに基づいて韓国語プレゼンテーションのリハーサルを行う。					事前：リハーサルの準備 事後：資料の確認をする		講義 20分、発表 70分	
7	コンセプトシートに基づいて韓国語プレゼンテーションの実践の個人発表を行う。					事前：プレゼンの準備 事後：発表の振り返り		講義 20分、発表 70分	
8	韓国語プレゼンテーションの実践発表を電子データ化し、上映する。					事前：パソコンの準備 事後：発表の振り返り		講義 20分、 ディスカッション 70分	
9	韓国語プレゼンテーション（グループ）の効果的な作成方法を概説する。課題をする。					事前：プレゼン作成方法を調べる。 事後：プレゼン作成方法を纏める。		講義 50分、 ディスカッション 40分	
10	韓国語プレゼンテーション（グループ）においてストーリーシート（企画立案）を作成する。					事前：ストーリーシートの調査 事後：ストーリーシートの作成		講義 50分、 ディスカッション 40分	
11	韓国語プレゼンテーション（グループ）においてストーリーシート（構成）、およびコンセプトシートを作成・提出する。					事前：ストーリーシートの調査 事後：ストーリーシートの作成		講義 50分、 ディスカッション 40分	
12	コンセプトシートに基づいて韓国語プレゼンテーションのリハーサルを行う。					事前：リハーサルの準備 事後：資料の確認		講義 20分、発表 70分	
13	コンセプトシートに基づいて韓国語プレゼンテーションの実践のグループ発表を行う。					事前：プレゼンの準備 事後：発表の振り返り		講義 20分、発表 70分	
14	韓国語プレゼンテーションの実践発表を電子データ化し、上映する。					事前：パソコンの準備 事後：発表の振り返り		講義 20分、 ディスカッション 70分	
15	まとめ					事前：全資料を下読みする。 事後：発表の振り返り		講義 40分、 ディスカッション 50分	
教本： 「ソウルアカデミー韓国語1」、金宰郁他、蒼学舎、¥2,000					参考文献： 「ソウルアカデミー韓国語1」Workbook、金宰郁他、蒼学舎、¥1,000				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（40%）、課題（30%）、発表（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 初回の授業に必ず出席すること。語学は聞いてから話すものなのでとりあえずCDを聞くこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	韓国文化研究 A (Korean Studies A)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	南 春英								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： この授業では、韓国の文化について学ぶ。韓国の文化に関する基礎知識を身に付け、隣国に対する理解を深めることと、異文化としての韓国を理解することが授業の目的である。									
授業目標： 隣りの国である韓国を身近く感じ、その文化を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 授業内容の説明					事前：なし 事後：韓国に関する情報を集め		講義	
2	韓国の自然環境					事前：韓国ニュースを要約 事後：疑問点などを各自調べる		講義	
3～5	韓国の料理（主食）					事前：韓国ニュースを要約 事後：疑問点などを各自調べる		講義	
6・7	韓国の料理（おかず）					事前：韓国ニュースを要約 事後：疑問点などを各自調べる		講義	
8～10	韓国の料理（調味料、お酒など）					事前：韓国ニュースを要約 事後：疑問点などを各自調べる		講義	
11～14	発表 日本 VS 韓国 伝統文化比較					事前：発表準備 事後：発表の改善点を検討		発表・討論	
15	まとめ					事前：復習 事後：韓国文化理解ができたか		講義	
教本： なし。必要に応じてプリントを配布します。					参考文献： 書籍や文献は授業のなかで随時紹介します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、発表（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 韓国に対する関心を持ち、ニュースや色々な方法を通じて韓国に関する情報を集めておいてください。									
オフィスアワー：初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	韓国文化研究 B (Korean Studies B)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	南 春英								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： この授業では、韓国の文化について学ぶ。韓国の文化に関する基礎知識を身に付け、隣国に対する理解を深めることと、異文化としての韓国を理解することが授業の目的である。									
授業目標： 隣の国である韓国を身近く感じ、その文化を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 授業内容の説明					事前：なし 事後：韓国に関する情報を集め		講義	
2	韓国の経済と産業					事前：韓国ニュースを要約 事後：疑問点などを各自調べる		講義	
3	韓国の世界遺産概要					事前：韓国ニュースを要約 事後：疑問点などを各自調べる		講義	
4～7	韓国の服装（韓服、飾りなど）					事前：韓国ニュースを要約 事後：疑問点などを各自調べる		講義	
8～10	韓国の歳時風俗（しめ縄、トル、祭事など）					事前：韓国ニュースを要約 事後：疑問点などを各自調べる		講義	
11～14	発表 韓国の世界遺産を調べる					事前：発表準備 事後：発表の改善点を検討		発表・討論	
15	まとめ					事前：復習 事後：韓国文化理解ができたか		講義	
教本： なし。必要に応じてプリントを配布します。					参考文献： 書籍や文献は授業のなかで随時紹介します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、発表（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 韓国に対する関心を持ち、ニュースや色々な方法を通じて韓国に関する情報を集めておいてください。									
オフィスアワー：初回講義日に伝える。									

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	監査論 (Auditing)						科目分類	専門科目	
担当教員	高橋 琢也								
履修条件	前提科目	会計学Ⅰ・Ⅱ							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>企業が作成する財務諸表は、必ずしも適正であるとは言えない。そこで、作成した財務諸表が適正に作成されているのかを調査するために、「監査」をする必要がある。本講義では、財務諸表と監査について学ぶ。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>監査の役割やプロセスなどについて理解を深めることを目標とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	法定監査制度と監査の必要性 授業概要を含め、会計監査について解説する。					事前：シラバスを読む 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
2	金融商品取引法に基づく監査制度 金融商品取引法に基づく監査について解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
3	会社法に基づく監査制度 会社法に基づく監査について解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
4	監査基準 監査にかかる基準について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
5	監査のプロセス1（リスク・アプローチ） リスク・アプローチについて解説する					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
6	監査のプロセス2（監査計画） 監査計画の策定等について解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
7	監査のプロセス3（リスク評価・監査手続） 固有リスクや統制リスク等について解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
8	監査のプロセス4（監査意見・監査報告書） 監査意見や監査報告書にかかる事項について解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
9	職業監査と職業倫理 職業監査と職業倫理について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
10	監査と不正 不正や不正リスク等について解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
11	内部統制監査 内部統制や内部統制監査について解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
12	監査の品質 不正リスクを含め、監査の品質管理について解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
13	監査の国際的動向・公監査 監査の国際的動向と公監査について解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
14	四半期レビュー・保証業務 四半期レビューの制度と保証業務について解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
15	問題演習 授業内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
<p>教本：</p> <p>山浦久司『監査論テキスト』（最新版）、中央経済社。</p>					<p>参考文献：</p> <p>長吉眞一 他『監査論入門』（最新版）、中央経済社。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>試験（100％）で評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	漢文学 (Chinese Classical Literature)						科目分類	専門科目	
担当教員	戸高 留美子								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	適宜指示する							
<p>授業概要： 漢和辞典や初歩的な解説書を参照しながら中国古典文学や漢文学について学ぶ。また、現在私たちの生活の中で活用されている故事成語や漢字文化について学ぶ。授業期間の後半は教材のパワーポイントなどをつかひながら受講者自身がグループを組んで発表をする。</p>									
<p>授業目標： 漢詩文の基本的知識を習得する。漢詩文や漢字文化の知識を身に付け自身の生活と結びつける。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 発表のためのグループ分け					事前：教科書の購入 事後：演習問題の解答		ガイダンス 30分	
2	漢字、漢語の成り立ち 基本的文法 返読文字 置字					事前：発表準備 グループ学習 事後：課題の解答：置字		前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分	
3	故事成語 現代に生きる故事成語① 基本的文法 再読文字					事前：発表準備・課題選定 事後：課題の解答：再読文字		前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分	
4	故事成語 現代に生きる故事成語② 基本的文法 否定①					事前：発表準備・調査 事後：課題の解答：否定形①		前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分	
5	漢詩の名作① 漢詩の基本的知識 基本的文法 否定②					事前：発表準備・調査 事後：課題の解答：否定形②		前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分	
6	漢詩の名作② 中国文学史① 文法 特別な読み方をする文字					事前：発表準備・調査まとめ 事後：課題の解答：文法		前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分	
7	親しまれる名文①思想 中国文学史② 基本的文法 使役形					事前：発表準備・発表物作成 事後：課題の解答：使役形		前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分	
8	親しまれる名文②思想 発表① 基本的文法 受身形					事前：発表準備・発表物作成 事後：課題の解答：受身		前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分	
9	親しまれる名文③歴史 発表② 故事成語					事前：発表準備・発表物作成 事後：授業の感想を書く		前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分	
10	親しまれる名文④歴史 基本的文法 発表③ 故事成語					事前：発表準備・発表物作成 事後：授業の感想を書く		前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分	
11	中国由来の日本の文化 節句 発表④ 中国の有名な思想家					事前：発表準備・発表物作成 事後：授業の感想を書く		前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分	
12	日本文学と漢文 発表⑤中国の有名な思想家					事前：発表準備・発表物作成 事後：授業の感想を書く		前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分	
13	日本文学と漢詩 夏目漱石 発表⑥ 中国の有名な詩人					事前：夏目漱石について調べる 事後：本講義全体の振り返り		前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分	
14	学期末試験					事前：学期末試験の準備 事後：学期末試験の復習		学期末試験 90分	
15	学期末試験解説 事後指導・補足など					事前： 事後：		テスト返却 10分、講義 80分	
<p>教本： 配布プリント 『社会人のための漢詩漢文小百科』田部井文雄ほか大修館書店 1990年</p>					<p>参考文献： 『漢詩鑑賞辞典』石川忠久 講談社学術文庫 講談社 2009年 ほか</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 教本をうまく活用しながら課題を達成し発表の準備をしてください。グループ発表の準備は事前に予定を立てメンバー同士連携して取り組んでください。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。授業後15分程度を予定。</p>									

開講年次	4年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	漢文学研究 (Classical Chinese)						科目分類	専門科目	
担当教員	戸高 留美子								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	適宜指示する							
<p>授業概要： 漢和辞典や初歩的な解説書を参照しながら中国古典文学や漢文学について学ぶ。また、現在私たちの生活の中で活用されている故事成語や漢字文化について学ぶ。授業期間の後半は教材のパワーポイントなどをつかひながら受講者自身がグループを組んで発表をする。</p>									
<p>授業目標： 漢詩文の基本的知識を習得する。漢詩文や漢字文化の知識を身に付け自身の生活と結びつける。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 発表のためのグループ分け					事前：教科書の購入 事後：演習問題の解答		ガイダンス 30分	
2	漢字、漢語の成り立ち 基本的文法 返読文字 置字					事前：発表準備 グループ学習 事後：課題の解答：置字		前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分	
3	故事成語 現代に生きる故事成語① 基本的文法 再読文字					事前：発表準備・課題選定 事後：課題の解答：再読文字		前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分	
4	故事成語 現代に生きる故事成語② 基本的文法 否定①					事前：発表準備・調査 事後：課題の解答：否定形①		前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分	
5	漢詩の名作① 漢詩の基本的知識 基本的文法 否定②					事前：発表準備・調査 事後：課題の解答：否定形②		前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分	
6	漢詩の名作② 中国文学史① 文法 特別な読み方をする文字					事前：発表準備・調査まとめ 事後：課題の解答：文法		前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分	
7	親しまれる名文①思想 中国文学史② 基本的文法 使役形					事前：発表準備・発表物作成 事後：課題の解答：使役形		前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分	
8	親しまれる名文②思想 発表① 基本的文法 受身形					事前：発表準備・発表物作成 事後：課題の解答：受身		前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分	
9	親しまれる名文③歴史 発表② 故事成語					事前：発表準備・発表物作成 事後：授業の感想を書く		前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分	
10	親しまれる名文④歴史 基本的文法 発表③ 故事成語					事前：発表準備・発表物作成 事後：授業の感想を書く		前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分	
11	中国由来の日本の文化 節句 発表④ 中国の有名な思想家					事前：発表準備・発表物作成 事後：授業の感想を書く		前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分	
12	日本文学と漢文 発表⑤中国の有名な思想家					事前：発表準備・発表物作成 事後：授業の感想を書く		前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分	
13	日本文学と漢詩 夏目漱石 発表⑥ 中国の有名な詩人					事前：夏目漱石について調べる 事後：本講義全体の振り返り		前回の振り返り 10分 講義 50分 演習 20分 次回予告 10分	
14	学期末試験					事前：学期末試験の準備 事後：学期末試験の復習		学期末試験 90分	
15	学期末試験解説 事後指導・補足など					事前： 事後：		テスト返却 10分、講義 80分	
<p>教本： 配布プリント 『社会人のための漢詩漢文小百科』田部井文雄ほか大修館書店 1990年</p>					<p>参考文献： 『漢詩鑑賞辞典』石川忠久 講談社学術文庫 講談社 2009年 ほか</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 教本をうまく活用しながら課題を達成し発表の準備をしてください。グループ発表の準備は事前に予定を立てメンバー同士連携して取り組んでください。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。授業後15分程度を予定。</p>									

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	管理会計論 (Managerial Accounting)						科目分類	専門科目	
担当教員	川口 修								
履修条件	前提科目	簿記論Ⅰ・Ⅱ、経営管理論Ⅰ・Ⅱ							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>この講義では、企業の目的とそれを達成するために遂行される経営者職能と会計の役立ちを論ずる。企業の活動は、資金の調達から生産・販売・流通に至る広範囲なものであり、最近では製品の廃棄処分に至るまでの過程を考慮することが求められるようになってきている。このような活動を計画しそれを実現・統制するために経営者が存在する。経営者職能は経営の階層によってそれぞれ異なるが、各階層での職務を効率的に遂行するために会計情報が必要とされる。</p> <p>管理会計とは、この会計情報をいう。この講義では、Top Managementの職能に焦点を当てて講義を行う。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>企業の経営管理者にとってその職務遂行に会計情報は、必須のものである。この講義では、経営者の職務・目的の理解とその遂行に必要な会計情報の関連を論ずる。企業経営で行われる管理会計の実務を理解し、その基礎にある考え方を理解することを目標とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	序					事前：テキストの予習 事後：管理会計の理解		講義 90分	
2	財務会計と管理会計					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
3	企業とその目標					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
4	会計情報システム					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
5	管理会計の意義					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
6	経営者職能					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
7	意思決定と計画					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
8	統制					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
9	問題発見のための会計 ①					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
10	問題発見のための会計 ②					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
11	問題発見のための会計 ③					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
12	収益性分析 ①					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
13	安全性分析 ①					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
14	安全性分析 ②					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
15	まとめ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
<p>教本：</p> <p>初回に指示する。</p>					<p>参考文献：</p> <p>「管理会計」岡本・廣本・尾畑・挽著 中央経済社</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（20％）定期試験（80％）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>休まないことと、予習・復習の実施を希望する。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	企業組織法 I (Corporate Law I)						科目分類	専門科目	
担当教員	藤原 俊雄								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 企業組織法とは会社法のことである。会社法は、会社という企業の組織・運営に関する法律であり、会社を通じた経済活動のインフラを提供するというかたちで、国民経済にとって極めて重要な役割を果たしている。この講義では、そのような会社法の内容について学習する。									
授業目標： 本講義は、会社とくに株式会社に関する法制度を学習することによって、会社法に関する法の規整についての基本的な知識を得ることを目標としている。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	会社法上の会社とそれ以外の会社の違いについて検討する。					事前：レジュメの該当箇所の精読 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 90分	
2	会社法上の会社には何があり、それらがどのように違うかを説明できるようにグループディスカッションを行う。					事前：レジュメの該当箇所の精読 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
3	株式会社の設立手続の流れを理解する。そのために代表に発表してもらう。					事前：レジュメの該当箇所の精読 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、報告 30分、まとめ 20分	
4	発起設立と募集設立の違いを理解しかつ説明できるようにグループディスカッションを行う。					事前：レジュメの該当箇所の精読 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
5	株式の概念を理解するとともに有価証券としての株券の機能について説明できるようにグループディスカッションを行う。					事前：レジュメの該当箇所の精読 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
6	株式の多様な存在とその利用目的がそれぞれ説明できるようにグループディスカッションを行う。					事前：レジュメの該当箇所の精読 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
7	株主の権利にはどのようなものがあるか、反対株主の株式買取請求権などの少数株主保護の制度について説明できるようにグループディスカッションを実施する。					事前：レジュメの該当箇所の精読 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
8	会社には何故機関が必要かにつき自然人と比較して検討する。そのため代表者に発表してもらう。					事前：レジュメの該当箇所の精読 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、報告 30分、まとめ 20分	
9	株主総会の招集手続と総会の決議事項について説明できるようにグループディスカッションを行う。					事前：レジュメの該当箇所の精読 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
10	議題と議案について説明できるように代表者の報告をもとに議論する。					事前：レジュメの該当箇所の精読 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、報告 30分、まとめ 20分	
11	取締役、取締役会は何のためにあるのかについて議論することにより、株式会社の業務執行機関の基本構造を説明できるようにする。					事前：レジュメの該当箇所の精読 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、教員の報告 30分、まとめ 20分	
12	業務執行機関としての代表取締役制度について説明できるようにグループディスカッションを徹底する。					事前：レジュメの該当箇所の精読 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
13	監査役・会計監査人は何のために存在するか、その役割を十分実際に果たしているかにつき代表者の報告によって明らかにする。					事前：レジュメの該当箇所の精読 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、報告 30分、まとめ 20分	
14	監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社という比較的新しい会社形態誕生の理由を説明できるようにグループディスカッションをする。					事前：レジュメの該当箇所の精読 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
15	執行役・代表執行役という委員会等設置会社の業務執行機関につき説明できるように代表者の報告に基づき議論する。					事前：レジュメの該当箇所の精読 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、報告 30分、まとめ 20分	
教本： とくにない。					参考文献： 丸山秀平『やさしい会社法〔第14版〕』（法学書院、2021）¥2,400+税				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験（100%）で評価する。									
学生へのアドバイス： 上記のような方式で授業を実施するので、受講者はそれなりの「覚悟」をもって授業に出席しないとけない。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	企 業 組 織 法 II (Corporate Law II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	藤 原 俊 雄								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 企 業 組 織 法 と は 会 社 法 の こ と で あ る 。 会 社 法 と は 、 会 社 と い う 企 業 の 組 織 ・ 運 営 に 関 す る 法 律 で あ り 、 会 社 を 通 じ た 経 済 活 動 の イ ン フ ラ を 提 供 す る と い う か た ち で 、 国 民 経 済 に と っ て 極 め て 重 要 な 役 割 を 果 た し て い る 。 こ の 講 義 で は 、 そ の よ う な 会 社 法 の 内 容 に つ い て 学 習 す る 。									
授 業 目 標 : 本 講 義 は 、 会 社 と く に 株 式 会 社 に 関 す る 法 制 度 を 学 習 す る こ と に よ っ て 、 受 講 生 が 会 社 法 に 関 す る 法 の 規 整 に つ い て の 基 本 的 な 知 識 を 得 る こ と を 目 標 と し て い る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態		
1	競 業 取 引 ・ 利 益 相 反 取 引 が 何 故 規 制 さ れ て い る か 検 討 す る 。				事 前 : レ ジ ュ メ の 該 当 箇 所 の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 90 分		
2	取 締 役 の 報 酬 等 の 規 制 の 理 由 と 内 容 に つ い て 説 明 で き る よ う に グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を 行 う 。				事 前 : レ ジ ュ メ の 該 当 箇 所 の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分 、 ま と め 20 分		
3	役 員 等 の 会 社 に 対 す る 責 任 に つ い て 説 明 で き る よ う に グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を 行 う 。				事 前 : レ ジ ュ メ の 該 当 箇 所 の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分 、 ま と め 20 分		
4	役 員 等 の 第 三 者 に 対 す る 責 任 が 何 故 定 め ら れ て い る か 説 明 で き る よ う に グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を 行 う 。				事 前 : レ ジ ュ メ の 該 当 箇 所 の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分 、 ま と め 20 分		
5	株 主 代 表 訴 訟 ・ 多 重 代 表 訴 訟 制 度 の 内 容 を 説 明 で き る よ う に 、 代 表 者 に 報 告 し て も ら う 。				事 前 : レ ジ ュ メ の 該 当 箇 所 の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分 、 報 告 30 分 、 ま と め 20 分		
6	会 社 計 算 制 度 の 概 要 を 説 明 で き る よ う に 、 代 表 者 に 報 告 し て も ら う 。				事 前 : レ ジ ュ メ の 該 当 箇 所 の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分 、 報 告 30 分 、 ま と め 20 分		
7	募 集 株 式 の 発 行 等 の 手 続 に つ い て 説 明 で き る よ う に グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を 行 う 。				事 前 : レ ジ ュ メ の 該 当 箇 所 の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分 、 ま と め 20 分		
8	新 株 予 約 権 と は ど の よ う な 権 利 か 、 ど の よ う な 使 わ れ 方 を す る か 説 明 で き る よ う に グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を 行 う 。				事 前 : レ ジ ュ メ の 該 当 箇 所 の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分 、 ま と め 20 分		
9	募 集 株 式 の 不 公 正 発 行 等 と は ど の よ う な 場 合 か 説 明 で き る よ う に グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を 行 う 。				事 前 : レ ジ ュ メ の 該 当 箇 所 の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分 、 ま と め 20 分		
10	事 業 譲 渡 ・ 合 併 と は ど の よ う な 組 織 再 編 行 為 か 説 明 で き る よ う に グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を 行 う 。				事 前 : レ ジ ュ メ の 該 当 箇 所 の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分 、 ま と め 20 分		
11	株 式 交 換 ・ 株 式 移 転 と は ど の よ う な 組 織 再 編 行 為 か 説 明 で き る よ う に グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を 行 う 。				事 前 : レ ジ ュ メ の 該 当 箇 所 の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分 、 ま と め 20 分		
12	会 社 分 割 と は ど の よ う な 組 織 再 編 行 為 か 説 明 で き る よ う に グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を 行 う 。				事 前 : レ ジ ュ メ の 該 当 箇 所 の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分 、 ま と め 20 分		
13	社 債 の 制 度 、 社 債 管 理 者 ・ 社 債 権 者 集 会 に つ い て 説 明 で き る よ う に グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を 行 う 。				事 前 : レ ジ ュ メ の 該 当 箇 所 の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分 、 ま と め 20 分		
14	合 同 会 社 と は ど の よ う な 会 社 か 説 明 で き る よ う に グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を 行 う 。				事 前 : レ ジ ュ メ の 該 当 箇 所 の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分 、 ま と め 20 分		
15	会 社 の 解 散 ・ 清 算 に つ い て 説 明 で き る よ う に 代 表 者 に 報 告 し て も ら う 。				事 前 : レ ジ ュ メ の 該 当 箇 所 の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分 、 報 告 30 分 、 ま と め 20 分		
教 本 : と く に な い 。					参 考 文 献 : 丸 山 秀 平 『 や さ し い 会 社 法 〔 第 14 版 〕 』 (法 学 書 院 、 2021) ¥2,400 + 税				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 定 期 試 験 (100%) で 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 上 記 の よ う な 方 式 で 授 業 を 実 施 す る の で 、 受 講 者 は そ れ な り の 「 覚 悟 」 を も っ て 授 業 に 出 席 し な い と い け な い 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

き

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	企業文化論 I (Corporate Culture I)						科目分類	専門科目	
担当教員	小柏 喜久夫								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>個人に個性があるように、企業も個々に企業文化を有しアイデンティティの確立を図っています。また、その一方で、従来の組織構造、コントロール・システム、評価システム、戦略技法の枠組みでは捉えきれない世界を考察するためにも、企業文化の視点の重要性が指摘されています。そこで、この授業では、まず企業文化に関する諸問題を洗い出し、次いでそれらを理解する枠組みを歴史的・理論的視点から整理したうえで、企業文化論の内容を具体的に学習していきます。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>企業文化論のフレームワークを通して企業文化理解の基礎力を養成します。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態		
1	ガイダンス			事前：シラバスの通読 事後：シラバスに沿って要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分		
2	企業文化論生成の背景を1980年代のアメリカに探る			事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により背景をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分		
3	企業文化論の諸問題を俯瞰する			事前：印刷資料の読み取り 事後：ノート・印刷資料により諸問題を整理する			講義 70分 質疑応答 20分		
4	企業文化論の学説(1) — ビーターズ&ウォーターマンの研究を検討する			事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分		
5	企業文化論の学説(2) — ディール&ケネディの研究を検討する			事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分		
6	企業文化論の学説(3) — シャインの研究を検討する			事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分		
7	企業文化論の学説(4) — コッター&ヘスケットの研究を検討する			事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分		
8	企業文化概念を吟味：概念の多義・多様性の理解と本講義での定義づけを行う			事前：印刷資料の読み取り 事後：ノート・印刷資料により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分		
9	企業文化の構造(1) — 文化の構成要素を整理する：基本的仮定、価値観、思考様式			事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分		
10	企業文化の構造(2) — 文化の構成要素を整理する：行動様式、人工物、コミュニケーションズ			事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分		
11	企業文化の機能(1) — 文化の働きを対個人、対組織、対社会において検討する			事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分		
12	企業文化の機能(2) — 文化の逆機能を解説する			事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分		
13	企業文化の類型 — 文化が型をなすことを理解する			事前：印刷資料の読み取り 事後：ノート・印刷資料により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分		
14	企業文化のメカニズムとダイナミズムを解説する			事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分		
15	企業と文化、企業の文化 — 文化の重層性を理解する			事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分		
<p>教本：</p> <p>1. E. H. シャイン 『企業文化』 白桃書房、¥3,500+税 2. 印刷資料も用います。</p>				<p>参考文献：</p> <p>授業の中で随時紹介します。</p>					
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業参加状況等(20%)、小テスト・レポート等(20%)、定期試験(60%)等で総合評価します。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>欠席しないことが大前提です。粘り強い学習努力を期待しています。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝えます。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	企業文化論 I (Corporate Culture I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	仲 伯 維								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>文化がそうであるように「企業文化」も、さまざまな捉え方がある。企業文化は、営利性、公共性、社会性を構成要素として成り立っている。営利性は、企業の継続と成長を制度化し、革新を楽しめる企業利益である。企業の発展にとって、企業文化が大きく関係していることを解明する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>企業の発展と生き残りに企業文化が不可欠であることを理解することが出来る。 企業を社会との関係から捉える視点を身につける。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	組織・経営・企業文化論の系譜					事前：なし 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
2	多彩な文化概念と文化の要素					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
3	企業の知性、そして経営美					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
4	経営理念と企業ビジョン					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
5	目標管理の現状と課題					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
6	企業組織の価値体系					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
7	組織文化・経営文化・企業文化のパターン					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
8	産業文化、業種文化					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
9	企業文化を識る					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
10	企業文化の機能性に関して					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
11	企業文化はどう業績とリンクするか					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
12	業績評価システム					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
13	文化の視点で企業経営を診る					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
14	21世紀の企業像					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
15	企業文化の革新と創造					事前：前回の配布資料を読む 事後：なし		講義	
<p>教本：</p> <p>教材は授業時に配布する。</p>					<p>参考文献：</p> <p>梅澤正『組織文化 経営文化 企業文化』同文館。 村山元英『企業文化論原論』中京大学経営学部。 松村洋平編著『企業文化 経営理念とCSR』学文社。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業内容への参加状況等(30%)、小テスト(10%)、レポート(60%)等で総合評価する。なお、出席回数が2/3以上に満たない場合は評価の対象としない。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>よい成績を得るには、日々の予習・復習、毎回の出席、授業中の積極的な発言が必要になる。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	企業文化論Ⅱ (Corporate Culture II)						科目分類	専門科目	
担当教員	小柏 喜久夫								
履修条件	前提科目	企業文化論Ⅰ							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>「企業文化のダイナミズムを読み解き、そのダイナミズムをマネジメントすることがリーダーないし経営者の仕事である」と言われます。その意味の理解を事例およびモデル学習によりながら深め、企業が自らの文化の確認・形成・再生・変革・創造を行う過程で「変わらぬもの」と「変えるもの」の見極めを通して企業文化のあり方を追求している姿を見ていきます。</p> <p>授業目標：</p> <p>企業文化の構造と機能の理解を深め、企業文化のダイナミズムをマネジメントする力を養います。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態		
1	ガイダンス			事前：シラバスの通読 事後：シラバスに沿って要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分		
2	企業文化のダイナミズムとリーダーシップ——企業文化論から見たリーダーシップの本質を説明する			事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・参考文献により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分		
3	企業文化の形成と定着の過程を説明する			事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・参考文献により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分		
4	事例1 リクルートの組織文化(1)：文化の形成・定着過程の経緯を解説する			事前：教本1の読み取り 事後：ノート・教本1により経緯をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分		
5	事例1 リクルートの組織文化(2)：文化の形成・定着過程を解説する			事前：教本1の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分		
6	事例1 リクルートの組織文化(3)：文化の形成・定着過程に関する課題学習を行う			事前：教本1の熟読 事後：課題学習の自己チェック			講義 45分 小テスト 45分		
7	企業文化の固定化と逆機能の過程を説明する			事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・参考文献により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分		
8	事例2 JR西日本のトラブル(1)：文化の固定化・逆機能過程の経緯を解説する			事前：教本1の読み取り 事後：ノート・教本1により経緯をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分		
9	事例2 JR西日本のトラブル(2)：文化の固定化・逆機能過程を解説する			事前：教本1の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分		
10	事例2 JR西日本のトラブル(3)：文化の固定化・逆機能過程に関する課題学習を行う			事前：教本1の熟読 事後：課題学習の自己チェック			講義 45分 小テスト 45分		
11	企業文化の変革の過程を説明する			事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・参考文献により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分		
12	事例3 GEの変革(1)：文化の変革過程の経緯を解説する			事前：教本1の読み取り 事後：ノート・教本1により経緯をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分		
13	事例3 GEの変革(2)：文化の変革過程を解説する			事前：教本1の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分		
14	事例3 GEの変革(3)：文化の変革過程に関する課題学習を行う			事前：教本1の熟読 事後：課題学習の自己チェック			講義 45分 小テスト 45分		
15	企業文化論のこれから——企業文化論の可能性について述べる			事前：印刷資料の読み取り 事後：ノート・印刷資料により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分		
<p>教本：</p> <p>1. 東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学（第3版）』有斐閣、¥2,700+税 E. H. シャイン『企業文化』白桃書房、¥3,500+税 2. 印刷資料も用います</p>				<p>参考文献：</p>					
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（60%）等で総合評価します。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>欠席しないことが大前提です。粘り強い学習努力を期待しています。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝えます。</p>									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	企 業 文 化 論 II (Corporate Culture II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	仲 伯 維								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>企業と社会の関係はこの数十年の間に大きく変化しており、企業に期待される役割や責任も変わってきている。持続可能な生産と消費というテーマはSDGsの一つとしても位置づけられている。本授業ではこの時代企業経営に何が求められているのか、国内外の潮流を踏まえて考えていく。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>企業の発展と生き残りに企業文化が不可欠であることを理解することが出来る。 企業を社会との関係から捉える視点を身につける。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	企業文化の構造					事前：なし 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
2	企業と文化					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
3	企業文化の創生と形成					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
4	企業文化の変容と変革					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
5	企業文化の理念の側面					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
6	経営理念、行動規範の歴史の変遷					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
7	ビジョナリー・カンパニー					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
8	コーポレート・アイデンティティ					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
9	国民文化と異文化コミュニケーション					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
10	企業文化の国際比較					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
11	企業文化の重要性—企業のケース・スタディからの検証					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
12	グローバル企業文化の構築					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
13	企業文化の倫理的側面					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
14	CSRと企業文化					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
15	ESG、SDGs及び統合報告					事前：前回の配布資料を読む 事後：なし		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
教材は授業時に配布する。					梅澤正『組織文化 経営文化 企業文化』同文館。 村山元英『企業文化論原論』中京大学経営学部。 松村洋平編著『企業文化 経営理念とCSR』学文社。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授業内容への参加状況等(30%)、小テスト(10%)、レポート(60%)等で総合評価する。なお、出席回数が2/3以上に満たない場合は評価の対象としない。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
よい成績を得るには、日々の予習・復習、毎回の出席、授業中の積極的な発言が必要になる。									
オ フ ィ ス ア フ タ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 通年	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	基礎ゼミ I (Preliminary Seminar I)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員									
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>初めての大学生生活に適應できるように、ポートフォリオによる自己管理をしながら自己肯定感を高め、多様な活動によってコミュニケーション力の向上を図る。</p> <p>また、「教えてもらう」から「主体的な学び」への転換を図り、基礎学力の向上と具体的な学修スキルを身につけていく。基礎学力としての「読み・書き・プレゼンテーション力」は、実感を伴った学びを重ねて向上をするようにする。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>①大学生生活に適應するように、ポートフォリオを活用して、目標管理、人間関係づくりをすすめる。</p> <p>②基礎学力（漢字力、語彙力、図書館活用等）の向上と、プレゼンテーション力の向上を図る。</p> <p>③大学生としての学修スキル（ノートの取り方、レポートの書き方、パワーポイント作成等）を身につける。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	聴解力 ・ガイダンスを聞き基礎ゼミ I からの4年間を見通す プレゼン力・レジメを作って自己紹介をする					事前：なし 事後：履修届を提出する		講義・演習	
2	自己決定力 ・履修指導を受けながら時間割表を作成する					事前：担当教員が指示した課題 事後：担当教員が指示した課題		講義・演習	
3	アイデンティティ形成、自己決定力（並行して漢字力の課題） ・ポートフォリオの記入、自己目標と具体的な取り組みを決める					事前：担当教員が指示した課題 事後：清書して提出		講義・演習	
4	コミュニケーション力（並行して漢字力・文章読解の課題） ・ポートフォリオを元に個別面談					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習	
5	コミュニケーション力（並行して漢字力・文章読解の課題） ・ポートフォリオを元に個別面談					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習	
6	アイデンティティ形成、コミュニケーション力 ・スポーツ大会の出場種目を相談して決める					事前：担当教員が指示した課題 事後：担当教員が指示した課題		演習	
7	聴解力、集中力、税の話（税務署員の話）					事前：担当教員が指示した課題 事後：感想文を書く		講義	
8	聴解力、要約力、レジメ力 ・「講義を聞いてノートを取る」 ・ノートの目的、テクニック					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		講義・演習	
9	聴解力、要約力、レジメ力 ・「講義を聞いてノートを取る」 ・実践して、検証する					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習	
10	図書館活用力、聴解力 ・図書館の利用（大学図書館、厚木図書館 要予約）					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		講義・演習	
11	読書力、読解力 ・ビブリオバトルをしよう ・方法を理解し、ワークシート作成					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		講義・演習	
12	読書力、プレゼン力（グループワーク） ・ビブリオバトルを実践する					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習	
13	聴解力、要約力 ・「情報整理」「本を読む」 ・要約のスキル、読書ノートの作成法					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理		講義・演習	
14	ディスカッション力、思考力 ・提示された文章を要約し、意見をまとめ、グループで討議する					事前：資料や原稿のチェック 事後：振り返りをする		演習	
15	アイデンティティ形成（並行して漢字力、文章読解力の課題） ・ポートフォリオに振り返りを記入する。必要に応じて面談する。					事前：前期を振り返る 事後：ポートフォリオ提出する		演習	

16	アイデンティティ形成（並行して漢字力、文章読解力の課題） ・ポートフォリオに後期目標を記入する。必要に応じて面談する。	事前：担当教員が指示した課題 事後：担当教員が指示した課題	実習
17	ディスカッション力、主体的・協働的な態度の育成 ・松蔭祭① 出店に関して相談し、見直しをもつ	事前：出店の考えを持つ 事後：担当教員が指示した課題	演習
18	アイデンティティ形成、主体的・協働的な態度の育成 ・松蔭祭② グループ別相談等	事前：準備を進める 事後：準備を進める	実習
19	アイデンティティ形成、主体的・協働的な態度の育成 ・松蔭祭③ 制作等	事前：担当教員が指示した課題 事後：担当教員が指示した課題	実習
20	理解力、レジュメ力、PCスキル ・パワーポイント作成の方法 文字入力、見出し、箇条書き等	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
21	プレゼン力、要約力、PCスキル ・パワーポイント作成	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
22	聴解力、読解力、要約力 ・「問いを立てる」「レポートを書くとは」構成、原則、引用等	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	講義
23	構成力、要約力、情報収集力（教材は、担当教員が選択、工夫） ・小レポート作成① 構成、資料収集、	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
24	プレゼン力、表現力、PCスキル ・小レポート作成② パワーポイント作成 原稿作成	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
25	プレゼン力、表現力、コミュニケーション力 ・小レポート作成③ 発表 感想交流	事前：資料や原稿のチェック 事後：資料作成、構成を考える	演習
26	構成力、文章力、情報収集力 ・個人レポート作成(1) 問いを立てる、アウトライン、資料読み	事前：資料作成、構成を考える 事後：資料作成、構成を考える	演習
27	プレゼン力 ・個人レポート作成(2) レポート文章作成、資料、	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
28	プレゼン力 ・個人レポート作成(3) 発表 感想交流	事前：担当教員が指示した課題 事後：感想文（振返り）を書く	演習
29	就職力・キャリア指導（キャリアセンター） ・税の話（動画視聴）厚木	事前：進路について考える 事後：感想文（振返り）を書く	講義・演習
30	アイデンティティ形成 ・ポートフォリオに振り返りを記入して提出	事前：ポートフォリオの下書き 事後：なし	演習
教本： ・「アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門」 ￥1,000+税 慶応義塾大学出版会 ・必要な資料を配付します。		参考文献： 漢字検定問題集（多く出版されています。目標に合わせて用意してください。） その他については授業時に指示します。	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価します。 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート（60%）等で総合評価します。			
学生へのアドバイス： 大学生活が始まりました。心機一転、新たな気持ちで多くの人と関係を結び、新しい学びに一生懸命に取り組みましょう。基礎ゼミは週に1回ですが、一番多くのメンバーと会える時間ですから休まずに出席すること。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。			

開講年次	2年次 通年	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	基礎ゼミⅡ (Preliminary Seminar Ⅱ)						科目分類	基礎科目	
担当教員									
履修条件	前提科目	基礎ゼミⅠ							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>ポートフォリオを作成することで、次のステップでの自分をイメージし、自律した大学生活を送りながら自己理解を深める。</p> <p>学修面では、専門科目への興味・関心を持続しながら専門用語の理解、論理的な考えの展開の仕方等を学び、いっそうの基礎力向上とプレゼンテーション能力を高める。また、3年次に向けて卒業後を見据えたキャリアデザインを考えていく。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>①大学生活の充実を図るように、自己目標を設定、管理して、人間関係を広げたり協働したりして自己理解を深める。</p> <p>②基礎学力の向上とともに、学修スキルとして、論理的なレポートの書き方や、専門科目の理解、グループワーク、プレゼンテーション力のいっそうの向上を目指し、主体的に学ぶ。</p> <p>③3年次に向けて、職業の選択肢を検討し、具体的な進路登録カードが作成できるようにする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	聴解力 ・基礎ゼミⅡの1年間の見通しをもつ 自己決定力・履修指導を受けながら時間割表を作成する					事前：なし 事後：履修届を提出する		講義・演習	
2	アイデンティティ形成、自己決定力 ・取得できる免許や資格情報を参考に目標を設定する					事前：ポートフォリオ下書き 事後：目標の内容を再考		講義・演習	
3	コミュニケーション力（並行して漢字力の課題） ・ポートフォリオを元に、個別面談する。					事前：担当教員が指示した課題 事後：ポートフォリオ提出		講義・演習	
4	聴解力、レジュメ力 ・「情報収集の基礎」の講義 情報に対する態度、文書資料					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		講義・演習	
5	聴解力、レジュメ力 ・レポート力・「情報収集の基礎」の講義 資料検索の方法-データベース活用法					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		講義・演習	
6	聴解力、レジュメ力 ・「本を読む」の講義 批判的論理的思考（自分の考え＝思考力）					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習	
7	文章力、思考力 ・「本を読む」の講義 ・クリティカルリーディングとその練習					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		実習	
8	就職力、集中力、聴解力 【税の話】 税務署員の講話を聴く					事前：担当教員が指示した課題 事後：情報整理、感想を書く		演習	
9	集中力、読解力 ・「本を読む」【論文】 クリティカルレビューを理解し、論文を読む					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習	
10	集中力、文章力 ・「本を読む」【論文】 クリティカルレビューを書く					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習	
11	プレゼン力 ・「本を読む」【論文】 クリティカルレビューを発表する					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習	
12	思考力、プレゼン力 ・「情報整理」KJ法の講義 KJ法でグループの意見を整理する					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習	
13	レポート力 (PCスキル) ・「情報整理」EXCELの使い方の基本を知る					事前：担当教員が指示した課題 事後：授業の復習		演習	
14	プレゼン力、自主性 プレゼン大会での発表に向けて① ・プレゼンかポスターか テーマについて話し合う					事前：テーマを考える 事後：進め方、方法を考える		演習	
15	アイデンティティ形成（並行して、基礎力ワーク） ・ポートフォリオに振り返りを記入・面談					事前：前期を振り返る 事後：ポートフォリオ提出する		演習	

16	アイデンティティ形成、自己決定力（並行して、基礎力ワーク） ・ポートフォリオに後期の目標、具体的な取り組みを記入 ・面談	事前：目標を考える 事後：清書して提出する	講義・演習
17	プレゼン力、主体的・協働的な態度の育成 ・クラス単位で、担当教員の指導による	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
18	プレゼン力、主体的・協働的な態度の育成 ・クラス単位で、担当教員の指導による	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
19	プレゼン力、主体的・協働的な態度の育成 ・クラス単位で、担当教員の指導による	事前：準備を進める 事後：準備を進める	演習
20	アイデンティティ形成、主体的・協働的な態度の育成 ・松蔭祭（準備）【別に前日準備あり】	事前：準備を進める 事後：準備を進める	実習
21	アイデンティティ形成 主体的・協働的な態度の育成	事前：担当教員が指示した課題 事後：担当教員が指示した課題	実習
22	就職力、聴解力 【キャリアガイダンス】 【ライフキャリアを考える】	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	講義・演習
23	就職力 ・漢字検定、資格試験、就職試験等の準備をする	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
24	問題発見力 ・テーマ決定 問い 情報・資料収集等	個人テーマのレポート作成① 事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
25	要約力、読解力 ・アウトライン、資料読みを進める 精読カード等	個人テーマのレポート作成② 事前：資料や原稿のチェック 事後：振返りをする	演習
26	読解力、文章力、 ・レポート作成	個人テーマのレポート作成③ 事前：資料や原稿のチェック 事後：振返りをする	演習
27	プレゼン力、コミュニケーション力 ・グループ代表を選ぶ 代表によるプレゼンテーション	個人テーマのレポート作成④ 事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
28	聴解力、就職力 【キャリアガイダンス】 ・就職情報会社による講義	事前：なし 事後：感想文を書く	講義
29	就職力、アイデンティティ形成 【キャリアガイダンス】 ・進路登録カード作成	事前：進路について考える 事後：担当教員に提出	講義・演習
30	アイデンティティ形成 ・ポートフォリオに振り返りをして提出する	事前：ポートフォリオの記入 事後：なし	演習
教本： ・「アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門」 ￥1,000＋税 慶応義塾大学出版会 ・必要な資料を配付します。		参考文献： 授業時に指示します。	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価します。 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート（60%）等で総合評価します。			
学生へのアドバイス： 2年次は基礎から専門へのかけ橋になる学年です。自らの目標に向かって学んで行くことを支えます。授業の時間を大切にすること、分からないときや困ったときには自分から行動することが大事になります。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。			

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	キャリアデザイン (Career Design)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	夏目 千恵子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： キャリアデザインとは、自分の職業人生を自らの手で主体的にデザインすることです。この授業では、主体的にデザインできるスキルを身に付けることができるような授業を行います。									
授業目標： (1)キャリア形成の上での転機が存在を知り、立ち止まって振り返り、修正することが可能であることを理解する。(2)自分の意見や考えを他者に伝えることができる。(3)PDCAサイクルに基づいた行動計画を立てることができる。(4)コミュニケーションを図る上で必要なマナーを習得する。以上4点を本科目の目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	キャリアとは何か					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
2	キャリアデザイン1 これまでの自分を振り返る					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
3	キャリアデザイン2 人生における自分の役割					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
4	キャリアデザイン3 未来の自分 (ライフイベント・人生の転機)					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
5	社会を知る1 社会と自分のキャリアの関連性					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
6	社会を知る2 働くとは何か					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
7	社会におけるルールのいろいろ					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
8	社会人基礎力について					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
9	大学生生活の目標 (PDCA を含む)					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
10	好感をもたれる人「第一印象」					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
11	言葉遣い					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
12	コミュニケーション「聴く、話す、話し合う」					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
13	電話応対					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
14	訪問のマナー					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
15	文書作成					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義 40分 グループワーク 50分	
教本： 稲本恵子・北村伊都子・白井弘子・田中美和・太原靖一郎・和田百子著「キャリアデザイントレーニング～キャリア理論/自己理解/社会人基礎力」(見洋書房)					参考文献： なし				
成績評価の方法、評価基準： 定期試験 (60%)、レポート (20%)、平常点 (20%)。到達目標が達成できたかを評価する。									
学生へのアドバイス： 変化の激しい世の中では自分のキャリアは自分の力で考えて作っていくことが求められます。自分の将来や大学生生活を豊かにしていくためにはどうしたら良いか、授業を通じて考えていきましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日にお伝えします。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	教育課程・保育課程論 (Curriculum and Early Childhood Education Courses) (子ども)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	野 末 晃 秀								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>保育の計画の意義と必要性、保育の計画の歴史を理解し、実際の教育課程、保育課程、指導計画を例に取った分析や評価・改善について学ぶ。また、保育の計画の基準となる「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の基本を理解する。保育制度が急激に変化している中、教育課程・保育課程を知ることで、新しい保育を考え、組み立てる力を養うとともに、保育の計画全体を把握することで、保育の基本を見直す機会とする。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>教育課程・保育課程の意味、果たす役割をとらえ、教育課程・保育課程の編成の重要性を理解するとともに、子どもたちの姿や地域の実情等を踏まえた教育課程・保育課程の編成の在り方、評価・改善していくためのカリキュラム・マネジメントについて理解する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション (授業の進め方と評価について) カリキュラムの意味と保育計画					事前：特になし 事後：本授業の復習		講義 90分	
2	幼稚園教育要領、保育所保育指針の理解：カリキュラム・マネジメントとは					事前：指針、要領の講読 事後：本授業の復習		講義 90分	
3	幼稚園・保育所の歴史とカリキュラム (明治期・大正期・昭和期・平成期)					事前：歴史・思想の確認 事後：本授業の復習		講義 90分	
4	認定こども園の歴史・法律・カリキュラム (創設の背景とその役割)					事前：歴史・思想の確認 事後：本授業の復習		講義 90分	
5	幼稚園教育要領・保育所保育指針の歴史的展開					事前：テキストを読む 事後：本授業の復習		講義 90分	
6	絵本を用いた保育実践と教育課程・保育課程					事前：指針、要領の講読 事後：本授業の復習		講義 90分	
7	乳幼児期の子どもの発達と保育の計画					事前：子どもの発達の理解 事後：本授業の復習		講義 90分	
8	指導計画作成に当たっての基本的な考え方					事前：指導計画の理解 事後：本授業の復習		講義 90分	
9	指導計画作成の実際					事前：テキストを読む 事後：本授業の復習		講義 90分	
10	幼稚園・保育所における指導計画の基本的な考え方と留意点					事前：テキストを読む 事後：本授業の復習		講義 90分	
11	生涯学び続ける力の育成と教育課程・保育課程					事前：テキストを読む 事後：本授業の復習		講義 90分	
12	地域社会を生かした保育実践と教育課程・保育課程					事前：地域について知る 事後：本授業の復習		講義 60分、 グループ活動 30分	
13	命を大切にすることを培う保育実践と教育課程・保育課程					事前：道徳について知る 事後：本授業の復習		講義 90分	
14	自然環境を生かした保育実践と教育課程・保育課程					事前：環境について調べる 事後：本授業の復習		講義 90分	
15	教育課程・保育課程の評価と今後の展望					事前：考えをまとめる 事後：特になし		講義 60分、 グループ討議 30分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
<p>文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館(2017年告示) 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館(2017年告示) 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館(2017年告示) 谷田貝公昭・石橋哲成監修『コンパクト版保育者養成シリーズ教育・保育課程論』一藝社(2018年)</p>					<p>文部科学省『指導計画の作成と保育の展開』 フレーベル館(2013年)</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等 (10%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (70%) 等で総合評価する。</p>									
<p>学 生 へ の ア ド バ イ ス :</p>									
<p>「保育所保育指針」や「幼稚園教育要領」には目を通しておいください。</p>									
<p>オ フ ィ ス ア フ タ ー :</p>									
<p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	実習
授業科目(英文)	教育実習 I (幼稚園) (Teaching Practice at Kindergarten I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大沢 裕・中村淳子・野末晃秀・野川智子								
履 修 条 件	前提科目	教育実習事前事後指導 I							
	そ の 他	2 年次末までに修得しなければならない専門科目 (卒業必修科目) 38単位のうち30単位以上を修得していること。							
<p>授業概要：</p> <p>幼稚園教諭一種免許状取得のためには、教育実習 I と教育実習 II をそれぞれ 3 年生と 4 年生でそれぞれ 2 週間ずつ履修しなければならない。教育実習 I (幼稚園) 2 週間の観察実習及び参加実習等を通して、授業で学んだ幼児の発達や幼児への関わりなどをより具体的な場面で学び、幼稚園教育がどのような目標のもとに実現されていくのかを確認し実際の幼稚園教諭の仕事の仕方にも触れながら将来への希望や期待をもって自己課題を模索していくものとする。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>教育実習 I (幼稚園) では保育観察・保育参加・部分実習を基本とし、主に以下について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 幼稚園の役割や機能、一日の流れについて。 • 幼稚園教諭の役割や職務内容の理解。 • 幼児の発達段階に応じた環境や教材について学ぶ。 • 幼児とのかかわりを通して幼児理解の目を養うとともに幼児期にふさわしい保育内容及び指導・援助を学ぶ。 									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
<p>1 教育実習の計画…3 年次 2 週間の教育実習計画について知る。</p> <p>2 事前学習：事前に実習園でのオリエンテーションを受ける…実習園の特徴や保育方法や教育方針について理解する。実習中の行事や予定や生活の流れ事前準備などについて確認する。</p> <p>3 3 歳児とのかかわり…①遊びに参加することで 3 歳児の遊びの楽しさはどこになるのか、それを通じた学びとはどのようなものであるのかを考察する。担任の動きや援助の実際を学ぶ。 ② 3 歳児の興味にあった手遊びや絵本や紙芝居の読み聞かせなどをする。反省評価をする。</p> <p>4 4 歳児とのかかわり…① 4 歳児クラスで幼児と関わり遊びに加わり参加することで 4 歳児の遊びの楽しさを感じ取る。 また、担任の動きや援助の実際を学ぶ。 ② 4 歳児にふさわしい、手遊びや絵本や紙芝居の読み聞かせなどをする。反省評価をする。</p> <p>5 5 歳児とのかかわり…① 5 歳児クラスで幼児と関わり遊びに加わり参加することで 5 歳児の遊びの楽しさを感じ取るとともに担任の動きや援助の実際を学ぶ。また、「修了までに育てほしい 10 の姿」を実際の遊びの中から考察する。 ② 5 歳児にふさわしい、手遊びや絵本や紙芝居の読み聞かせなどをする。反省評価をする。</p> <p>6 部分指導案の作成…部分指導案を作成し、実習園からの指導を受け、部分実習に向けた準備を行う。</p> <p>7 部分実習 I …指導案に沿って実際の保育を展開する、反省評価をする、実習園からの指導を受ける。</p> <p>8 部分実習 II …改善した新たな指導案の下、新たな部分実習を行う。反省評価をする、実習園からの指導を受ける。</p> <p>9 2 週間の振り返り…教育実習 I 全体について実習園の担当教員より指導を受け、自ら振り返り、今後の課題を明確にする。</p> <p>※事前事後指導については教育実習事前事後指導 I の授業で行う。</p>									
<p>教本：</p> <p>久富陽子編、2008『実習に行くまえに知っておきたい保育実技 児童文化財の魅力とその活用・展開』萌文書林 (ISBN : 4893470760)</p> <p>相馬和子・中田カヨ子編、2018『幼稚園・保育所実習－実習日誌の書き方』萌文書林 (ISBN : 4893470817)</p>					<p>参考文献：</p> <p>「幼稚園教育要領解説」 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説」</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>実習園からの評価 (60%)、実習日誌による評価 (40%) (実習日誌に部分指導案を添付することを評価の条件とする)。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1 年時から学んできた幼稚園教育の目標や幼児期の子どもの発達、指導計画の作成などについて復習しておく。 • 紙芝居、絵本手遊びなど授業で体験してきたことをもとにパネルシアターやペープサートなどの教材を事前にいくつか作成しておく。 • ピアノなど保育技術を磨き、オリエンテーションで示された曲が弾けるように事前に練習し実習に臨む。 									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。 実習前に必ず面接し、準備したことが確認できるよう、オフィスアワーの活用を呼び掛ける。</p>									

開 講 年 次	4 年 次 通 年	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	実 習
授 業 科 目 (英 文)	教 育 実 習 II (幼 稚 園) (Teaching Practice at Kindergarten II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	大 沢 裕 ・ 中 村 淳 子 ・ 野 末 晃 秀 ・ 野 川 智 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	教 育 実 習 事 前 事 後 指 導 II							
	そ の 他	教 育 実 習 (幼 稚 園) I							
授 業 概 要 : 幼 稚 園 教 諭 一 種 免 許 状 取 得 の た め に は 、 教 育 実 習 I と 教 育 実 習 II を そ れ ぞ れ 3 年 生 と 4 年 生 で そ れ ぞ れ 2 週 間 づ つ 履 修 し な け れ ば な ら ない 。 教 育 実 習 II (幼 稚 園) 2 週 間 の 観 察 実 習 及 び 参 加 実 習 等 を 通 じ て 、 授 業 で 学 ん だ 幼 児 の 発 達 や 幼 児 へ の 関 与 な ど を よ り 具 体 的 な 場 面 で 学 び 、 幼 稚 園 教 育 が ど の よ う な 目 標 の も と に 実 現 さ れ て い く の か を 確 認 し 実 際 の 幼 稚 園 教 諭 の 仕 事 の 仕 方 に も 触 れ な が ら 将 来 へ の 希 望 や 期 待 を も っ て 自 己 課 題 を 模 索 し て い く も の と す る 。									
授 業 目 標 : 教 育 実 習 II (幼 稚 園) で は 保 育 観 察 ・ 保 育 参 加 ・ 部 分 実 習 を 基 本 と し 、 主 に 以 下 に つ い て 学 ぶ 。 <ul style="list-style-type: none"> • 幼 稚 園 の 役 割 や 機 能 、 一 日 の 流 れ に つ い て 。 • 幼 稚 園 教 諭 の 役 割 や 職 務 内 容 の 理 解 。 • 幼 児 の 発 達 段 階 に 応 じ た 環 境 や 教 材 に つ い て 学 ぶ 。 • 幼 児 と の か か わ り を 通 じ て 幼 児 理 解 の 目 を 養 う と と も に 幼 児 期 に ふ さ わ し い 保 育 内 容 及 び 指 導 ・ 援 助 を 学 ぶ 。 									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			○			◎			
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1 教 育 実 習 の 計 画 … 4 年 次 2 週 間 の 教 育 実 習 計 画 に つ い て 知 る 。 2 事 前 学 習 : 事 前 に 実 習 園 で の オ リ エ ン テ ー シ ョ ン を 受 け る … 実 習 園 の 特 徴 や 保 育 方 法 や 教 育 方 針 に つ い て 理 解 す る 。 実 習 中 の 行 事 や 予 定 や 生 活 の 流 れ 事 前 準 備 な ど に つ い て 確 認 す る 。 3 3 歳 児 と の か か わ り … ① 遊 び に 参 加 す る こ と で 3 歳 児 の 遊 び の 楽 し さ は ど こ に な る の か 、 そ れ を 通 じ た 学 び と は ど の よ う な も の で あ る の か を 考 察 す る 。 担 任 の 動 き や 援 助 の 実 際 を 学 ぶ 。 ② 3 歳 児 の 興 味 に あ っ た 手 遊 び や 絵 本 や 紙 芝 居 の 読 み 聞 か せ な ど を す る 。 反 省 評 価 を す る 。 4 4 歳 児 と の か か わ り … ① 4 歳 児 ク ラ ス で 幼 児 と 関 わ り 遊 び に 加 わ り 参 加 す る こ と で 4 歳 児 の 遊 び の 楽 し さ を 感 じ 取 る 。 ま た 、 担 任 の 動 き や 援 助 意 図 や ね ら い を 読 み 取 り 実 習 生 と し て 子 ど も へ 積 極 的 に か か わ る 。 ② 4 歳 児 に ふ さ わ し い 、 手 遊 び や 絵 本 や 紙 芝 居 の 読 み 聞 か せ な ど を す る 。 反 省 評 価 を す る 。 5 5 歳 児 と の か か わ り … ① 5 歳 児 ク ラ ス で 幼 児 の 遊 び に 加 わ り 参 加 す る こ と で 5 歳 児 の 遊 び の 楽 し さ を 感 じ 取 る と と も に 担 任 の 動 き や 援 助 の 実 際 を 学 ぶ 。 ま た 、 「 修 了 ま で に 育 っ て ほ し い 10 の 姿 」 を 実 際 の 遊 び の 中 か ら 考 察 す る 。 ② 5 歳 児 に ふ さ わ し い 、 手 遊 び や 絵 本 や 紙 芝 居 の 読 み 聞 か せ な ど を す る 。 反 省 評 価 を す る 。 6 部 分 指 導 案 の 作 成 … 部 分 指 導 案 を 作 成 し 、 実 習 園 か ら の 指 導 を 受 け 、 一 斉 活 動 の 部 分 実 習 に 向 け た 準 備 を 行 う 。 7 部 分 実 習 … 指 導 案 に 沿 っ て 実 際 の 保 育 を 展 開 す る 、 反 省 評 価 を す る 、 実 習 園 か ら の 指 導 を 受 け る 。 8 一 日 実 習 … 責 任 実 習 と も 言 う 。 登 園 か ら 降 園 ま で の 一 日 の 流 れ を 考 え 、 ね ら い 、 内 容 を 幼 児 の 実 態 に 即 して 立 て 、 一 日 実 習 の 指 導 案 を 作 成 す る 。 事 前 に 、 担 任 の 指 導 を 受 け 実 践 す る 。 (一 斉 活 動 の 内 容 な ど 楽 し い も の を 考 え る) 9 2 週 間 の 振 り 返 り … 教 育 実 習 II 全 体 に つ い て 実 習 園 の 担 当 教 員 よ り 指 導 を 受 け 、 自 ら 振 り 返 り 今 後 の 課 題 を 明 確 に す る 。 ※ 事 前 事 後 指 導 に つ い て は 教 育 実 習 事 前 事 後 指 導 II の 授 業 で 行 う 。									
教 本 : 相 馬 和 子 ・ 中 田 カ ヨ 子 編 、 2018 『 幼 稚 園 ・ 保 育 所 実 習 一 実 習 日 記 の 書 き 方 』 萌 文 書 林 (ISBN : 4893470817) 久 富 陽 子 編 、 2008 『 実 習 に 行 く ま え に 知 っ て お き た い 保 育 実 技 一 児 童 文 化 財 の 魅 力 と そ の 活 用 ・ 展 開 一 』 萌 文 書 林 (ISBN : 4893470760)					参 考 文 献 : 「 幼 稚 園 教 育 要 領 解 説 」 「 幼 保 連 携 型 認 定 こ ど も 園 教 育 ・ 保 育 要 領 解 説 」				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 実 習 園 か ら の 評 価 (60%)、 実 習 日 誌 に よ る 評 価 (40%) (実 習 日 誌 に 一 日 指 導 案 を 添 付 す る こ と を 評 価 の 条 件 と す る) 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : <ul style="list-style-type: none"> • 1 年 時 か ら 学 ん で き た 幼 稚 園 教 育 の 目 標 や 幼 児 期 の 子 ど も の 発 達 、 指 導 計 画 の 作 成 な ど に つ い て 復 習 し て お く 。 • 紙 芝 居 、 絵 本 手 遊 び な ど 授 業 で 体 験 し て き た こ と を も と に パ ネ ル シ ア タ ー や ペ ー プ ー サ ー ト な ど の 教 材 を 事 前 に い く つ か 作 成 し て お く 。 • ピ ア ノ な ど 保 育 技 術 を 磨 き 、 オ リ エ ン テ ー シ ョ ン で 示 さ れ た 曲 が 弾 け る よ う に 事 前 に 練 習 し 実 習 に 臨 む 。 									
オ フ ィ ス ア フ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。 実 習 前 に 必 ず 面 接 し 、 準 備 し た こ と が 確 認 で き る よ う 、 オ フ ィ ス ア フ ー の 活 用 を 呼 び 掛 け る 。									

開講年次	3年次 半期	選択・必修	必修	単位数	1	時間数	30	授業形態	授業・演習
授業科目(英文)	教育実習事前事後指導Ⅰ(幼稚園)(Pre- & Post-Guidance on Teaching Practice I (Kindergarten))							科目分類	専門科目
担当教員	大沢 裕・中村淳子・野末晃秀・野川智子								
履修条件	前提科目	2年次までに修得しなければならない専門科目(卒業必修科目)38単位のうち30単位以上を修得していること。							
	その他	なし							
<p>授業概要:</p> <p>教育実習の意義や目的について理解し、幼稚園における実習生として自分がどのように学んでいくか、明確な課題をもって取り組めるように意識を高めていく。</p> <p>指導計画から指導案までの仕組みを理解するとともに、実習ノートの書き方について理解するようになる。さらに、幼児の発達段階に応じた指導内容を理解し、ふさわしいねらいを立てて指導案を作成することができるよう部分指導案の作成の仕方を学ぶ。</p> <p>作成した指導案をもとに保育の展開、環境構成がふさわしいか模擬保育を通して振り返り改善していく。また、幼児の気持ちの理解や担任としての言葉使いなど保育に必要な基礎的技術を学び、実習への意欲付けをしていく。</p> <p>実習後の振り返りを通して自己課題を見出し、次の実習に向けての準備をどのようにしていくか考える機会を持つ。お礼状の書き方など具体的に学び、実習後の実習生としての姿勢やあり方を確認していく。</p>									
<p>授業目標:</p> <p>幼児理解に基づき、幼稚園において教育実習生として保育観察、参加を経て部分実習を行うために必要な実践的指導力を身につける。日々教育活動が展開されている園において教員としての自覚と幼児への愛情をもって関わることのできる基礎を身につけていく。教育実習の学びを通して教育者としての資質・能力や適性を自覚し、振り返りを通して自己課題を見出しさらなる実践力を高めるための意欲を持つようになる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態	
1	オリエンテーション、教育実習Ⅰの意義と目的・内容について学ぶ。 幼稚園の一日の流れ					事前:教育実習の手引きを読んでおく 事後:一日の流れのプリントを仕上げ次回提出		講義	
2	指導案の作成(1)ねらいと内容、保育の展開、環境の構成など書き方の基本を学ぶ。 ①「朝の受け入れ」の部分指導案を作成する					事前:一日の流れを復習しておく 事後:(1)指導案を仕上げ次回提出		講義・演習	
3	指導案の作成(2)降園時の活動の指導案を作成する。 ピアノ弾き歌い・手遊び実技①②(2人ずつ新しい曲にチャレンジ(皆の前で演じる))					事前:手遊び実技の担当者は練習しておく 事後:(2)指導案を仕上げ次回提出		講義・演習	
4	指導案の作成(3)紙芝居、絵本の読み聞かせの部分指導案を作成する。 ピアノ弾き歌い・手遊び③④					事前:手遊び実技の担当者は練習しておく 事後:(3)指導案を仕上げ次回提出		講義・演習	
5	指導案の作成(4)歌の指導、ゲームなど部分指導についての部分指導案を作成する。 ピアノ弾き歌い・手遊び⑤⑥					事前:実技の担当者は練習しておく 事後:指導案(4)-1、2を仕上げ次回提出		講義・演習	
6	模擬保育(1)指導案をもとに担任役と園児役になって保育の場面のロールプレイをする。ピアノ弾き歌い・手遊び⑦⑧					事前:指導案を事前に作成し人数分印刷しておく 事後:直したものを次回提出		演習	
7	模擬保育(2)指導案をもとに担任役と園児役になって保育の場面のロールプレイをする。ピアノ弾き歌い・手遊び⑨⑩					事前:指導案を事前に作成し人数分印刷しておく 事後:直したものを次回提出		演習	
8	模擬保育(3)指導案をもとに担任役と園児役になって保育の場面のロールプレイをする。ピアノ弾き歌い・手遊び⑪⑫					事前:指導案を事前に作成し人数分印刷しておく 事後:直したものを次回提出		演習	
9	模擬保育(4)ロールプレイから振り返り、保育に必要な基本的技能や言葉使いについて学ぶ。ピアノ弾き歌い・手遊び⑬⑭					事前:指導案を事前に作成し人数分印刷しておく 事後:直したものを次回提出		演習	
10	個人調書の書き方・幼稚園教育実習の個人目標の設定 実習日誌の書き方・保育記録・実習生の気づきなど実習日記の具体的記入の仕方を学ぶ。絵本・紙芝居の実演①②③④					事前:実習の手引きを持参する 事後:教科書と手引きと日誌を照らしあわせる		講義・演習	
11	一日の振り返り・実習全体の反省・お礼状の書き方などについて学ぶ 絵本・紙芝居の実演⑤⑥⑦					事前:実技の準備をしておく 事後:実技を振り返り改善する		講義・演習	
12	絵本・紙芝居の実演⑧⑨⑩					事前:実技の練習に向き合う 事後:実技を振り返り改善する		演習	
13	実習の手引きを熟読し身だしなみの確認 実習準備にあたる教材の作成・指導案の作成					事前:教材を作成して持参する 事後:指導案を作成して持参する		講義	
14	実習後の評価表に基づき個別の振り返りをして次回の実習へ課題をもてるようにする。 実習日誌の提出、個別面談(1)					事前: 事後:実習後の反省		教員との面談	
15	実習後の評価表に基づき個別の振り返りをして次回の実習へ課題をもてるようにする。 個別面談(2)					事前: 事後:実習後の反省		教員との面談	
<p>教本:</p> <p>「幼稚園教育実習の手引き」松蔭大学作成 相馬和子・中田カヨ子編、2018『幼稚園・保育所実習一実習日記の書き方』萌文書林(ISBN:4893470817) 久富陽子編、2008『実習に行くまえに知っておきたい保育実技一児童文化財の魅力とその活用・展開一』萌文書林(ISBN:4893470760)</p>					<p>参考文献:</p> <p>「幼稚園教育要領解説」 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』</p>				
成績評価の方法、評価基準:平常の授業参加状況等(20%)、実技・模擬保育等(40%)、指導案作成・提出物(40%)等で総合評価する。(尚、全授業出席しない場合には実習に参加できないこととする)									
<p>学生へのアドバイス:</p> <p>教育実習生として事前身につける必要な指導案の作成ができているか、実際のロールプレイを通して実践的な力を身につけたか、実際の教材を作成しているか確認していく。</p> <p>教育実習に向けて具体的な自己課題を持って実習に臨むことができたか、実習後の振り返りと園からの評価票に基づき個別面談を通して実習の成果を確認する。</p>									
<p>オフィスアワー:</p> <p>初回講義日に伝える。指導案作成など具体的な内容について個別指導できるようオフィスアワーを設けている。活用して十分な準備ができるようにする。</p>									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	授 業 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	教 育 実 習 事 前 事 後 指 導 II (幼 稚 園) (Pre- & Post-Guidance on Teaching Practice II (Kindergarten))							科 目 分 類	専 門 科 目
担 当 教 員	大 沢 裕 ・ 中 村 淳 子 ・ 野 末 晃 秀 ・ 野 川 智 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	教 育 実 習 事 前 事 後 指 導 I (幼 稚 園) 及 び 教 育 実 習 I (幼 稚 園) を 修 得 し て い る こ と。							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 教育実習の意義や目的について理解し、幼稚園における実習生として自分がどのように学んでいくか、明確な課題をもって取り組めるように意識を高めていく。 指導計画から指導案までの仕組みを理解するとともに、実習ノートの書き方について理解するようになる。さらに、幼児の発達段階に応じた指導内容を理解し、ふさわしいねらいを立てて指導案を作成することができるよう部分指導案の作成の仕方を学ぶ。 作成した指導案をもとに保育の展開、環境構成がふさわしいか模擬保育を通して振り返り改善していく。また、幼児の気持ちの理解や担任としての言葉使いなど保育に必要な基礎的技術を学び、実習への意欲付けをしていく。 実習後の振り返りを通して自己課題を見出し、自分の課題を克服し、就職へ向けての意欲につなげる。お礼状の書き方など具体的に学び、実習後の実習生としての姿勢やあり方を確認していく。									
授 業 目 標 : 幼児理解に基づき、幼稚園において教育実習生として保育観察、参加を経て部分実習を行うために必要な実践的指導力を身につける。日々教育活動が展開されている園において教員としての自覚と幼児への愛情をもって関わることのできる基礎を身につけていく。教育実習の学びを通して教育者としての資質・能力や適性を自覚し、振り返りを通して自己課題を見出しさらなる実践力を高めるための意欲を持つようになる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○						◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション、教育実習Ⅱの意義と目的・内容について学ぶ。 幼稚園の一日の流れ					事前：教育実習の手引きを読んでおく 事後：一日の流れのプリントを仕上げ次回提出		講義	
2	指導案の作成 (1) ねらいと内容、保育の展開、環境の構成など。 ①自分で実習中に行う活動計画を立てる。					事前：一日の流れを復習しておく 事後：(1)指導案を仕上げ次回提出		講義・演習	
3	指導案の作成 (2) 自分で実習中に行う部分実習に関する活動の指導案を作成する。 ピアノ弾き歌い・手遊び実技①② (2人ずつ新しい曲にチャレンジ (皆の前で演じる))					事前：手遊び実技の担当者は練習しておく 事後：(2)指導案を仕上げ次回提出		講義・演習	
4	指導案の作成 (3) 紙芝居、絵本の読み聞かせの部分指導案を作成する。 ピアノ弾き歌い・手遊び③④					事前：手遊び実技の担当者は練習しておく 事後：(3)指導案を仕上げ次回提出		講義・演習	
5	指導案の作成 (4) 歌の指導、ゲームなど部分指導についての部分指導案を作成する。 ピアノ弾き歌い・手遊び⑤⑥					事前：実技の担当者は練習しておく 事後：指導案(4)-1、2を仕上げ次回提出		講義・演習	
6	模擬保育 (1) 指導案をもとに担任役と園児役になって保育の場面のロールプレイをする。 ピアノ弾き歌い・手遊び⑦⑧ (ふれあいあそびなど)					事前：指導案を事前に作成し人数分印刷しておく 事後：直したものを次回提出		演習	
7	模擬保育 (2) 指導案をもとに担任役と園児役になって保育の場面のロールプレイをする。 ピアノ弾き歌い・手遊び⑨⑩ (一斉活動・作って遊ぶ)					事前：指導案を事前に作成し人数分印刷しておく 事後：直したものを次回提出		演習	
8	模擬保育 (3) 指導案をもとに担任役と園児役になって保育の場面のロールプレイをする。 ピアノ弾き歌い・手遊び⑪⑫ (一斉活動・ゲームなど)					事前：指導案を事前に作成し人数分印刷しておく 事後：直したものを次回提出		演習	
9	模擬保育 (4) ロールプレイから振り返り、保育に必要な基本的技能や言葉使いについて学ぶ。 ピアノ弾き歌い・手遊び⑬⑭ (一日指導案を作成する)					事前：指導案を事前に作成し人数分印刷しておく 事後：直したものを次回提出		演習	
10	個人調書の書き方・幼稚園教育実習の個人目標の設定 実習日誌の書き方・保育記録・実習生の気づきなど書き方の再確認をする。保育の中での声かけなど出し合う。絵本・紙芝居の実演①②③④					事前：実習の手引きを持参する 事後：教科書と手引きと日誌を照らしあわせる		講義・演習	
11	一日の振り返り・実習全体の反省・お礼状の書き方などについて再確認をする。 絵本・紙芝居の実演⑤⑥⑦					事前：実技の準備をしておく 事後：実技を振り返り改善する		講義・演習	
12	絵本・紙芝居の実演⑧⑨⑩ (3、4、5歳児・季節にふさわしいものを選ぶ)					事前：実技の練習に向き合う 事後：実技を振り返り改善する		演習	
13	実習の手引きを熟読し身だしなみの確認 実習準備にあたる教材の作成・指導案の作成 (3、4、5歳児にふさわしいものを作る)					事前：教材を作成して持参する 事後：指導案を作成して持参する		講義	
14	実習後の評価表に基づき個別の振り返りをして自己課題をもち課題にする。 実習日誌の提出、個別面談 (1)					事前： 事後：実習後の反省		教員との面談	
15	実習後の評価表に基づき個別の振り返りをして自己課題をもち克服する気持ちを高めていく。個別面談 (2)					事前： 事後：実習後の反省		教員との面談	
教 本 : 「幼稚園教育実習の手引き」松蔭大学作成 相馬和子・中田カヨ子編、2018『幼稚園・保育所実習一実習日記の書き方』萌文書林 (ISBN: 4893470817) 久富陽子編、2008『実習に行くまえに知っておきたい保育実技一児童文化財の魅力とその活用・展開一』萌文書林 (ISBN: 4893470760)					参 考 文 献 : 「幼稚園教育要領解説」 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説』				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 平 常 の 授 業 参 加 状 況 等 (20%)、実 技 ・ 模 擬 保 育 等 (40%)、指 導 案 作 成 ・ 提 出 物 (40%) 等 で 総 合 評 価 す る。(尚、全 授 業 出 席 し な い 場 合 に は 実 習 に 参 加 で き な い こ と と す る)									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 教育実習生として事前に身につける必要な指導案の作成ができているか、実際のロールプレイを通して実践的な力を身につけたか、実際の教材を作成しているか確認していく。 教育実習に向けて具体的な自己課題を持って実習に臨むことができたか、実習後の振り返りと園からの評価票に基づき個別面談を通して実習の成果を確認する。									
オ フ ィ ス ア フ タ ー : 初回講義日に伝える。指導案作成など具体的な内容について個別指導できるようオフィスアワーを設けている。活用して十分な準備ができるようにする。									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	教育心理 (Educational Psychology)						科目分類	専門科目	
担当教員	中村 淳子								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 教育心理学は教育実践と深く結びついた学問です。教育者を目指す人は、より良い教育活動を行うために子どもや児童・生徒を深く理解し、その発達援助に貢献しなくてはなりません。そのため本講座では、人の発達過程、学習行動、学級集団がもたらす人間関係の発達や不適応問題など様々な側面から教育実践に関する知識と理解を深めることを目指します。また、「合理的配慮」の法案が成立したことの意義も鑑みて、発達障害等の理解、特別支援教育についても事例を踏まえて学んでいきます。									
授業目標： 1. 人間の発達や成長の過程を学び、教育活動に生かす方法を考える。 2. 学習行動のメカニズムや集団の心理を学び、効果的な教授法を考える。 3. 問題行動や障害について理解を深め、支援方法について学ぶとともに教育者としての資質について考える。 4. この科目は、幼児期の子どもの発達について、多角的かつ総合的な理解力を有する人材を養成する科目である。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	教育心理学とは？－教育心理学の意義					事前：事後：教育心理学の意義についてまとめる		講義 70分 振返り 20分	
2	発達を知ること－(1)発達理論					事前：発達理論の予習 事後：まとめ		講義 70分 振返り 20分	
3	発達を知ること－(2)各時期の発達の様相（乳児期～学童期）					事前：乳児期～学童期の発達について予習 事後：		講義 70分 振返り 20分	
4	発達を知ること－(3)各時期の発達の様相（思春期～老年期）					事前：思春期～老年期について調べる 事後：講義2、3、4の復習		講義 70分 振返り 20分	
5	学習行動を知ること－(1)学習理論					事前：学習について調べる 事後：学習理論のまとめ		講義 60分 討議 30分	
6	学習行動を知ること－(2)教授理論					事前：教えることについて考えておく 事後：教授理論のまとめ		講義 60分 討議 30分	
7	学習行動を知ること－(3)動機づけ理論					事前：動機づけについて調べる 事後：5、6、7の復習とノート整理		講義 60分 討議 30分	
8	知能と学力の関係をj知ること－(1)知能の理論					事前：知能について調べる 事後：知能理論のまとめ		講義 70分 振返り 20分	
9	知能と学力の関係をj知ること－(2)知能と学力の関係					事前：学力について調べる 事後：8、9の復習とノートの整理		講義 60分 討議 30分	
10	教えることと評価すること－(1)評価することの意味					事前：評価について調べる 事後：評価の意味をまとめる		講義 70分 振返り 20分	
11	教えることと評価すること－(2)より良い授業実践とは？					事前：授業実践の工夫を考えてくる。 事後：討議内容をまとめる		講義 30分 討議 60分	
12	学級集団と人間関係を知ること－人間関係の発達と集団					事前：集団について調べる 事後：10、11、12の復習とノートの整理		講義 30分 討議 60分	
13	問題行動と生徒理解－(1)適応・不適応と生徒理解					事前：適応・不適応について考えてくる。 事後：問題行動の理解をまとめる		講義 30分 発表 60分	
14	問題行動と生徒理解－(2)教育相談					事前：教育相談について調べる 事後：13、14の復習とノートの整理		講義 30分 発表 60分	
15	障害理解と支援－障害の種類と支援の方法					事前：障害について調べる 事後：障害支援についてまとめる		発表 60分 講義 30分	
教本： 使用しない。適宜、参考資料を配布。									
参考文献： 田中智志／橋本美保監修 遠藤司編著 新・教職課程シリーズ 教育心理学 一藝社 ¥2,200 子安増生／田中俊也／南風原朝和／伊東裕司著 ベーシック現代心理学 教育心理学第3版 有斐閣 ¥2,100									
成績評価の方法、評価基準： 評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業では、一方的な講義ではなく、学生に考えてもらう時間も用意します。また、単元によっては前もって発表者を決めておき、プレゼンテーションを行ってもらうこともあります。中村から質問したり、学生からの意見を受けたりなど活気のある授業にしたいと思います。受け身な態度ではなく、自身の考えを表現できるように心がけてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。水曜日の昼休み。									

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	行政法Ⅰ (Administrative Law I)						科目分類	専門科目	
担当教員	柳 裕治								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>私たちは、日常生活・仕事において、さまざまな場面で「行政」と関わりを持っています。この行政に関する様々な法律を総称して行政法といいます。この様々な法律は共通する原理原則により構築され、運営されています。本講義では、行政法の諸概念・原理原則の基礎的知識修得のため、下記の内容について行政判例研究を交えて体系的に説明していく。また、行政に関する時事問題にも触れ、行政に関する幅広い知識を修得する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>行政法の基礎的知識・行政的思考の修得</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス（行政法Ⅰ学修の概要）					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義	
2	行政法学修の実益					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
3	行政法の基本構造					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
4	法律による行政の原理					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
5	行政法の一般原則					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
6	法行政上の法律関係					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
7	行政組織法					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
8	行政基準					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
9	行政行為					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
10	行政裁量					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
11	行政契約					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
12	行政指導					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
13	行政計画					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
14	行政調査					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
15	総括（終了テスト・解説）					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
<p>教本： 参考文献： 櫻井恵子・橋本博之『行政法（第6版）』弘文堂（2019年8月） 適宜指定 行政法ⅠⅡは同じテキスト使用</p>									
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>小テスト・授業参加状況等（20%）、終了テスト（80%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>行政法ⅠⅡをセットで履修することが望ましい。新聞等で取り上げられている行政に関する記事に興味を持ち、調べるようにしてください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	行政法Ⅱ (Administrative Law Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担当教員	柳 裕治								
履修条件	前提科目	なし (行政法Ⅰの単位取得が望ましい)							
	その他								
<p>授業概要：</p> <p>私たちは、日常生活・仕事において、さまざまな場面で「行政」と関わりを持っています。この行政に関する様々な法律を総称して行政法といいます。この様々な法律は共通する原理原則により構築され、運営されています。本講義では、行政法の諸概念・原理原則の基礎的知識修得のため、下記の内容について行政判例研究を交えて体系的に説明していく。また、行政に関する時事問題にも触れ、行政に関する幅広い知識を修得する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>行政法の基礎知識・行政法的思考の修得</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	ガイダンス (行政法Ⅱ学修の概要)					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義	
2	行政上の義務履行確保					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
3	行政罰					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
4	行政手続					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
5	情報公開・個人情報保護					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
6	行政上の救済手続					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
7	行政事件訴訟法概観					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
8	取消訴訟(1)訴訟要件					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
9	取消訴訟(2)審理・判決・執行停止・教示					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
10	取消訴訟以外の抗告訴訟					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
11	当事者訴訟・争点訴訟					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
12	国家賠償・損失補償					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
13	警察法・公物法					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
14	租税法・環境法					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
15	総括 (終了テスト・解説)					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
<p>教本：</p> <p>櫻井恵子・橋本博之『行政法 (第6版)』弘文堂 (2019年8月)</p> <p>行政法ⅠⅡは同じテキスト使用</p>					<p>参考文献：</p> <p>適宜指定</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>小テスト・授業参加状況等 (20%)、終了テスト (80%) 等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>行政法ⅠⅡをセットで履修することが望ましい。新聞等で取り上げられている行政に関する記事に興味を持ち、調べるようにしてください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	近代文学(散文)(Study of Modern Japanese)						科目分類	専門科目	
担当教員	中村 龍一								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： (1) 国文学史を踏まえ、近代文学が抱えた困難と成立までを代表的作家の作品講読で説明・研究する。 (2) 近代小説の基本的「〈読み〉の原理」を習得する。									
授業目標： (1) 小説講読による演習を中心に講義を進める。日本の近代小説の主流となった田山花袋等の「私小説」と森鷗外、夏目漱石、芥川龍之介、谷崎潤一郎等の「〈他者性〉を内包する小説」を比較して考察する。 (2) 演習によって近代小説の「〈読み〉の方法」を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態	
1	・日本の近代化と文学(オリエンテーション)					事前：なし 事後：感想200字		講義60分、話し合い30分	
2	・坪内逍遙「小説神髓」と言文一致の文体					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義30分、作品を読む30分、話し合い30分	
3	・自然主義の日本化と田山花袋「蒲団」					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義30分、作品を読む30分、話し合い30分	
4	・田山花袋「蒲団」を読む					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義30分、作品を読む30分、話し合い30分	
5	・森鷗外の自然主義批判と「高瀬舟」					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義30分、作品を読む30分、話し合い30分	
6	・森鷗外「高瀬舟」を読むⅠ					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義30分、作品を読む30分、話し合い30分	
7	・森鷗外「高瀬舟」を読むⅡ					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義30分、作品を読む30分、話し合い30分	
8	・芥川龍之介と近代小説「地獄変」					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義30分、作品を読む30分、話し合い30分	
9	・芥川龍之介「地獄変」を読むⅠ					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		作品を読む60分、話し合い30分	
10	・芥川龍之介「地獄変」を読むⅡ					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義30分、作品を読む30分、話し合い30分	
11	・夏目漱石の自然主義批判と「夢十夜」					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義30分、作品を読む30分、話し合い30分	
12	・夏目漱石「夢十夜」を読むⅠ					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		作品を読む45分、話し合い45分	
13	・夏目漱石「夢十夜」を読むⅡ					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義30分、作品を読む30分、話し合い30分	
14	・志賀直哉「城崎にて」を読み、「末期の目」の世界観認識を考える					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		作品を読む30分、話し合い30分、講義30分	
15	・「物語と小説」の峻別とは何か?					事前：なし 事後：感想1200字		講義30分、まとめ60分	
教本： 『語り論』が拓く文学の授業(中村龍一著 ひつじ書房)					参考文献： ・授業時に紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加意欲等(20%)、小テスト・レポート等(40%)、定期試験(40%)等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： レポート課題をしっかりと提出する。									
オフィスアワー： 水曜日昼休み。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	近 代 文 学 (韻 文) (Study of Modern Japanese)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	徳 本 善 彦								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
(1) 日 本 近 代 文 学 に お け る 詩 の 流 れ を 学 び、代 表 的 詩 人 の 作 品 を 鑑 賞 す る。(2) 作 品 を 精 読 し、声 に 出 して 読 む こ と で 言 葉 の 新 し い 価 値 を 見 出 し、詩 の 世 界 を よ り 深 く 理 解 す る。									
授 業 目 標 :									
(1) 日 本 近 代 詩 史 を 踏 ま え、近 代 詩 人 の 代 表 的 作 品 を 鑑 賞 す る。(2) 基 本 的 な 詩 の 「読 み」か た を 習 得 し、レ ポ ー ト 課 題 を 通 じ て 自 分 な り の 作 品 論 を 書 く。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	「新 体 詩 抄」の 中 の 数 篇 の 詩 を 題 材 に し て 近 代 詩 と は 何 か に つ い て 考 え ま す。近 代 以 前 と の 違 い を 議 論 し ま す。					事 前 : 散 文 に つ い て 調 べ る 事 後 : 内 容 の ま と め		講 義 60 分、グ ル ー プ ワ ー ク 20 分、発 表 10 分	
2	森 鷗 外 の 訳 詩 や 北 村 透 谷 の 試 論 を 題 材 に し て 新 し い 詩 (ポ エ ト リ ー) に つ い て 考 え ま す。問 題 点 を 話 し 合 い ま す。					事 前 : プ リ ン ト の 予 習 事 後 : 内 容 の ま と め		講 義 60 分、グ ル ー プ ワ ー ク 20 分、発 表 10 分	
3	鳥 崎 藤 村 の 詩 を 基 に、浪 漫 主 義 と 恋 愛 に つ い て 考 え ま す。問 題 点 を 話 し 合 い 議 論 し ま す。					事 前 : プ リ ン ト の 予 習 事 後 : 内 容 の ま と め		講 義 60 分、グ ル ー プ ワ ー ク 20 分、発 表 10 分	
4	上 田 敏 「海 潮 音」な ど を 題 材 に、象 徴 主 義 の 詩 に つ い て 学 び ま す。調 べ た こ と を 基 に 話 し 合 い ま す。					事 前 : 課 題 作 を 読 ん で く る 事 後 : 内 容 の ま と め		講 義 60 分、グ ル ー プ ワ ー ク 20 分、発 表 10 分	
5	北 原 白 秋 の 詩 作 品 を 扱 い、「ふ る さ と」と い う 言 葉 の 歴 史 性 に つ い て 学 び ま す。問 題 点 を 見 出 し 話 し 合 い ま す。					事 前 : 課 題 作 を 読 ん で く る 事 後 : 内 容 の ま と め		講 義 60 分、グ ル ー プ ワ ー ク 20 分、発 表 10 分	
6	石 川 啄 木 と 短 歌。詩 以 外 の 短 詩 型 文 芸 に つ い て 学 び ま す。近 代 以 前 の 作 品 と の 違 い を 考 え 議 論 し ま す。					事 前 : 課 題 作 を 読 ん で く る 事 後 : 内 容 の ま と め		講 義 60 分、グ ル ー プ ワ ー ク 20 分、発 表 10 分	
7	萩 原 朔 太 郎 や 山 村 暮 鳥 な ど 「感 情」詩 派 の 作 品 に つ い て 学 び ま す。「り ん ご」や 「竹」な ど の モ チ ー フ に つ い て 議 論 し ま す。					事 前 : 課 題 作 を 読 ん で く る 事 後 : 内 容 の ま と め		講 義 60 分、グ ル ー プ ワ ー ク 20 分、発 表 10 分	
8	大 正 期 の 詩 に つ い て。大 正 期 の 時 代 状 況、文 化 風 俗 に つ い て 学 び、詩 や 小 説 な ど の 文 芸 と の 関 わ り に つ い て 話 し 合 い ま す。					事 前 : 課 題 作 を 読 ん で く る 事 後 : 内 容 の ま と め		講 義 60 分、グ ル ー プ ワ ー ク 20 分、発 表 10 分	
9	高 村 光 太 郎 「道 程」を 題 材 に し、改 稿 前 の テ ク ス ト と 読 み 比 べ る こ と で 問 題 点 を あ ぶ り 出 し 議 論 し ま す。					事 前 : 課 題 作 を 読 ん で く る 事 後 : 内 容 の ま と め		講 義 60 分、グ ル ー プ ワ ー ク 20 分、発 表 10 分	
10	宮 沢 賢 治 「永 訣 の 朝」や 「オ ッ ベ ル と 象」な ど 詩 と 童 話 に つ い て 考 え 議 論 し ま す。					事 前 : 課 題 作 を 読 ん で く る 事 後 : 内 容 の ま と め		講 義 60 分、グ ル ー プ ワ ー ク 20 分、発 表 10 分	
11	モ ダ ニ ズ ム と 短 詩 運 動。ダ イ ズ ム や シ ュ ル レ ア リ ズ ム な ど に つ い て 学 び 短 詩 運 動 に つ い て 考 え ま す。					事 前 : 課 題 作 を 読 ん で く る 事 後 : 内 容 の ま と め		講 義 60 分、グ ル ー プ ワ ー ク 20 分、発 表 10 分	
12	梶 井 基 次 郎 の 詩 を 扱 い な が ら、散 文 詩 に つ い て 考 え ま す。詩 と 散 文 の 違 い が ど こ に あ る の か を 議 論 し ま す。					事 前 : 課 題 作 を 読 ん で く る 事 後 : 内 容 の ま と め		講 義 60 分、グ ル ー プ ワ ー ク 20 分、発 表 10 分	
13	中 原 中 也 の 詩 を 扱 い な が ら、オ ノ マ ト ベ の 面 白 さ や 言 葉 の リ ズ ム に つ い て 学 び ま す。問 題 点 を 話 し 合 い ま す。					事 前 : 課 題 作 を 読 ん で く る 事 後 : 内 容 の ま と め		講 義 60 分、グ ル ー プ ワ ー ク 20 分、発 表 10 分	
14	草 野 心 平 の 詩 を 題 材 に し て、「か え る」を モ チ ー フ に し て 詩 を 書 き 続 け た こ と の 意 味 を 考 え 話 し 合 い ま す。					事 前 : 課 題 作 を 読 ん で く る 事 後 : 内 容 の ま と め		講 義 60 分、グ ル ー プ ワ ー ク 20 分、発 表 10 分	
15	太 平 洋 戦 争 を 題 材 に し た 詩 を 数 篇 題 材 に し て、戦 争 と 詩 の 問 題 に つ い て 考 え ま す。考 え た こ と を ま と め て 発 表 し ま す。					事 前 : 課 題 作 を 読 ん で く る 事 後 : レ ポ ー ト 準 備		講 義 60 分、グ ル ー プ ワ ー ク 20 分、発 表 10 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
授 業 で 資 料 を 配 布 し ま す。					教 室 で 提 示 し ま す。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 平 常 点 (50%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
授 業 で 詩 を じ っ くり 読 ん で、レ ポ ー ト 課 題 に 取 り 組 み ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開講年次	4年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	近代文学研究 A (散文) (Study of Modern Japanese Literature A)						科目分類	専門科目	
担当教員	中村 龍一								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： (1) 国文学史を踏まえ、近代文学が抱えた困難と成立までを代表的作家の作品講読で説明・研究する。 (2) 近代小説の基本的「〈読み〉の原理」を習得する。									
授業目標： (1) 小説講読による演習を中心に講義を進める。日本の近代小説の主流となった田山花袋等の「私小説」と森鷗外、夏目漱石、芥川龍之介、谷崎潤一郎等の「〈他者性〉を内包する小説」を比較して考察する。 (2) 演習によって近代小説の「〈読み〉の方法」を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	・日本の近代化と文学 (オリエンテーション)					事前：なし 事後：感想200字		講義 60分、話し合い 30分	
2	・坪内逍遙「小説神髓」と言文一致の文体					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義 30分、作品を読む 30分、話し合い 30分	
3	・自然主義の日本化と田山花袋「蒲団」					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義 30分、作品を読む 30分、話し合い 30分	
4	・田山花袋「蒲団」を読む					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義 30分、作品を読む 30分、話し合い 30分	
5	・森鷗外の自然主義批判と「高瀬舟」					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義 30分、作品を読む 30分、話し合い 30分	
6	・森鷗外「高瀬舟」を読む I					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義 30分、作品を読む 30分、話し合い 30分	
7	・森鷗外「高瀬舟」を読む II					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義 30分、作品を読む 30分、話し合い 30分	
8	・芥川龍之介と近代小説「地獄変」					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義 30分、作品を読む 30分、話し合い 30分	
9	・芥川龍之介「地獄変」を読む I					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		作品を読む 60分、話し合い 30分	
10	・芥川龍之介「地獄変」を読む II					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義 30分、作品を読む 30分、話し合い 30分	
11	・夏目漱石の自然主義批判と「夢十夜」					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義 30分、作品を読む 30分、話し合い 30分	
12	・夏目漱石「夢十夜」を読む I					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		作品を読む 45分、話し合い 45分	
13	・夏目漱石「夢十夜」を読む II					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義 30分、作品を読む 30分、話し合い 30分	
14	・志賀直哉「城崎にて」を読み、「末期の目」の世界観認識を考える					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		作品を読む 30分、話し合い 30分、講義 30分	
15	・「物語と小説」の峻別とは何か？					事前：なし 事後：感想1200字		講義 30分、まとめ 60分	
教本： 『語り論』が拓く文学の授業 (中村龍一著 ひつじ書房)					参考文献： ・授業時に紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加意欲等 (20%)、小テスト・レポート等 (40%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： レポート課題をしっかりと提出する。									
オフィスアワー： 水曜日昼休み。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	近代文学研究 B (韻文) (Study of Modern Japanese Literature B)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	徳 本 善 彦								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
(1) 日本近代文学における詩の流れを学び、代表的詩人の作品を鑑賞する。(2) 作品を精読し、声に出して読むことで言葉の新しい価値を見出し、詩の世界をより深く理解する。									
授 業 目 標 :									
(1) 日本近代詩史を踏まえ、近代詩人の代表的作品を鑑賞する。(2) 基本的な詩の「読み」かたを習得し、レポート課題を通して自分なりの作品論を書く。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	「新体詩抄」の中の数篇の詩を題材にして近代詩とは何かについて考えます。近代以前との違いを議論します。					事前：散文について調べる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
2	森鷗外の訳詩や北村透谷の試論を題材にして新しい詩(ポエトリー)について考えます。問題点を話し合います。					事前：プリントの予習 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
3	島崎藤村の詩を基に、浪漫主義と恋愛について考えます。問題点を話し合い議論します。					事前：プリントの予習 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
4	上田敏「海潮音」などを題材に、象徴主義の詩について学びます。調べたことを基に話し合います。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
5	北原白秋の詩作品を扱い、「ふるさと」という言葉の歴史性について学びます。問題点を見出し話し合います。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
6	石川啄木と短歌。詩以外の短詩型文芸について学びます。近代以前の作品との違いを考え議論します。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
7	萩原朔太郎や山村暮鳥など「感情」詩派の作品について学びます。「りんご」や「竹」などのモチーフについて議論します。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
8	大正期の詩について。大正期の時代状況、文化風俗について学び、詩や小説などの文芸との関わりについて話し合います。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
9	高村光太郎「道程」を題材にし、改稿前のテキストと読み比べることで問題点をあぶり出し議論します。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
10	宮沢賢治「永訣の朝」や「オツベルと象」など詩と童話について考え議論します。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
11	モダニズムと短詩運動。ダダイズムやシュルレアリズムなどについて学び短詩運動について考えます。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
12	梶井基次郎の詩を扱いながら、散文詩について考えます。詩と散文の違いがどこにあるのかを議論します。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
13	中原中也の詩を扱いながら、オノマトペの面白さや言葉のリズムについて学びます。問題点を話し合います。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
14	草野心平の詩を題材にして、「かえる」をモチーフにして詩を書き続けたことの意味を考え話し合います。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
15	太平洋戦争を題材にした詩を数篇題材にして、戦争と詩の問題について考えます。考えたことをまとめて発表します。					事前：課題作を読んでくる 事後：レポート準備		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
授業で資料を配布します。					教室で提示します。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 平常点 (50%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
授業で詩をじっくり読んで、レポート課題に取り組みましょう。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	金融概論 (Introduction to finance)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	宮 崎 隆								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
授 業 概 要 : 金融論の入門編です。金融論は近年「貨幣的経済学」や「ファイナンス」、「貨幣論」などと呼ぶこともありますが、何れも個人の金融や銀行のしくみと役割、国の金融政策を含みます。本講座はさらに国際金融やバーチャル・マネー(仮想通貨)、クレジット(消費者信用)にもふれます。									
授 業 目 標 : マネーに関する知識の習得。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス：金融論の意味と範囲 (1)貨幣とは何か (2)身の回りの金融の問題					事前：なし 事後：用語表を作成(継続)		講義	
2	家計と金融1： (1)家計の資産と負債 (2)収入と支出、貯蓄について (3)統計					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義	
3	家計と金融2： (1)家計の金融資産(中・長期) (2)預貯金の種類と特徴、金融指標の見方					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義	
4	家計と金融3： (1)クレジット(消費者信用)とは (2)クレジットカード (3)キャッシング他					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義	
5	国際金融論： (1)為替レートとは何か (2)為替レートはなぜ変動するか (3)円高と円安 (4)リスク・ヘッジ 他					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義	
6	銀行論1： (1)わが国の銀行の分類と役割 (2)バンキングとは何か (3)金融統計					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義	
7	銀行論2：中央銀行の役割 (1)世界の中央銀行 (2)わが国の中央銀行(日本銀行)の機能					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義	
8	金融政策1： (1)金融政策と財政政策 (2)日本銀行の政策と近年の動向 (3)統計					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義	
9	金融政策2： (1)インフレーションと失業の選択 (2)ケインジアン vs. マネタリスト政策論争					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義	
10	金融政策3： (1)マネタリズムとは何か (2)新自由主義経済学 (3)合理的予想理論を導入したマクロ経済学					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義	
11	投資の経済学1： (1)投資とは何か (2)株式会社と株式市場 (3)投資の実際 (4)統計					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義	
12	投資の経済学2： (1)指標・データの見方 (2)投資市場分析 (3)近年の動向					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義	
13	バーチャル・マネー(仮想通貨)： (1)種類と解釈 (2)投資対象としての仮想通貨 (3)問題点					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義	
14	保険の経済学： (1)リスクマネジメント (2)保険の基本構造 (3)生命保険 (4)損害保険					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義	
15	本講座のまとめ					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義	
教 本 : 適宜、資料を配布します。					参 考 文 献 : 初回講義日に提示します。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授業参加状況等 (20%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 勉強する項目は比較的多いですが、身近なトピックスもあります。必ずや今後の経済活動に役立ちます。									
オ フ ィ ス ア ヱ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	金融概論 I (Introduction to finance I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	宮 崎 隆								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
授 業 概 要 : 金融論の入門編です。金融論は近年「貨幣的経済学」や「ファイナンス」、「貨幣論」などと呼ぶこともありますが、何れも個人の金融や銀行のしくみと役割、国の金融政策を含みます。本講座はさらに国際金融やバーチャル・マネー(仮想通貨)、クレジット(消費者信用)にもふれます。									
授 業 目 標 : マネーに関する知識の習得。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス：金融論の意味と範囲 (1)貨幣とは何か (2)身の回りの金融の問題					事前：なし 事後：用語表を作成(継続)		講義	
2	家計と金融1： (1)家計の資産と負債 (2)収入と支出、貯蓄について (3)統計					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義	
3	家計と金融2： (1)家計の金融資産(中・長期) (2)預貯金の種類と特徴、金融指標の見方					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義	
4	家計と金融3： (1)クレジット(消費者信用)とは (2)クレジットカード (3)キャッシング他					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義	
5	国際金融論： (1)為替レートとは何か (2)為替レートはなぜ変動するか (3)円高と円安 (4)リスク・ヘッジ 他					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義	
6	銀行論1： (1)わが国の銀行の分類と役割 (2)バンキングとは何か (3)金融統計					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義	
7	銀行論2：中央銀行の役割 (1)世界の中央銀行 (2)わが国の中央銀行(日本銀行)の機能					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義	
8	金融政策1： (1)金融政策と財政政策 (2)日本銀行の政策と近年の動向 (3)統計					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義	
9	金融政策2： (1)インフレーションと失業の選択 (2)ケインジアン vs. マネタリスト政策論争					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義	
10	金融政策3： (1)マネタリズムとは何か (2)新自由主義経済学 (3)合理的予想理論を導入したマクロ経済学					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義	
11	投資の経済学1： (1)投資とは何か (2)株式会社と株式市場 (3)投資の実際 (4)統計					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義	
12	投資の経済学2： (1)指標・データの見方 (2)投資市場分析 (3)近年の動向					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義	
13	バーチャル・マネー(仮想通貨)： (1)種類と解釈 (2)投資対象としての仮想通貨 (3)問題点					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義	
14	保険の経済学： (1)リスクマネジメント (2)保険の基本構造 (3)生命保険 (4)損害保険					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義	
15	本講座のまとめ					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義	
教 本 : 適宜、資料を配布します。					参 考 文 献 : 初回講義日に提示します。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授業参加状況等 (20%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 勉強する項目は比較的多いですが、身近なトピックスもあります。必ずや今後の経済活動に役立ちます。									
オ フ ィ ス ア フ タ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	グローバル化と文化A (Globalization and Culture A)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	安倍 幸								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： グローバル化という言葉は日々、耳にします。しかし、よくある「グローバルスタンダードに従うにはどうすればいいのか」という言説には一定の疑いを持ってみる必要を説くことを主な目的とします。文化人類学の立場から、広いまなざしで考察してみましよう。									
授業目標： 何をもってグローバル化と考えるのか、その基準を自分自身の中に作り上げること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	グローバル化とはどのような現象か					事前：特になし 事後：なし		講義 90分	
2	文化のグローバル化					事前：特になし 事後：ノート		講義 90分	
3	経済人類学と交易港					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
4	経済のグローバル化と文化のグローバル化					事前：なし 事後：ノート		講義 90分	
5	リージョナリズムとローカリズム					事前：安倍論文（配布） 事後：ノート		講義 90分	
6	文化の支配－被支配					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
7	文化資本化の現象					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
8	世界的価値変動					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
9	SNSがグローバル化に果たしている役割					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
10	民俗文化とグローバル化					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
11	民俗文化とグローバル化2					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
12	グローバル化を前にした生活文化の変容					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
13	グローバル化を前にした生活文化の変容2					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
14	コスプレ文化はグローバルなものか					事前：自分とコスプレ 事後：授業資料		講義 90分	
15	まとめと復習					事前：なし 事後：なし		講義かレポート	
教本： 使用しません。					参考文献： 授業内で紹介する。たくさん読んでください。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 多面的な人間社会の現実と照らし合わせて考えてみましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	グローバル化と文化B (Globalization and Culture B)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	安倍 幸								
履 修 条 件	前提科目	グローバル化と文化A							
	そ の 他	なし							
授業概要： グローバル化と文化Aを受けて、世界の文化のなかにおける日本文化の地位を論じてゆく。映画、アニメ、音楽などの海外向け日本文化と日本人にとっての日本文化は、どこが同じでどこが異なるのかを考えていきます。									
授業目標： 何をもってグローバル化と考えるのか、その基準を自分自身の中に作り上げること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	グローバル化と文化Aの復習					事前：なし 事後：ノート		講義 90分	
2	日本映画のグローバル化					事前：なし 事後：ノート		講義 90分	
3	日本映画のグローバル化2					事前：なし 事後：ノート		講義 90分	
4	映画にみる日本文化					事前：なし 事後：ノート		講義 90分	
5	「ゴジラ」の国際的評価					事前：なし 事後：ノート		講義 90分	
6	「ゴジラ」の国際的評価2					事前：なし 事後：ノート		講義 90分	
7	「大魔神」					事前：なし 事後：ノート		講義 90分	
8	「大魔神」の国際的評価					事前：なし 事後：ノート		講義 90分	
9	「グレンダイザー」というアニメの物語					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
10	J-popの成立					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
11	日本におけるロック					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
12	J-popの国際的評価					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
13	洋楽と日本のポップミュージック					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
14	コスプレ文化とグローバル化					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
15	まとめと復習					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
教本： 使用しません。					参考文献： 授業内で紹介する。たくさん読んでください。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 私たちがいかに常識や良識にとらわれているか、心を真っ白にする努力をしてみましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									